

令和6年5月15日

地方創生特別委員会

こども若者政策課

(仮称) 浜松市こども計画の策定に係るアンケート調査結果について

- 1 市町村こども計画の概要について
- 2 (仮称) 浜松市こども計画の策定に係るアンケート調査結果について 別紙

(仮称) 浜松市こども計画の策定に係るアンケート調査結果

(仮称) 浜松市こども計画の策定に係るアンケート調査結果について

こども家庭部 こども若者政策課

1 市町村こども計画の概要について

(1) 趣旨

令和5年4月1日施行の「こども基本法」に基づき、令和7年3月を目途に市町村こども計画を策定するにあたり、こども基本法や市町村こども計画、計画策定スケジュールについて説明するもの。

(2) こども基本法

令和5年4月1日、次代の社会を担うすべての子どもが将来にわたって幸福な生活を送ることができる社会の実現を目指して「こども基本法」が施行された。

ア こども大綱（こども基本法第9条）

こども基本法の基本的施策の一つとして、こども大綱（こども政策を総合的に推進するため、こども施策に関する大綱）の策定が国に義務付けられた。

こども大綱はこども施策に関する基本的な方針、重要事項を定めるものであり、これまで別々に作られてきた「少子化社会対策大綱」「子供・若者育成支援推進大綱」「子供の貧困対策に関する大綱」が束ねられ一元化されることとなった。

イ 市町村こども計画（こども基本法第10条）

市町村はこども大綱や県のこども計画を勘案し、こども施策についての計画策定に努めることとされている。

また、市町村こども計画は、既存の各法令に基づく以下の市町村計画と一体のものとして作成することができる。

- ・市町村こども若者計画（子ども・若者育成支援推進法第9条）
- ・子どもの貧困対策計画（子どもの貧困対策の推進に関する法律第9条）
- ・次世代育成支援対策推進法に基づく市町村行動計画
- ・子ども・子育て支援法に基づく子ども・子育て支援事業計画

ウ こども等の意見の反映（こども基本法第11条）

こども施策の策定、実施、評価をするにあたっては、施策の対象となるこどもや、こどもを養育する者、その他関係者の意見を反映させるために必要な措置を講ずることと定められている。

(3) スケジュール

		令和6年度											
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
地方創生特別委員会			●調査結果報告 (5/15)				●骨子案説明			●ハ°フ°コ°案説明			●R5点検・評価 現プラン総括 ハ°フ°コ°結果 説明
児童福祉専門分科会			●調査結果報告 (5/16)				●骨子案説明 (9月初旬)			●ハ°フ°コ°案説明			●R5点検・評価 現プラン総括 ハ°フ°コ°結果 説明
区協議会										●ハ°フ°コ°配付			
事務局	浜松市子ども計画策定		←骨子案の作成 →柱立て、施策体系等の検討				←計画案の作成、修正 →骨子案の修正				←ハ°フ°コ°「市の考え方」作成 →計画最終案の作成、修正		
	パブリック・コメント							←ハ°フ°コ°準備 →ハ°フ°コ°案公表 (12/上旬～1/上旬)			←検討結果、 意見検討 →市の考え方 公表		
	子どもの意見聴取関係		●子ども版市長へのご意見箱専用紙設置 (4/30) ●フリーボード設置 (計画策定の意見募集・4/30～6月下旬)				←関係機関等への聴き取り →						
	現プラン評価						←調査 →修正・調整		←点検・評価 →			←総括 →	

2 (仮称) 浜松市子ども計画の策定に係るアンケート調査結果について(別紙参照)

- (1) 子ども・子育て支援事業計画に係るニーズ調査
- (2) 子どもの生活実態調査
- (3) 若者支援に関するアンケート調査
- (4) 少子化に関する調査

(仮称) 浜松市こども計画の策定に係るアンケート調査結果について

こども家庭部 こども若者政策課

1 調査の概要 (令和5年度)

調査名	(1)子ども・子育てに関するニーズ調査	(2)子どもの生活実態調査
調査の目的	「(仮称) 浜松市こども計画」を作成するにあたり、教育・保育及び子ども・子育て支援事業に関する「現在の利用状況」や「今後の利用希望」等を把握する	主に「子どもの貧困対策」の施策の基礎資料とすることを目的に、家庭の経済状況や子どもの生活状況等を把握する
調査期間	令和6年1月24日～2月13日	令和6年1月1日～1月25日
調査対象	<ul style="list-style-type: none"> 就学前児童の保護者 3,000人 小学生の保護者 2,000人 	<ul style="list-style-type: none"> 小学校5年生とその保護者 2,500世帯 中学校2年生とその保護者 2,500世帯 16～17歳の児童とその保護者 2,500世帯
抽出方法	住民基本台帳から無作為抽出	住民基本台帳から無作為抽出
調査方法	民間の事業者に委託 対象者に調査票を郵送、回収された調査票を集計し、「浜松市こども計画」に反映させるため分析	①保護者用と②子ども用の調査票を同封して対象世帯に発送。返信用封筒により①②の調査票を合わせて回収。保護者と子どもの回答を紐づけて分析
有効回答数	<ul style="list-style-type: none"> 就学前児童保護者 1,060件 (34.3%) 小学生保護者 745件 (36.0%) 【合計】 1,805件 (36.1%) 	<ul style="list-style-type: none"> 小学校5年生 1,206件 (48.2%) 中学校2年生 1,058件 (42.3%) ※小学校5年生か中学校2年生の選択がされていない回答 28件 16～17歳 853件 (34.1%) 【合計】 3,145件 (41.9%)
主な調査項目	<ul style="list-style-type: none"> 子育て支援施策の利用実態と評価 子育て環境の実態把握 職場の両立支援制度の利用状況 【調査設問数】 就学前児童保護者 78問 就学児童保護者 37問 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者の経済状況などが子どもの生活等に与える影響 保護者が抱える困りごと 子どもの貧困による課題等の把握 【調査設問数】 保護者31問、小・中26問、16～17歳30問
	<ul style="list-style-type: none"> (就学前児童保護者) 子育ての人的環境 保護者の就労状況 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況 地域の子育て支援事業の利用状況 平日以外の教育・保育事業の利用意向 職場の両立支援制度 (就学児童保護者) 子育ての人的環境 保護者の就労状況 放課後児童会 子育て環境や支援の満足度 	<ul style="list-style-type: none"> (保護者) 自身と世帯のこと お子さんの両親 家計の状況 お子さんとの関わりやお子さんの将来 子育ての悩みや子育て支援の制度(子ども) 自身のこと 健康や食事のこと ふだんの生活のこと 学校生活や勉強、仕事のこと ふだん感じていること (支援者(アンケートを実施)) 活動(支援)の内容 関わりのある家庭や子どもの特徴や課題

調査名	(3) 若者支援に関するアンケート調査	(4) 少子化に関する調査
調査の目的	「(仮称)浜松市こども計画」を作成するにあたり、浜松市に居住または通勤・通学する若者等の、「若者が利用できる支援機関の認知度」及び「居場所に対するニーズ」を把握する	出会いから結婚、妊娠、出産、子育てに関する意識や関心についてのアンケート調査を実施することで、実情を把握し、より効果的な少子化対策の在り方と施策の検討資料として活用する
調査期間	令和6年3月10日～3月24日	令和6年1月17日～2月4日
調査対象	SNS若者相談事業の利用者	18歳から49歳までの浜松市民 4,000人
抽出方法	LINE公式アカウント「わかものライン相談@浜松市」の友だち登録者に対し調査を依頼	住民基本台帳から無作為抽出
調査方法	「令和5年度SNS相談利用者アンケート」(ウェブ調査)に含めて実施	民間の事業者に委託 対象者に調査票を郵送し、二次元コードよりインターネット回答
有効回答数	56件	977件(24.4%)
主な調査項目	<ul style="list-style-type: none"> 若者が利用できる支援機関等の認知度 若者の居場所 【調査設問数】11問	<ul style="list-style-type: none"> 未婚者の結婚観について 妊娠・出産・子育てについて 浜松市の子育て支援施策などについて 【調査設問数】48問
	<ul style="list-style-type: none"> 知っている支援機関等 居場所の有無 (居場所「有」と回答した場合) <ul style="list-style-type: none"> 行きはじめたきっかけ、理由 行くようになって変わったこと 居場所に望むこと (居場所「無」と回答した場合) <ul style="list-style-type: none"> 居場所「無」の理由 行ってみたいくなる居場所 	

2 調査を受けた考察

(1) 子ども・子育てに関するニーズ調査

ニーズ調査の結果を基に、プランの主要施策である、子ども・子育て支援法で定める重点的に取り組む15事業について、以下のとおり考察する。

ア 就学前における教育・保育の提供

NO.	事業名	内容
1	認定こども園（2・3号）、保育所	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に利用したいと考える事業は、「幼稚園又は認定こども園（幼稚園機能）」が54.3%と最も多く、「認定こども園（保育園機能）」38.3%、「保育園」32.0%となっている。 ・「小規模保育事業」5.3%、「事業所内保育事業」2.9%、「認証保育所」2.6%、「事業所内保育施設」1.4%などの保育機能の利用希望はいずれも前回調査と比較して増加している。
	認定こども園（1号）、幼稚園	
2	地域型保育事業（家庭的保育事業、小規模保育事業、事業所内保育事業、居宅訪問型保育事業）	<p>【考察】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様なニーズに対応した、教育・保育環境の整備が求められていると推察される。

イ 地域子ども・子育て支援事業

NO.	事業名	内容
1	(1) 基本型利用者支援事業（保育サービスセンター）	<ul style="list-style-type: none"> ・利用希望調査では、浜松市子育て情報サイトぴっぴが72.4%と前回調査の75.6%から3.2ポイント減となっているが、子育てに関する情報のニーズが高い状況が継続している。 <p>【考察】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者が幅広く子育てに関する情報提供を希望している。 ・保育サービス相談員を有効活用し、適切な支援をワンストップで行う相談体制が求められているものと推察される。
	(2) 母子保健型利用者支援事業（こども家庭センター）	

NO.	事業名	内容
2	時間外保育事業 (延長保育事業等)	<ul style="list-style-type: none"> ・平日の定期的な教育・保育の利用時間・利用希望時間は、「8 時間」が最も多く 23.3%、「9 時間」が 18.5%、「10 時間」が 14.4%と続いている。 ・前回調査でのボリュームゾーンは「8 時間」15.7%、「6 時間」13.5%、「7 時間」13.4%であり、利用希望時間が長時間化している傾向にある。 <p>【考察】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き利用者ニーズに対応していく必要がある。
3	放課後児童健全育成事業	<ul style="list-style-type: none"> ・就学前児童保護者を対象とした利用希望調査では、小学校低学年（1～3 年生）の希望は 48.9%と前回調査より 9.7 ポイント増加、小学校高学年（4～6 年生）の希望は 17.6%と前回調査より 4.5 ポイント減少した。 ・就学児童保護者のうち、放課後児童会を利用していない保護者においても、平日週 4 日以上の利用希望が 5.0%、平日週 1～3 日の利用希望が 8.0%あった。 <p>【考察】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育ニーズの増加が放課後児童会の利用希望増加に繋がるものと考えられる。 ・放課後の子供の居場所づくりについては潜在的な利用希望も考慮した中で対応する必要がある。
4	子育て短期支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の用事（冠婚葬祭、保護者・家族の育児疲れや育児不安、病気など）により、泊りがけで子供を家族以外に預ける必要について、「ある（利用したい）」が 10.5%と前回に比べて 4.6 ポイント減少している一方で、利用したい場合の理由として「保護者の家族の育児疲れ・不安」が 71.3%で最も多く、続いて「保護者や家族の病気」が 67.6%となっている。 ・必要な泊数は 7 泊以内が 7 割以上である一方、8 泊以上の長期利用の希望もある。 <p>【考察】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き利用者ニーズに対応していく必要がある。
5	乳児家庭全戸訪問事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ニーズ調査に含まれない事業であるが、引き続き全戸訪問を目標として必要な量の確保に努める。
6	(1) 養育支援訪問事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ニーズ調査に含まれない事業であるが、適切な養育訪問支援員の確保に努める。
	(2) 子どもを守るネットワーク機能強化事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ニーズ調査に含まれない事業であるが、現状を踏まえ引き続きネットワーク機能強化に努める。
7	地域子育て支援拠点事業	<ul style="list-style-type: none"> ・利用希望調査では「新たに利用したり、利用日数を増やしたいとは思わない」が 61.9%と最も多く、前回に比べ 3.1 ポイント増加している。 <p>【考察】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育園等の入所率の上昇に伴い、ニーズ量は落ち着いてきていると考える。 ・今後は、メニューを充実し利用者のニーズに応えていく。

NO.	事業名	内容
8	(1) 一般型・余裕活用型一時預かり事業	<ul style="list-style-type: none"> ・利用状況調査では「利用していない」が86.0%と最も多く、前回調査の83.0%から3ポイント増加しており、その理由として「特に利用する必要がない」が70.1%と最も多く、前回調査の65.7%から4.4ポイント増加している。 ・利用希望調査では、「利用したいと思う」が43.9%と前回調査の39.4%から4.5ポイント増加しており、利用目的は、「私用、リフレッシュ目的」が84.3%と最も多く、前回調査の60.1%から24.2ポイント増加している。 <p>【考察】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育所の整備を進め、入所児童数が増加していることから、<u>就労理由による利用ニーズは減少</u>しているが、<u>私用やリフレッシュ目的での一定のニーズは継続</u>すると推察される。
	(2) 幼稚園型一時預かり事業	<ul style="list-style-type: none"> ・利用状況調査では「定期的利用」7.7%と「不定期利用」8.1%を合わせて15.8%であり、前回調査の「定期的利用」5.6%と「不定期利用」10.4%を合わせた16.0%とほぼ同率であった。 ・利用希望調査でも「定期的な利用希望」20.2%は前回調査の22.2%から2ポイント減少しているものの大きな変化はない。 <p>【考察】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も<u>一定のニーズは継続</u>すると推察される。
9	病児保育事業	<ul style="list-style-type: none"> ・利用希望調査では「できれば利用したい」が36.0%で前回調査の34.9%から1.1ポイント増加し、「利用したいと思わない」が62.4%で前回調査の64.5%から2.1ポイント減少している。 <p>【考察】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も、<u>ニーズは微増</u>していくと推察される。
10	子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポート・センター事業）	<ul style="list-style-type: none"> ・利用状況調査では、幼稚園の一時預かり8.1%（前回10.4%）や一時預かり（一時保育）4.0%（前回3.4%）と比べると、ファミリー・サポート・センターは0.7%（前回0.7%）と低い傾向にある。 <p>【考察】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の事業に比べ利用状況が低いのは、<u>サービスを提供する会員が少ない</u>ことが要因のひとつと推察されるため、<u>今後も会員確保に努めていく必要がある</u>。
11	妊婦健康診査事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ニーズ調査に含まれない事業であるが、実績をもとに<u>必要な量の確保に努めていく</u>。
12	実費徴収に係る補足給付を行う事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ニーズ調査に含まれない事業であるが、現状を踏まえ<u>適切に事業を推進</u>していく。
13	多様な事業者の参入促進・能力活用事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ニーズ調査に含まれない事業であるが、現状を踏まえ<u>適切に事業を推進</u>していく。

<自由意見> 以下の内容について意見が寄せられた（子どもからの意見）。

内容	件数	内容	件数	内容	件数
遊び場や居場所	68	通学や通学路	18	部活	8
学校生活	41	放課後児童会	14	その他	32
学校施設	18	学校給食	11		

(2) 子どもの生活実態調査

世帯の経済状況（生活困窮群・困窮予備群・一般群）や世帯の構成状況（ひとり親群・ふたり親群）により、子どもの生活状況にどのような影響が生じているかを把握するため、保護者用調査と子ども用調査を紐づけて分析を行った。また、各調査票の末尾に市政に対する自由意見欄を設け、保護者・子どもからの意見の把握を行った。

ア 子どもの状況

分類	内容
学習・教育	<ul style="list-style-type: none"> ・小5、中2の「授業の理解度」は、困窮度が高いほど「わかる」と回答する割合が低い。 ・世帯構成別にみると、ふたり親世帯では60.7%が「わかる」と回答したのに対し、ひとり親世帯では41.6%と19.1ポイントの差が見られたが、16～17歳では理解度の傾向に大きな差は見られなかった。 ・16～17歳の子どもの「だれかに相談したいこと」では、「進学・進路のこと」が31.3%と高くなっており、他の項目と比べ突出している。 <p>【考察】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校や中学校は、様々な家庭の子どもで構成されている一方、高校（16～17歳）では入学の際に進学先を選択できるため、理解度の差が少ないと推察されるが、<u>16～17歳で「進学・進路のこと」を悩んでいることから、相談できる体制整備が求められる。</u>
健康・生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・体調が悪い時に「すぐに病院に行く」や「薬を飲んだり使ったりする」の割合に、家庭状況による大きな差は見られないが、困窮群やひとり親群では、朝食の欠食の多さや就寝時間の遅さ、遅刻を経験した割合が高い傾向がみられる。 <p>【考察】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療機関への受診に大きな差がみられなかったことは、医療費助成が一定の効果を果たしていると考えられ、<u>子どもへの健康への支援は継続して実施することが必要</u>と考える。 ・<u>生活習慣に関しては助言できる環境整備が必要であるが、家庭内の考え方や保護者の生活サイクルも影響していると考えられ、行政による関与が難しい面がある。</u>
社会性・将来の自立	<ul style="list-style-type: none"> ・「がんばれば良いことがあると思うか」の設問では、小中は困窮判定別で差がないのに対し、16～17歳では、全体で「あまり思わない」「思わない」を合わせて13.9%であるところ、困窮群のみでは24.3%と高い割合であった。 <p>【考察】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>年齢が上がるにつれ思い通りにいかない経験をし、将来への希望を持っていない子どもがいることは課題</u>である。 ・<u>家庭の経済的状況の影響が少なくなるよう考慮しなくてはならない。</u>
勤労状況 (16～17歳のみ)	<ul style="list-style-type: none"> ・10%ほどの子どもが就労していると回答があり、稼いだお金の用途は「友達と遊ぶ費用」「趣味のための費用」が高く、「家計の足し」「進学のための費用」などは10%未満となった。 <p>【考察】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>結果からは子どもの家計に対する負担の割合が低く出ているが、16～17歳の回答率が低い</u>ため、本調査へ回答する時間の確保や回答への家族の理解を得にくい状況があると推察され、<u>すべての実態は把握できていないことに注意が必要</u>である。

<自由意見> 以下の内容について意見が寄せられた。

(小5・中2の子ども)

内容	件数	内容	件数
施設	195	浜松市について	64
学校	184	通学路、交通手段	43
お金	139	いじめ	38
環境、防犯、防災	102	先生	36
夢、進学、職業	98	学習支援	26
子どもの居場所	69	その他	289

(16～17歳の子ども)

内容	件数	内容	件数
自習室、居場所	77	お金	19
施設	60	先生	8
通学路、交通手段	60	環境、防犯、防災	5
浜松市について	47	その他	52
進学、職業	32		
学校	21		

イ 保護者の状況

分類	内容
家庭の経済的困窮の状況	<ul style="list-style-type: none"> 過去1年間で「生活費が不足して、親族や金融機関からお金を借りた」経験があると答えた保護者は、小中では5.3%、16～17歳では7.0%いた。 小5・中2の保護者では、子どもの将来のために「貯蓄したいが、できていない」と答えた割合が、全体では28.8%であったのに対し、困窮群(61.1%)、予備群(56.3%)、ひとり親群(55.6%)では高い傾向にある。 子どもにお小遣いを渡すこと、習い事や学習塾の利用が「経済的にできない」と答えた保護者の割合も同様の傾向が見られた。 <p>【考察】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活費の不足から、子どもへの支出ができない状況があり、手当による支給だけでなく、子どもへの直接的支援として、習い事支援等で貧困対策を講ずる必要がある。
就労と子育ての両立	<ul style="list-style-type: none"> 困窮群で「複数の仕事をしている」、「休職中」の割合が高く、「正社員・正規社員」の割合が低い傾向にあり、母親の帰宅時間については、ふたり親の場合「18時より前」の割合が高いが、ひとり親の場合、帰宅時間が遅くなる傾向が見られる。 <p>【考察】</p> <ul style="list-style-type: none"> 帰宅時間に表れているとおり、ふたり親群では、主に母親は子育てを優先して仕事量を調整していると推測される。 ひとり親群では、雇用形態・帰宅時間などから、困窮しないために子育てより就労を優先せざるを得ない傾向がみられ、両立への支援や親不在時の子どものケアが必要である。
保護者の孤立・悩み支援・サービスの活用状況	<ul style="list-style-type: none"> 「身近な相談相手がいるか」の設問では、困窮するほど「いない」と答える割合が高く、孤立していることが伺える。 保護者が抱える子どもに関する悩みとしては、どの年代でも、どの困窮判定別でも「進学・進路」の割合が高く、各種支援制度については、「利用の手続きがわからない」や「制度を知らない」の割合が10%を超えるものがあつた。 <p>【考察】</p> <ul style="list-style-type: none"> 孤立を防ぐため、相談窓口などの支援制度の周知強化が必要である。 学習面での相談支援の実施に合わせ、奨学金や就学資金等の貸付制度の充実が求められていると推察される。
居場所等に対するニーズ	<ul style="list-style-type: none"> 居場所の利用ニーズは困窮群で高く、特に学習支援への期待が高い。 小中と16～17歳を比較すると、場所だけの提供に小中が33.5%のニーズがあるのに対し、16～17歳は15.4%と18.1ポイント低く、年代により居場所等への期待の種類が違ってくる。 <p>【考察】</p> <ul style="list-style-type: none"> 小5・中2では大人が目が届く子どもの居場所として期待が大きいのに対し、16～17歳では、困窮する世帯が居場所の提供だけでなく、食事や学習指導、食料品の提供を求めており、年代ごとにニーズを踏まえた支援を検討する必要がある。

<自由意見> 以下の内容について意見が寄せられた。

(小5・中2の保護者)

内容	件数	内容	件数
子育て支援全般	162	相談支援	31
教育費	129	施設	28
学校、教育	127	学童保育等	26
子どもの居場所	67	ひとり親	25
医療費	49	安心安全な地域	24
家庭環境等	46	児童手当	14
不登校、障がい	45	いじめ	4
学習支援	34	その他	133

(16～17歳の保護者)

内容	件数	内容	件数
子育て支援全般	70	児童手当	7
教育費	42	ひとり親	5
学校、教育	29	安心安全な地域	4
相談支援	21	施設	4
子どもの居場所	15	学習支援	3
医療費	11	いじめ	1
家庭環境等	10	その他	62
不登校、障がい	10		

(3) 若者支援に関するアンケート調査

若者が利用できる支援機関の認知度及び居場所に対するニーズの把握を行った。

分類	内容
若者が利用できる支援機関等の認知度	<ul style="list-style-type: none"> ・若者が利用できる各種支援機関は、若者のSOSを受け止める場として有用であり、若者自身への周知が持続的に図られていることが重要である。 ・SNS相談の利用を望む若者を対象に絞って行った本調査では、若者が利用できる支援機関等を「どれも知らない」と回答した若者の割合は30.4%に上り、全国調査(※1)における同割合より15ポイント上回った。 <p>【考察】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談を望む若者が相談窓口を認知していない状況への対策として、<u>若者の悩みに柔軟に応じる場を構築し、必要な支援につなげていく伴走体制の整備が必要</u>と考える。
居場所に対するニーズ	<ul style="list-style-type: none"> ・本調査において、家(普段寝起きをしている場所)以外にここに居たいと感じる場所が「ある」と回答した若者は48.2%で、全国調査(※2)における同割合を13.4ポイント下回った。 ・ここに居たいと感じる場所が「ない」と回答した若者(51.8%)はその理由として、「そういった場所の情報がない、存在を知らない」(44.8%)、「安心できる人、知っている人がいない」(37.9%)を挙げた。 <p>【考察】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若者が安全で安心して過ごせる場は、そこで過ごす時間、出会う人など全てが次の一歩を踏み出すための成長の糧となり得る場であることが望ましい。 ・若者がここに居たいと思える居場所づくりが急務であるが、その場を居場所と感じるかどうかは若者本人が決めるものであり、<u>若者一人一人に寄り添い、その主体性を大切に</u>して多様な居場所を展開していくことが必要と考える。

※1…子ども・若者の意識と生活に関する調査(令和5年3月)内閣府政策統括官(政策調整担当)
調査対象:15歳~39歳

※2…子どもの居場所づくりに関する調査研究報告書(令和5年3月)内閣官房子ども家庭庁設立準備室
調査対象:おおむね30歳まで(※13歳~30歳の結果を比較対象として抜粋)

(4) 少子化に関する調査

より効果的な少子化対策のため、出会いから結婚、妊娠、出産、子育てに関して調査、分析を行った。

ア 未婚者の結婚観について

分類	内容
結婚願望	<ul style="list-style-type: none"> 結婚願望の割合は、「したいと思っている」(36.4%)、と「できればしたいと思っている」(43.0%)を合わせると79.4%で、令和3年の前回調査より10.7ポイント増加している。 【考察】 結婚願望があるにもかかわらず、希望する結婚がかなっていない方たちには、<u>個人のニーズに対応した支援が必要</u>と考える。
結婚への不安感	<ul style="list-style-type: none"> 結婚願望がある方で、結婚に対する不安なことは、「経済的な不安」(64.4%)が最も多く、次いで「パートナーとの相性」(53.0%)、「仕事と家庭の両立」(46.3%)、「子育てに対する負担感」(40.9%)の順となっている。 女性に比べ男性は、経済的な不安の割合が高く、女性は仕事と家庭の両立や子育てに対する負担感の割合が高い。 【考察】 収入や雇用が安定しない非正規の雇用形態や、近年の物価高の影響により、<u>経済的な不安が結婚を躊躇する要因の一つ</u>となっていると推察される。 女性は、<u>結婚や出産によりキャリアが分断されてしまうことや、子育てが女性に偏る状況を解消しなければ、女性の結婚への不安感を払拭することは難しい。</u>

イ 妊娠・出産・子育てについて

分類	内容
理想とする子供の人数	<ul style="list-style-type: none"> 理想とする子供の人数は「2人」が51.9%で最も多く、以下「3人」(25.9%)、「1人」(6.2%)の順で、「0人」は5.7%であった。 子どもを欲しがらない人は、29歳以下で9.5%と、他の年代より高い。 理想の人数が叶わない理由は、「子育てや教育にお金がかかりすぎる」が50.8%で半数を占め、「年齢が高いから」が34.7%となっている。 【考察】 子育て家庭が負担感を抱えている現状から、若い世代が<u>結婚や子育てにネガティブなイメージを持っていると推察される。</u> 結婚に対する不安と同様に、子育てに対しても<u>経済的な不安が子どもをあきらめる理由にならないよう、経済的な支援が必要</u>である。 年齢が高いことが理由で子どもをあきらめることがないよう、<u>晩婚化への対策が必要</u>である。

<p>子育て中の困ったことや不安感</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・女性で、子育て中に困りごとや不安をいつも感じた人の割合は26.9%で、男性より5.1ポイント高い。 ・困りごとや不安の内容は、「子供の発育や発達」が49.2%で最も高く、次いで「自分の時間がとれない」(46.6%)、「リフレッシュしたいときに預けられない」(39.8%)であった。 <p>【考察】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女性の困りごとや不安感を解消できるように、<u>固定的な性別役割分担意識を無くし、男性が積極的に家事や育児に参加できる環境を整える必要がある。</u> ・核家族化が進行し、親の負担感が増えるとともに、<u>子育ての孤立感から「子供の発育や発達」に不安感を持つ家庭が多く、時間的な余裕もないと推察される。</u> ・身近な場所でサポートを受けることができ、全ての子育て家庭が安心してこどもを産み育てられ、自己実現ができる環境が求められている。
-----------------------	--

ウ 浜松市の子育て支援施策などについて

分類	内容
<p>子育て支援施策への評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・浜松市の子育て支援施策により子育てがしやすくなったと「思う」(12.3%)と、「どちらかというと思う」(49.9%)を合わせた評価している人の割合は62.2%であった。 <p>【考察】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本市においても様々な子育て支援策を実施しており、他都市より充実した施策があるが、全ての子育て家庭が情報を把握しているわけではない。 ・<u>制度があっても使われない状況を回避し、支援を必要としている方にサービスを届けるためには、情報発信や広報活動に力を入れていく必要がある。</u>

令和5年度
子ども・子育てに関するニーズ調査 報告書

令和6年3月

浜松市

目 次

第1章 調査概要	1
第2章 調査結果（就学前児童保護者）	2
1. 回答者属性と調査対象児童の家庭・生活環境	
居住区、調査対象児童の年齢、きょうだいの人数と末子年齢	2
回答者の性別、配偶者の有無、主な子育て者	3
日常的な子育て者、子育てに大きく影響する環境	4
2. 子育ての人的環境	
①子育てを頼める親族や友人・知人	5
②子育ての気軽な相談先	7
③周囲からのサポートで希望すること	8
3. お子さんの保護者の就労状況について	
①保護者の就労状況	9
②保護者（母親）の転換・就労希望	11
4. 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況について	
①平日の定期的な教育・保育事業の利用状況	13
②今後、利用したい平日の定期的な教育・保育事業	18
5. 地域の子育て支援事業の利用状況について	
①地域の子育て支援事業の利用状況	20
②浜松市の子育て支援事業について	22
③浜松市の子育て支援事業を利用した感想	23
6. 平日以外の教育・保育事業の利用意向について	
①土曜日と日曜日・祝日又は夜間の定期的な教育・保育事業の利用意向	25
②幼稚園児の長期休暇期間中の教育・保育事業の利用意向	28
③幼稚園児が病気の際の対応状況	30
④不定期の教育・保育事業や宿泊利用について	34
⑤小学校就学後の放課後の過ごし方について（5歳以上）	38
7. 育児休業や短時間勤務制度など職場の両立支援制度について	
①育児休業の取得状況	41
8. その他	
①地域の子育て環境や支援の満足度	49
②子育ての環境や支援に関してのご意見	50

第3章 調査結果（就学児童保護者）

1. 回答者の属性と調査対象児童の家庭環境	
居住区、調査対象児童の学年、きょうだいの人数と末子年齢	52
回答者の性別、配偶者の有無、主な子育て者	53
2. 子育ての人的環境	
①子育てを頼める親族や友人・知人	54
②子育ての気軽な相談先	55
③周囲からのサポートで希望すること	56
3. お子さんの保護者の就労状況について	
①保護者の就労状況	57
②保護者（母親）の転換・就労希望	59
4. 放課後児童会について	
①平日の放課後の過ごし方	61
②放課後児童会利用者の利用状況	62
③放課後児童会非利用者の利用意向	64
5. お住まいの地域における子育ての環境や支援への満足度	
①地域の子育て環境や支援の満足度	67
②子育ての環境や支援に関してのご意見	68
6. 子供から浜松市への意見	70
付録 調査票	
就学前児童保護者	71
小学生保護者	92

第1章 調査概要

1 調査の目的

「(仮称) 浜松市こども計画」(計画期間：令和7年度～令和11年度)の策定に係るニーズ調査を行うことを目的とした。

2 調査の内容

- (1) 浜松市の子育て支援施策の利用実態と評価の把握
- (2) 子育て環境の実態把握
- (3) 育児休業や短時間勤務制度など職場の両立支援制度の利用状況(未就学児童のみ)

3 調査の設計

- (1) 調査地域 …… 浜松市全域
- (2) 母集団 …… 浜松市在住の就学前と小学生のお子さんがある家庭
- (3) 抽出方法 …… 住民基本台帳から等間隔無作為抽出
- (4) 標本数 …… 5,000人
- (5) 調査方法 …… 郵送配布、インターネット回収及び郵送回収
- (6) 調査期間 …… 令和6年1月24日～令和6年2月13日
- (7) 調査機関 …… 浜松市こども家庭部次世代育成課
- (8) 報告書作成 …… 株式会社SBSプロモーション

4 調査回収結果

	依頼数	回収数	有効数	有効回収率
就学前児童	3,000	1,060	1,029	34.3%
小学生	2,000	745	720	36.0%

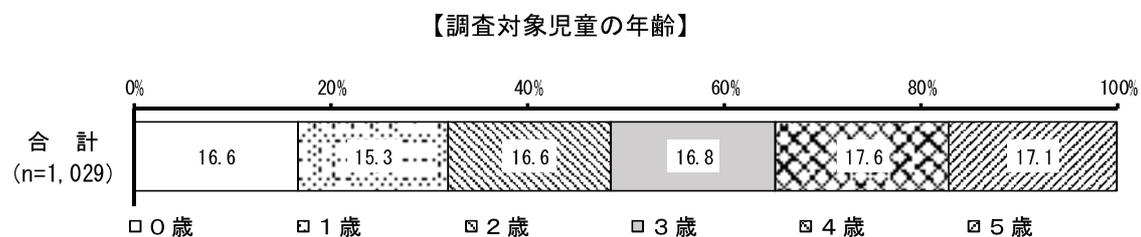
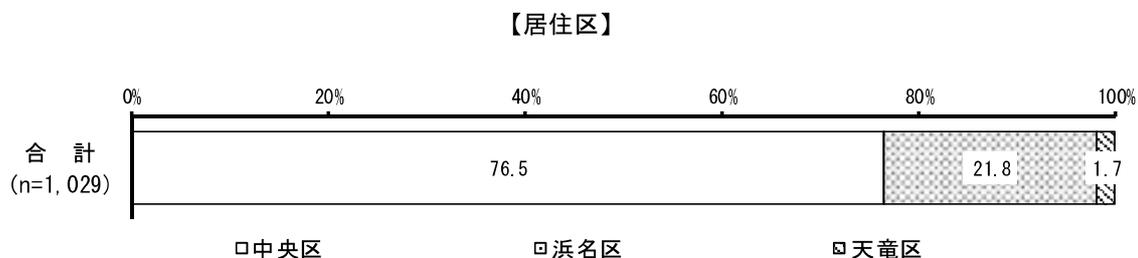
この冊子の見方

1. 比率は全て百分率で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した。
そのため、百分率の合計が100%にならないことがある。
2. 複数回答を依頼した質問では、比率の合計が100%を超える。
3. 基数となるべき実数は、集計表の回答者数として表記され、これを100%として算出した。
4. 統計表等に用いた符号は、次のとおりである。
件数(n)：比率算出の基数で、100%が何人の回答者に相当するかを示す。

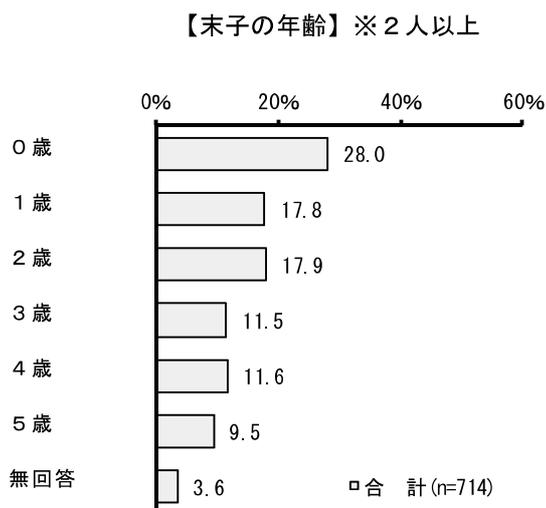
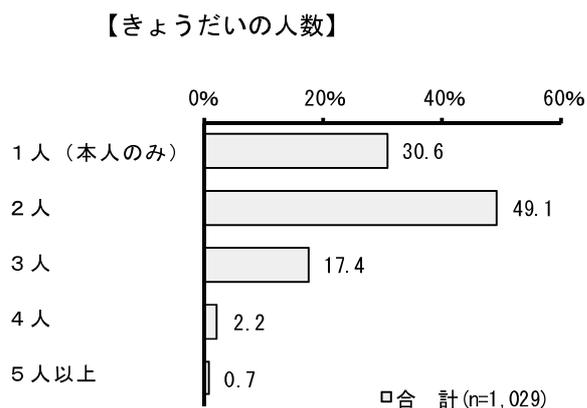
第2章 調査結果 就学前児童保護者

1. 回答者属性と調査対象児童の家庭・生活環境

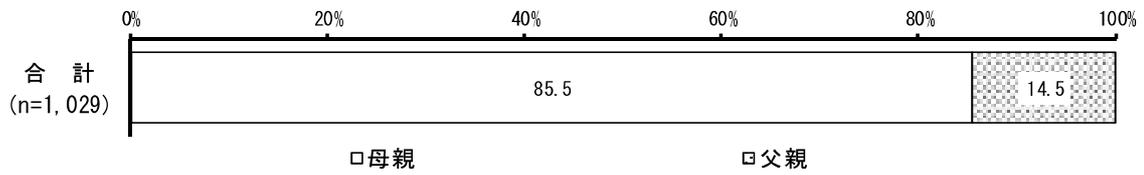
●居住区は中央区 76.5%、浜名区 21.8%、天竜区 1.7%である。



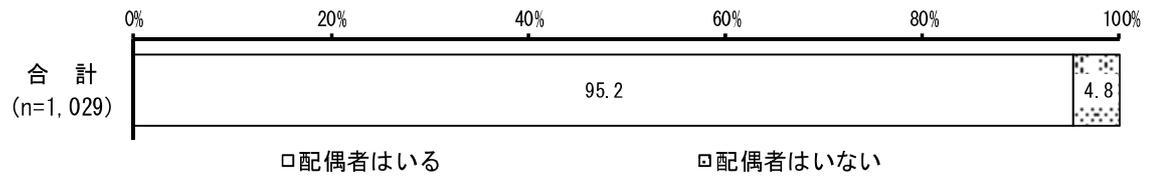
●子供の人数は「2人」が49.1%と最も多い。以下、「1人（本人のみ）」(30.6%)、「3人」(17.4%)である。



【回答者の性別】

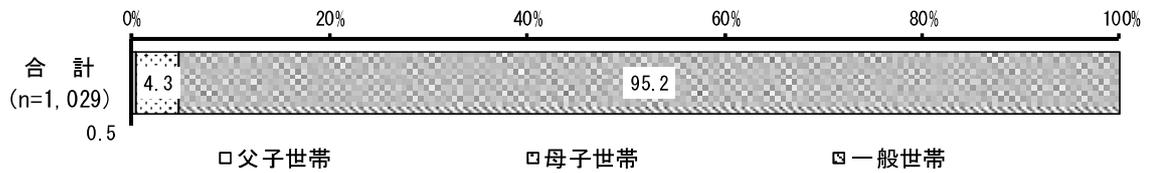


【回答者の配偶者の有無】

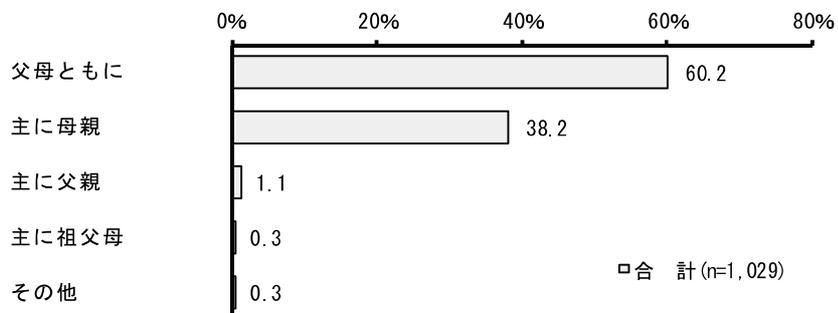


●家庭状況は「父のみのひとり親家庭（父子世帯）」は0.5%、「母のみのひとり親家庭（母子世帯）」4.3%で「ひとり親ではない（一般世帯）」は95.2%である。

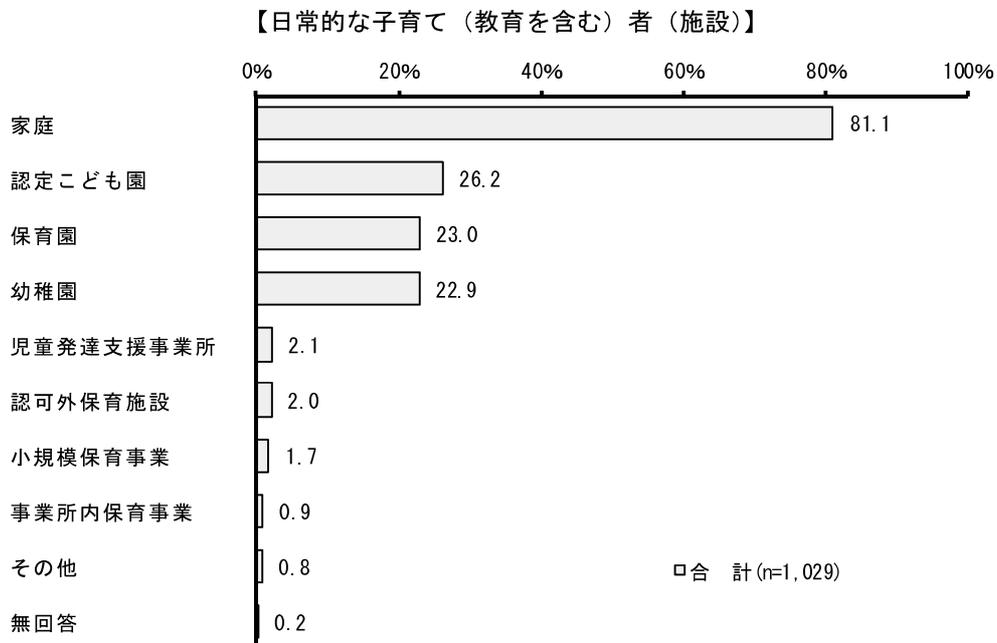
【家庭状況】



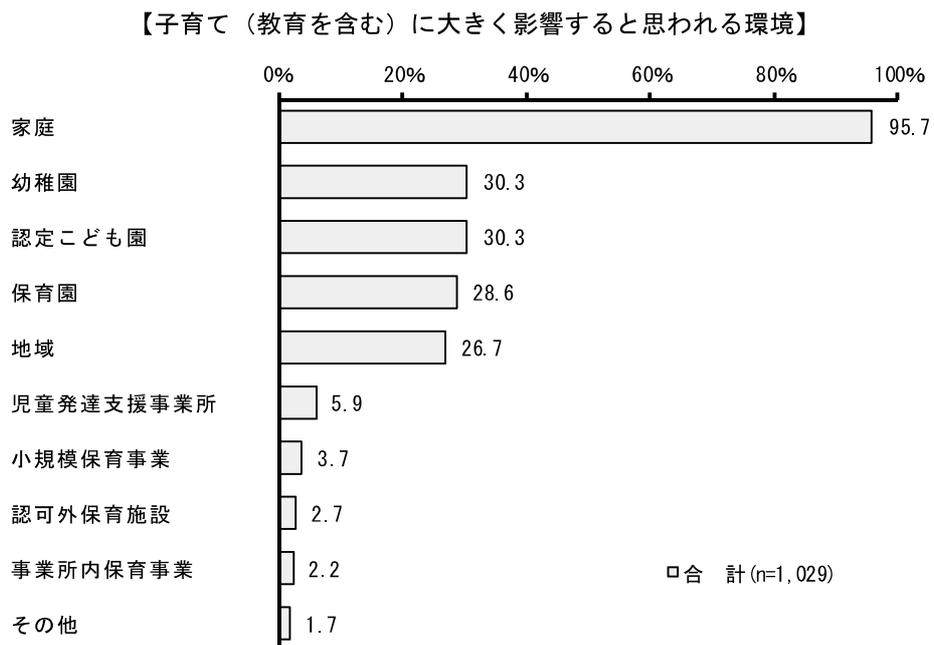
●主な子育て者は、「父母ともに」が60.2%と最も多く、「主に母親」が38.2%である。



- 日常的な子育て者（施設）は「家庭」が 81.1%と最も多い。以下、「認定こども園」(26.2%)、「保育園」(23.0%)、「幼稚園」(22.9%) などとなっている



- 子育て（教育を含む）に大きく影響すると思われる環境は「家庭」が 95.7%となっている。以下、「幼稚園」(30.3%)、「認定こども園」(30.3%)、「保育園」(28.6%)、「地域」(26.7%) などとなっている。

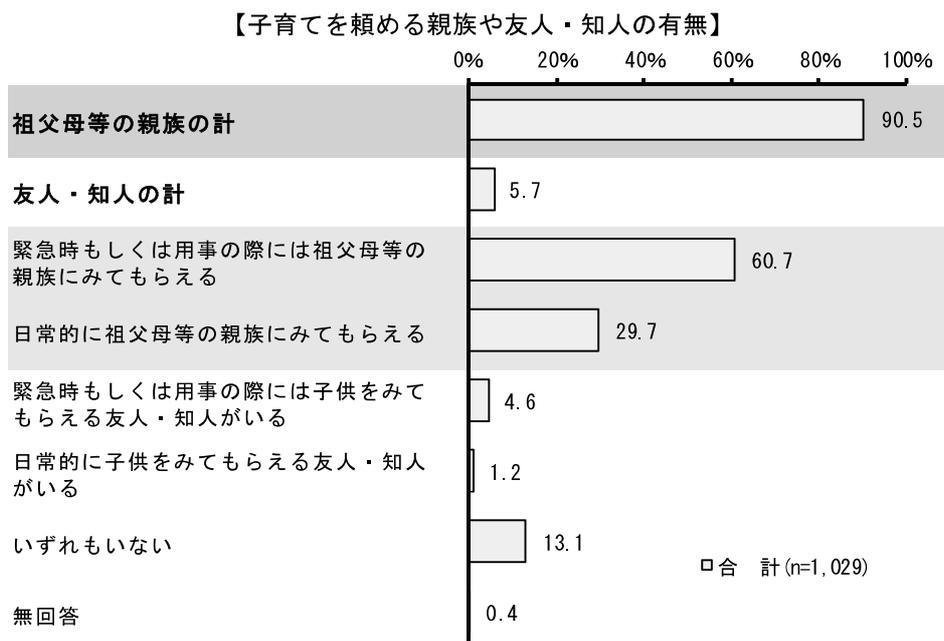


2. 子育ての人的環境

①子育てを頼める親族や友人・知人

問9 日頃、宛名のお子さんをみてもらえる親族・知人はいますか。(〇はいくつでも)

- 子育てを頼める親族や友人・知人の有無は、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が60.7%と最も多い。以下、「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」(29.7%)、「緊急時もしくは用事の際には子供をみてもらえる友人・知人がいる」(4.6%) などとなっている。一方、「いずれもない」は13.1%となっている。

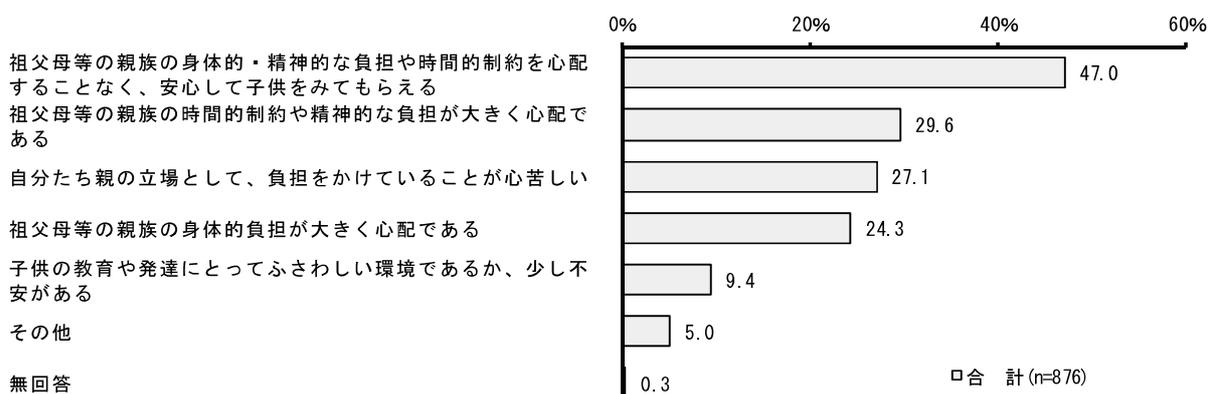


問9で『親族にみてもらう人』に〇をつけた方にうかがいます。

問9-1 祖父母等の親族にお子さんをみてもらっている状況を教えてください。(〇はいくつでも)

- 祖父母等の肉親に子育てを依頼する時の負担感は「負担や制約を心配することなく、安心して子供をみてもらえる」が47.0%で最も多い。以下、時間的制約や精神的な負担が大きく心配である」(29.6%)、「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」(27.1%)、「祖父母等の親族の身体的負担が大きく心配である」(24.3%) などとなっている。

【子育てを依頼する時の負担感 祖父母等の肉親に依頼する時】

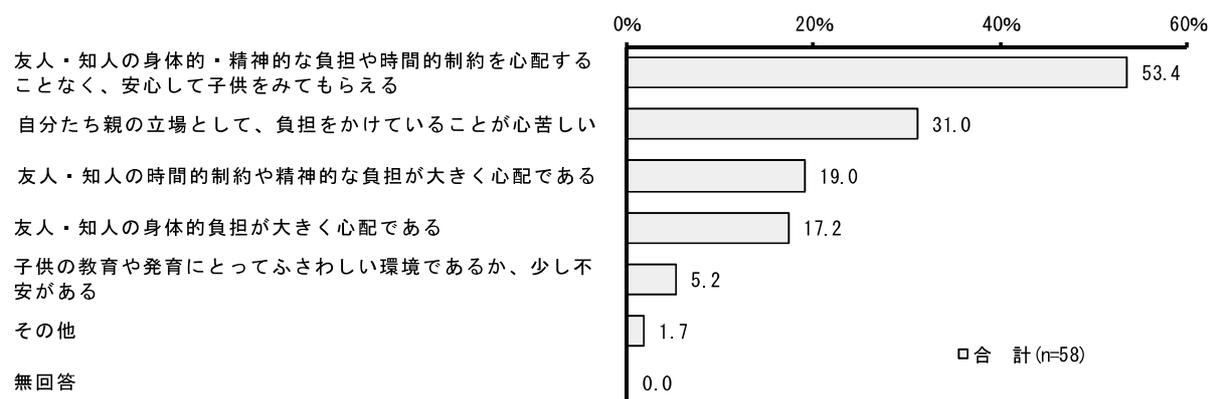


問9で『友人・知人にみてもらう人』に○をつけた方にうかがいます。

問9-2 友人・知人にお子さんをみてもらっている状況を教えてください。(○はいくつでも)

- 友人・知人に子育てを依頼する時の負担感は「友人・知人の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子供をみてもらえる」が53.4%と最も多い。以下、「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」(31.0%)、「友人・知人の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である」(19.0%)などとなっている。

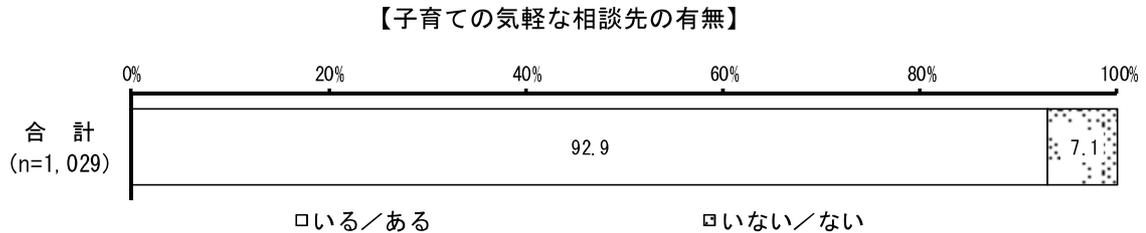
【子育てを依頼する時の負担感 友人・知人に依頼する時】



②子育ての気軽な相談先

問 10 宛名のお子さんの子育て（教育を含む）をする上で、気軽に相談できる人はいますか。また、相談できる場所がありますか。（○は1つ）

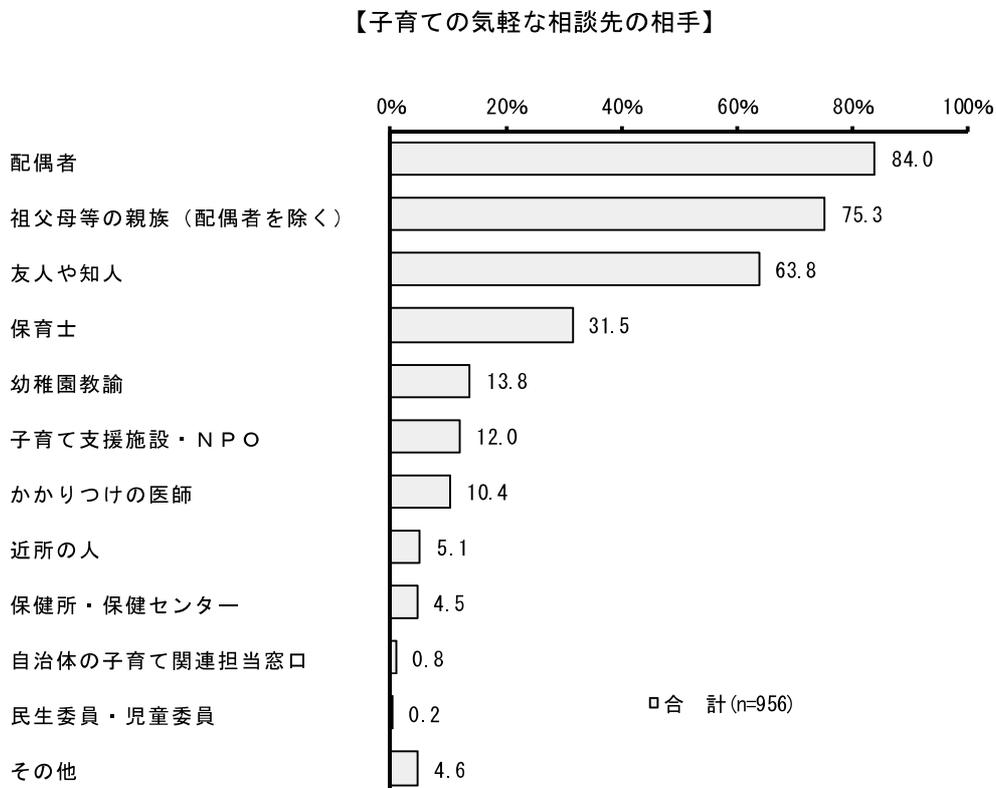
- 子育て（教育）の気軽な相談先の有無は、「いる/ある」が92.9%、「いない/ない」は7.1%となっている。



問 10 で「1. いる/ある」に○をつけた方にうかがいます。

問 10-1 お子さんの子育て（教育を含む）に関して、気軽に相談できる先は、誰（どこ）ですか。（○はいくつでも）

- 子育ての気軽な相談先は「配偶者」が84.0%と最も多い。以下「祖父母等の親族（配偶者を除く）」（75.3%）、「友人や知人」（63.8%）、「保育士」（31.5%）などとなっている。



③周囲からのサポートで希望すること

問 11 子育て（教育を含む）をする上で、周囲（身近な人、行政担当者など）からどのようなサポートがあればよいとお考えでしょうか。ご自由にお書きください。

主な意見

- 気軽に子供を預けられる場所、ベビーシッターを気軽に呼べる環境や価格を下げしてほしい。
- 一時的に預かってもらえる施設やベビーシッターがもっと増え、料金も安いと助かる。
- 親が病気の時に子供の面倒を見てくれる（預けられる）人や施設があると良い。
- 祝日の子供の預け先や、病児保育の確保が容易にできると助かる。
- 共働き世帯の為、子供の体調不良でどうしても仕事を休む都合が見つからない時など、急な対応が必要な場合でも頼ることができるサポートがあると助かる。
- 病後児保育が使いにくいと感じる。風邪をひく度に病院に連れていけるほど時間的余裕もないため、受診の要件を緩和してほしい。
- 働いていなくても気軽に預けることができる場所があるとよい。
- オンラインで相談できる環境、家で相談できる環境があるとありがたい。
- 子育て支援ひろばのような気軽に話せる場や、周りの人と関われる環境をもっと多くしてほしい。
- 保育士やカウンセラーの資格を持った人に、子供の発達や育児など、気軽に相談できる機会がほしい。
- 父親教室など、父親としての自覚が持てる機会があれば良かった。
- 子供が体調不良で保育園を休む時など、職場の理解が不十分で休みにくいため、特に中小企業の意識啓発や職場体制の整備を要望したい。また、職場での育休への理解促進が進んでほしい。
- 子育て世帯に寛容な世の中になってほしい。
- 歩いて行ける所に公園がほしい。
- もっと子供たちが遊べる場所を増やしてほしい。
- こども館は遊ぶ環境に親以外の大人（スタッフ）がいてくれるので、ありがたいと感じている。
- 習い事への金銭的サポートがあると助かる。子供達の教育格差が縮小するのではないか。
- 医療費の負担をもっと減らしてほしい。医療費を無料化してほしい。

3. お子さんの保護者の就労状況について

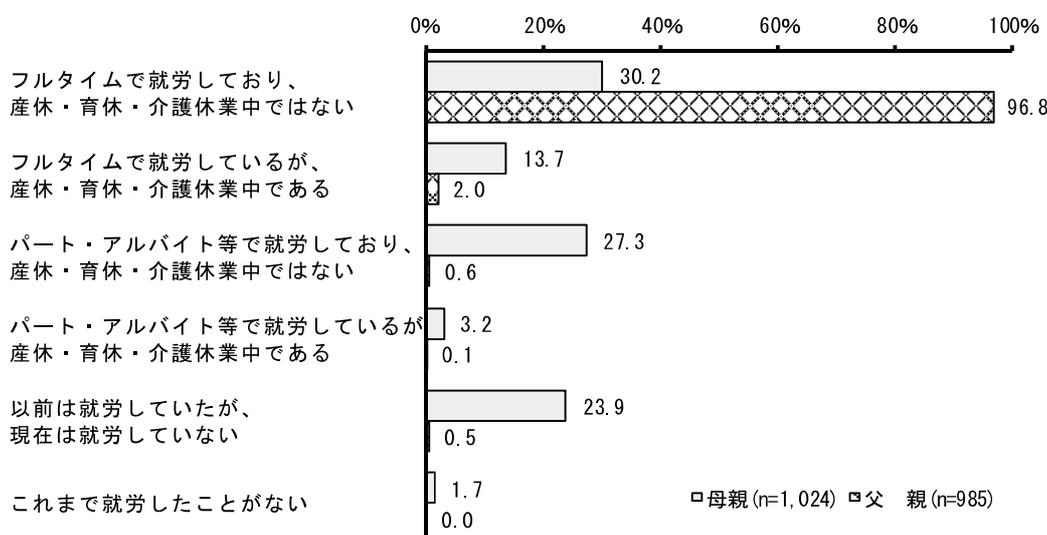
①保護者の就労状況

問 12 宛名のお子さんの保護者の現在の就労状況（自営業、家族従事者（専従者）含む）をうかがいます。

母親：就労形態は「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が 30.23%と最も多い。以下、「パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」（27.3%）、「以前は就労していたが、現在は就労していない」（23.9%）などとなっている。

父親：就労形態は「フルタイムで就労しており、育休・介護休業中ではない」が 96.8%と最も多くなっている。

【保護者の就労状況】



●父親に比べ休業者の比率が高い母親を子供の年齢別にみると、子どもの年齢が低くなるにつれて休業者の割合も高くなる傾向がみられる。

【保護者の就労状況 母親】

母親	調査回答数	就労状況						無回答
		フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない	フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中である	パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない	パート・アルバイト等で就労しているが、産休・育休・介護休業中である	以前は就労していたが、現在は就労していない	これまで就労したことがない	
合計	1,024	309 (30.2%)	140 (13.7%)	280 (27.3%)	33 (3.2%)	245 (23.9%)	17 (1.7%)	0 (0.0%)
子供の年齢別	0歳	171 (14.0%)	41.5%	10.5%	6.4%	26.3%	1.2%	0.0%
	1歳	157 (32.5%)	14.0%	24.2%	3.2%	24.8%	1.3%	0.0%
	2歳	169 (35.5%)	7.7%	23.1%	3.0%	26.0%	4.7%	0.0%
	3歳	171 (32.2%)	9.9%	32.7%	2.9%	20.5%	1.8%	0.0%
	4歳	180 (32.8%)	3.3%	37.8%	2.8%	22.8%	0.6%	0.0%
	5歳	176 (34.1%)	6.3%	34.7%	1.1%	23.3%	0.6%	0.0%

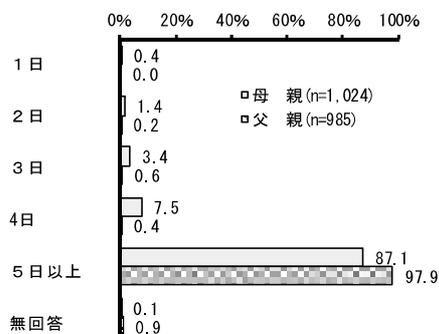
フルタイム=1週5日程度・1日8時間程度の就労
パート・アルバイト等=「フルタイム」以外の就労

問12で就労している（「1～4」に○をつけた）方うかがいます。

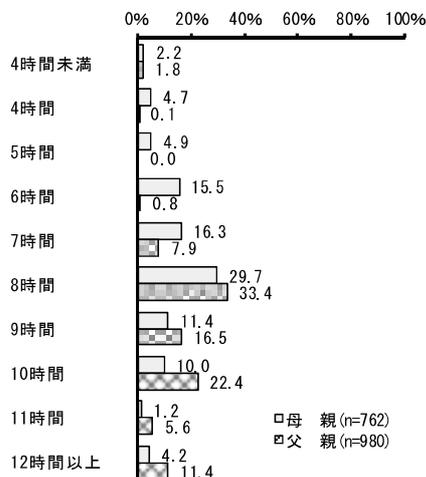
問12-1 1週当たりの「就労日数」、1日当たりの「就労時間（残業時間を含む）」をお答えください。

問12-1 家を出る時刻と帰宅時刻をお答えください。

【1週当たりの就労日数】



【1日当たりの就労時間】

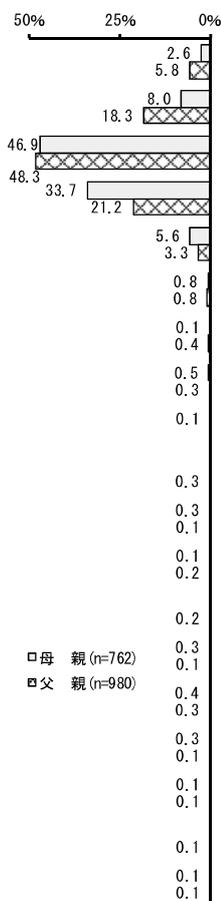


【1日当たりの勤務時間帯】

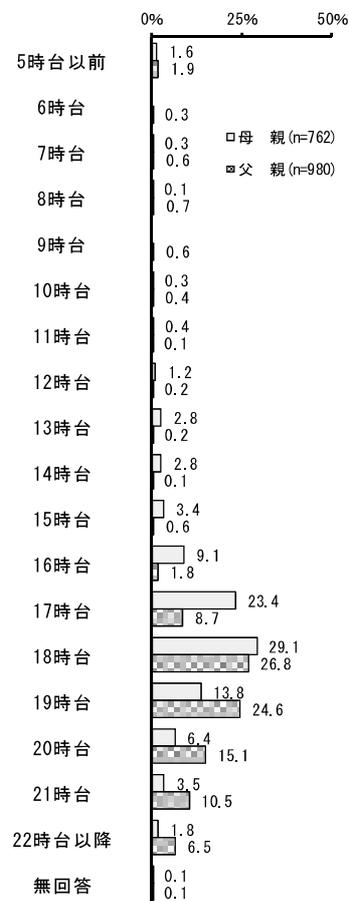
母親：就労日数は「5日以上」が87.1%と最も多い。就労時間は「8時間」が29.7%と最も多い。以下、「7時間」（16.3%）、「6時間」（15.5%）、「9時間」（11.4%）、「10時間」（10.0%）などとなっている。家を出る時間は「7時台」が46.9%、次いで「8時台」が33.7%で合わせた割合は80.6%となっている。帰宅時間は「18時台」が29.1%、次いで「17時台」23.4%で合わせた割合は52.5%となっている。

父親：就労日数は「5日以上」が97.9%と最も多い。就労時間は「8時間」が33.4%と最も多い。以下、「10時間」（22.4%）、「9時間」（16.5%）、「12時間以上」（11.4%）などとなっている。家を出る時間は「7時台」が48.3%と最も多い。以下、「8時台」（21.2%）、「6時台」（18.3%）などとなっている。帰宅時間は「18時台」が26.8%、次いで「19時台」24.6%で合わせた割合は51.4%となっている。

【家を出る時刻】



【帰宅時刻】

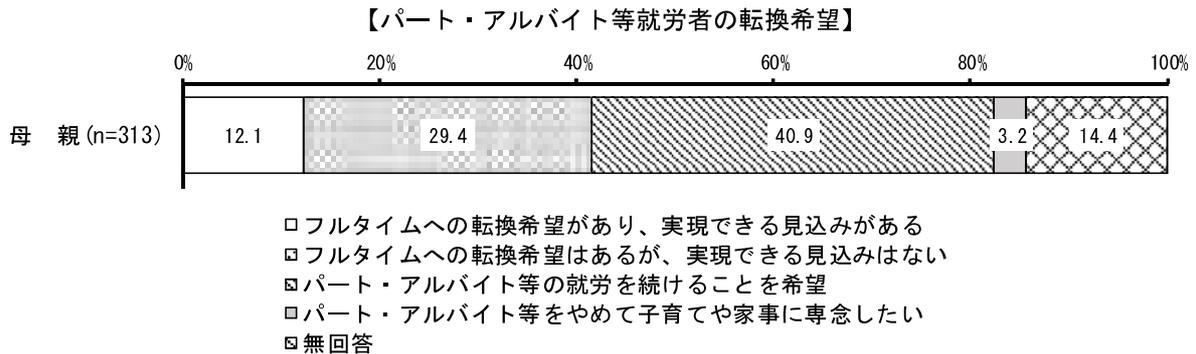


②保護者（母親）の転換・就労希望

問 12 でパート・アルバイト等で就労している（「3、4」に○をつけた）方にうかがいます。
 問 13 フルタイムへの転換希望はありますか。（○は1つ）

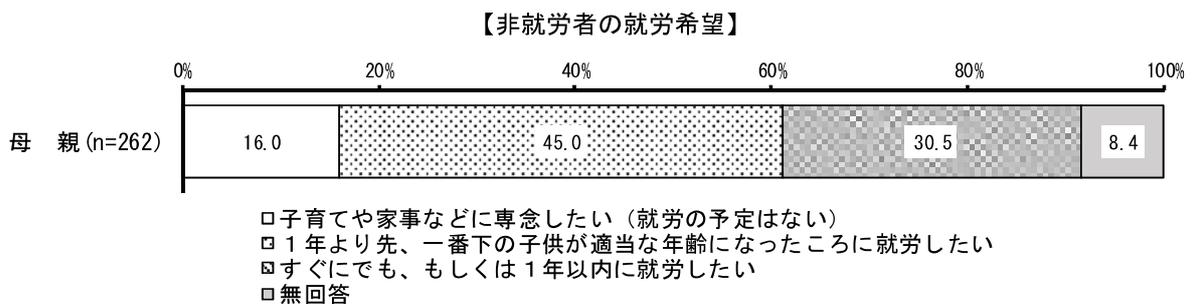
- パート・アルバイト等で就労している母親のフルタイムへの転換希望は「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」が40.9%と最も多い。以下、「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」は29.4%で、「フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある」は12.1%などとなっている。

注) 父親は該当する回答数が少ないので割愛した。



問 12 で就労していない（「5、6」に○をつけた）方にうかがいます。
 問 14 就労したいという希望はありますか。（○は1つ）

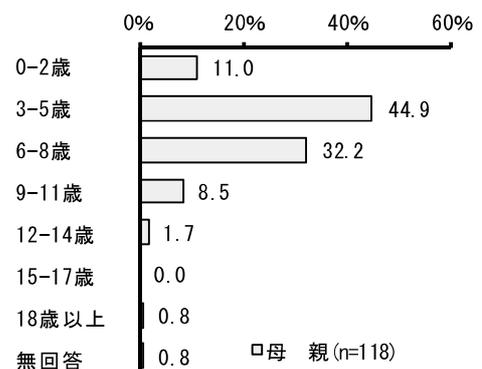
- 就労していない母親の就労希望は、「1年より先、一番下の子供が適当な年齢になったところに就労したい」が45.0%と最も多い。次いで「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が30.5%、「子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）」は16.0%となっている。



- 1年より先に就労したい方の就労希望時の末子の年齢は、「3～5歳」が44.9%と最も多い、次いで「6～8歳」が32.2%と合わせた割合は77.1%となっている。

注) 父親は該当する回答数が少ないので割愛した。

**【1年より先に就労したい方の
就労希望時の末子の年齢】**

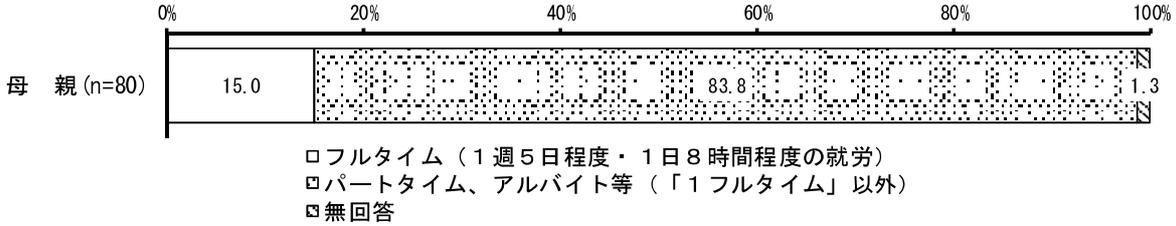


問14で「3. すぐにも、もしくは1年以内に就労したい」に○をつけた方の方がいます。

問14-1 希望する就労形態を教えてください。

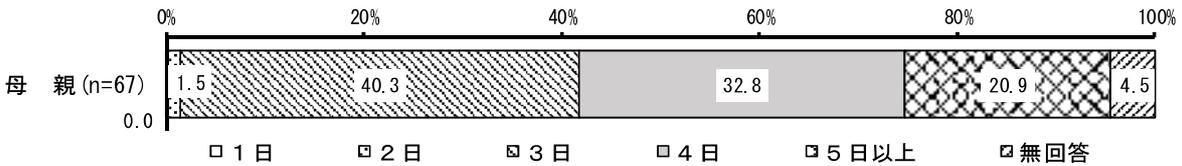
- 1年以内に就労したい方の希望する就労形態は「パート、アルバイト等」が83.8%、「フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）」は15.0%などとなっている。

【1年以内に就労したい方の希望する就労形態】

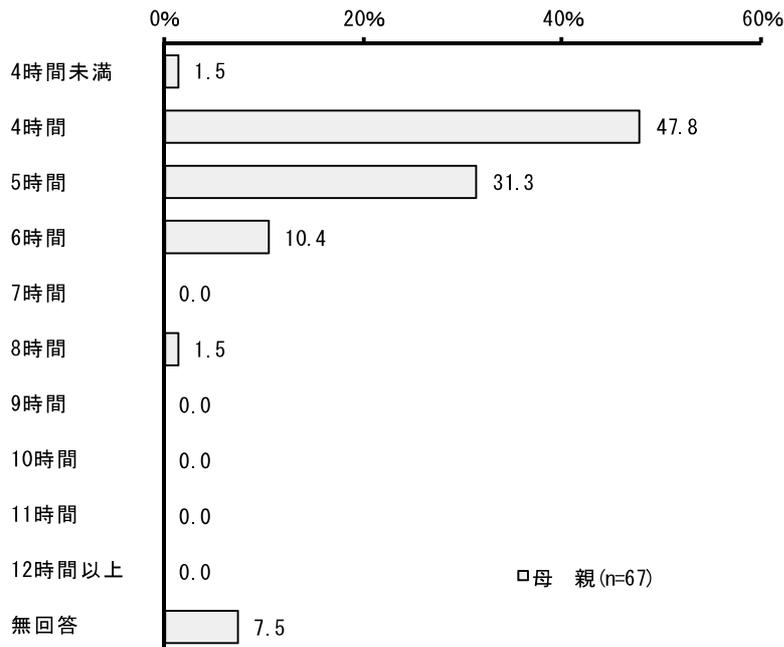


- パートタイム・アルバイト等希望者の1週当たりの就労日数は「3日」が40.3%と最も多い。以下、「4日」(32.8%)、「5日以上」(20.9%)などとなっている。1日当たりの時間は「4時間」が47.8%と最も多い。以下、「5時間」(31.3%)、「6時間」(10.4%)などとなっている。

【パートタイム・アルバイト希望者の就労内容 1週当たりの出勤日数】



【パートタイム・アルバイト希望者の就労内容 1日当たりの勤務時間】



注) 父親は該当する回答数が少ないので割愛した。

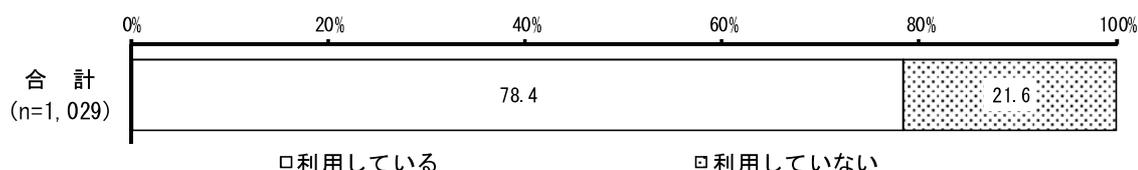
4. 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況について

①平日の定期的な教育・保育事業の利用状況

問 15 宛名のお子さんは現在、幼稚園や保育園などの「定期的な教育・保育の事業」を利用していますか。(〇は1つ)

- 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況は「利用している」が78.4%、「利用していない」21.6%となっている。

【平日の定期的な教育・保育事業の利用の有無】

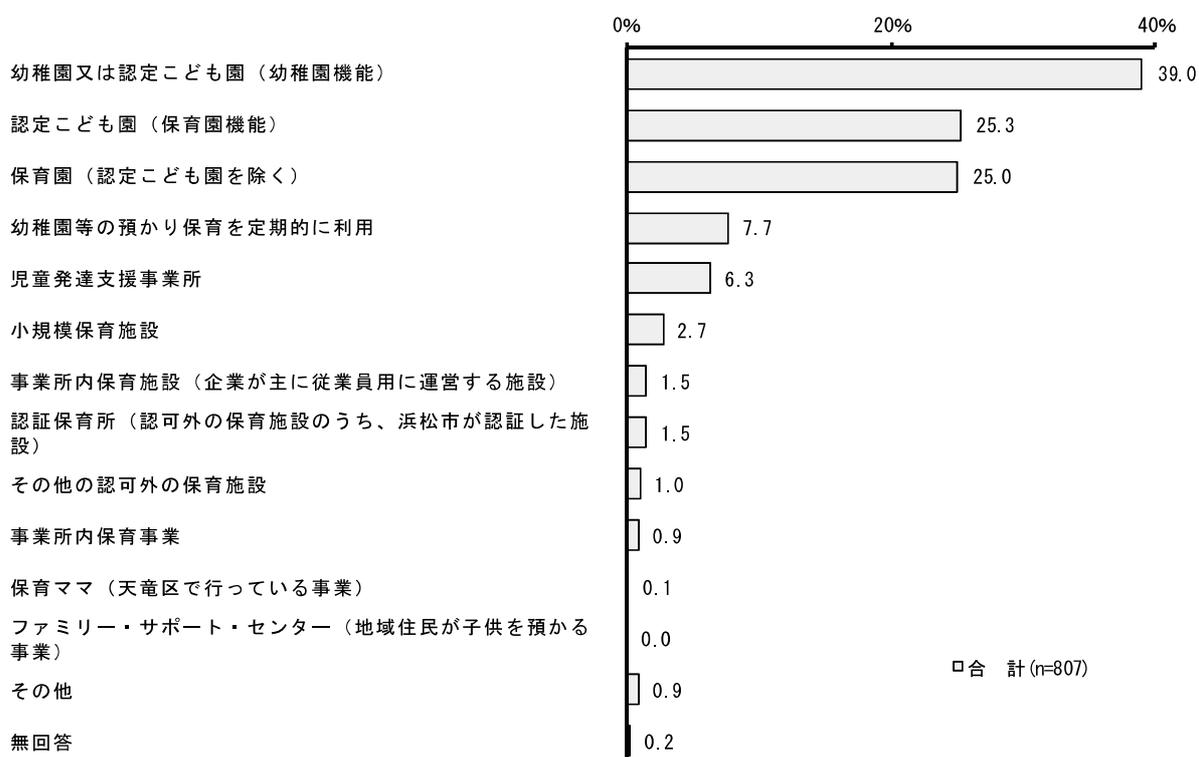


問 15 で「1. 利用している」に〇をつけた方にうかがいます。

問 15-1 宛名のお子さんは、平日どのような教育・保育の事業を利用していますか。年間を通じて「定期的に」利用している事業をお答えください。(〇はいくつでも)

- 平日、年間を通し定期的に利用している教育・保育事業は、「幼稚園又は（幼稚園機能）」が39.0%と最も多い。以下、「認定こども園（保育園機能）」(25.3%)、「保育園（認定こども園を除く）」(25.0%)、「幼稚園等の預かり保育を定期的に利用」(7.7%) などとなっている。

【平日、年間を通し定期的に利用している教育・保育事業】



問15で「1. 利用している」に○をつけた方にうかがいます。

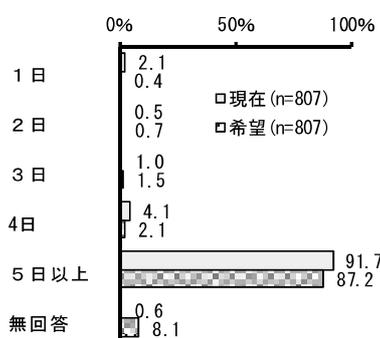
問15-2 平日定期的に利用している教育・保育の事業について、現在どのくらい利用していますか。

また、希望としてはどのくらい利用したいですか。1週当たり何日、1日当たり何時間（何時から何時まで）かを具体的な数字でご記入ください。

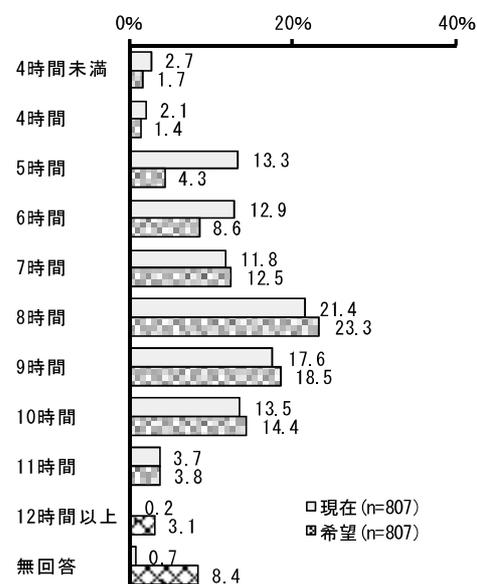
- 平日定期的に利用している教育・保育の事業の現在の利用日数と希望する日数に乖離は少なく「5日以上」が最も多く、現在の利用日数は91.7%、希望日数は87.2%となっている。
- 利用時間は「8時間」が、現在の利用時間は21.4%、希望時間は23.3%と最も多い。「5時間」では現在の利用時間が13.3%に対し希望時間は4.3%と希望時間が8.5ポイント低くなっている。

【平日、年間を通し定期的に利用している教育・保育事業の利用内容】

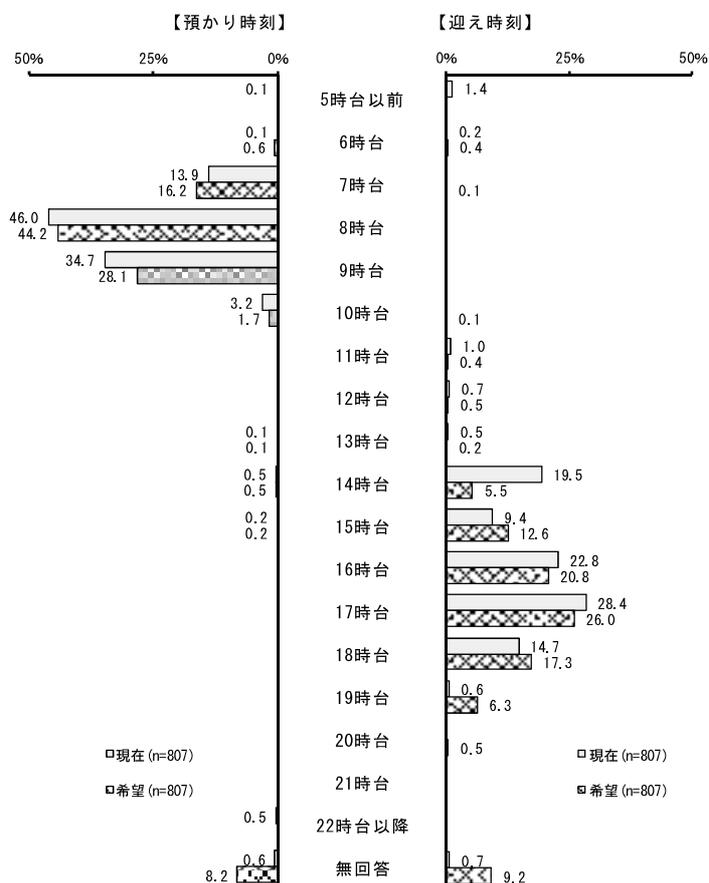
【1週当たりの利用日数】



【1日当たりの利用時間】



【1日当たりの利用時間帯】



問 15 で「1. 利用している」に○をつけた方にうかがいます。

問 15-3 現在、利用している教育・保育事業の所在地はどこですか。(○は1つ)

- 現在、利用している教育・保育事業の所在地は「居住している区」が91.2%と最も多くなっている。

【利用している教育・保育事業の所在地】

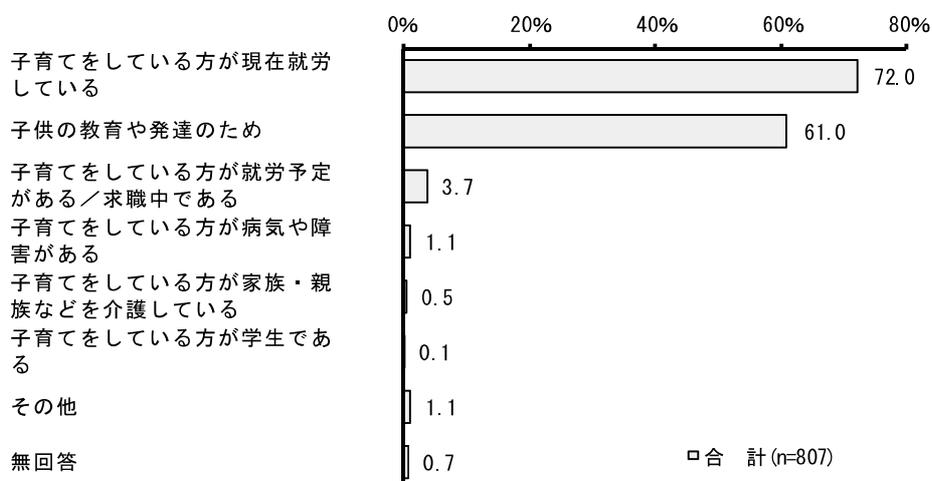


問 15 で「1. 利用している」に○をつけた方にうかがいます。

問 15-4 平日に定期的に教育・保育の事業を利用されている理由を教えてください。(○はいくつでも)

- 平日に定期的に教育・保育の事業を利用されている理由は「子育てをしている方が現在就労している」が72.0%と最も多く、次いで、「子どもの教育や発達のため」が61.0%などとなっている。

【教育・保育の事業の利用理由】

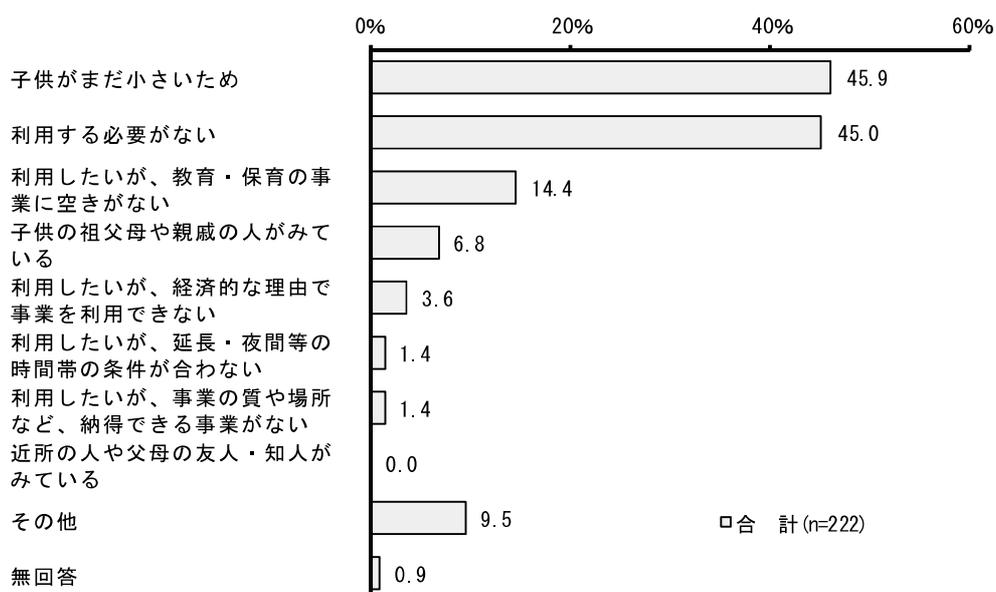


問 15 で「2. 利用していない」に○をつけた方にうかがいます。

問 15-5 利用していない理由は何ですか。(○はいくつでも)

- 平日に定期的に教育・保育の事業を利用していない理由は「子供がまだ小さいため」(45.9%)と「利用する必要がない」(45.0%)が多い。以下、「利用したいが、教育・保育の事業に空きがない」(14.4%)などとなっている。

【教育・保育の事業を利用しない理由】

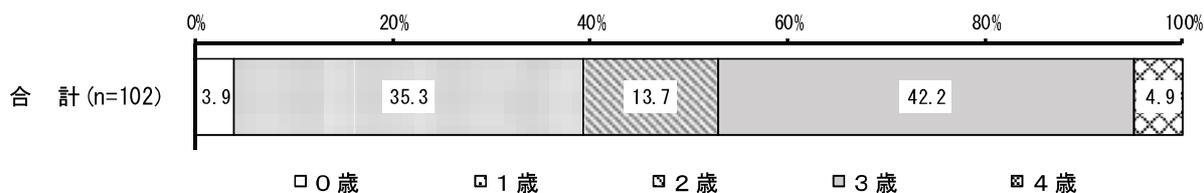


問 15-5 で「8. 子供がまだ小さい～」に○をつけた方にうかがいます。

問 15-5 利用を始める子供の年齢は。

- 子供がまだ小さいと回答した人の子供の利用開始年齢は「3歳」が42.2%と最も多く、次いで「1歳」が35.3%となっている。

【教育・保育の事業を利用する子供の利用開始年齢】

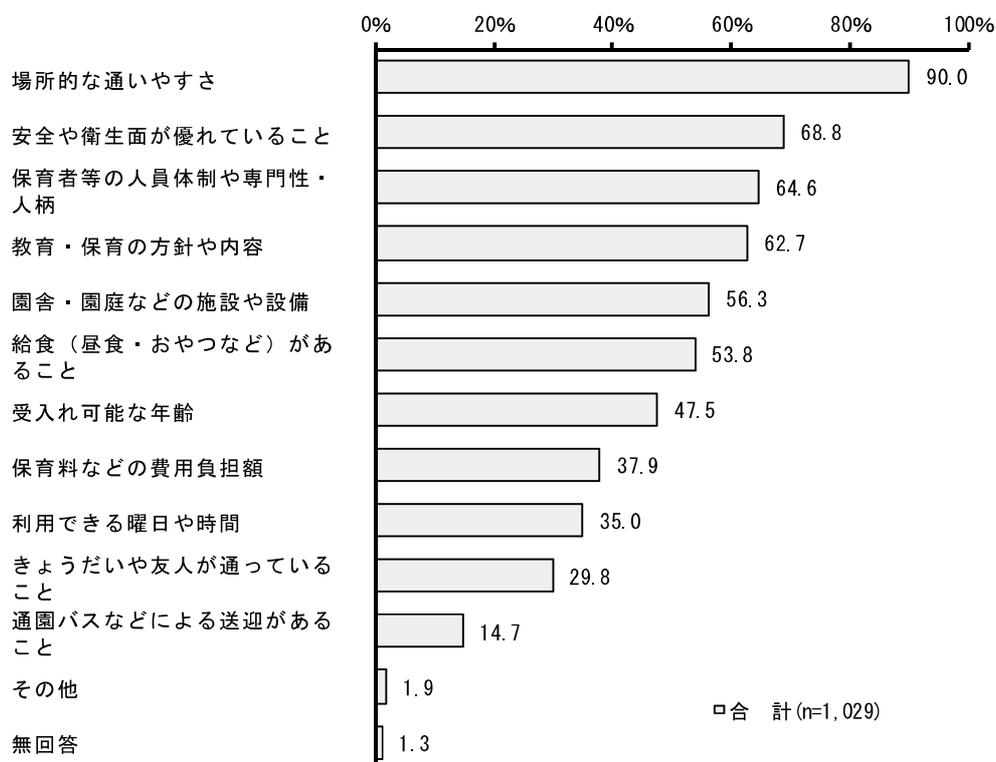


すべての方にうかがいます。

問 15-6 宛名のお子さんの平日の教育・保育の事業を行う施設を選ぶ際に、重視することは何ですか。
(〇はいくつでも)

- 平日の教育・保育の事業を行う施設を選ぶ際に重視するのは「場所的な通いやすさ」が 90.0%と最も多い。以下、「安全や衛生面が優れていること」(68.8%)、「保育者等の人員体制や専門性・人柄」(64.6%)、「教育・保育の方針や内容」(62.7%)、「園舎・園庭などの施設や設備」(56.3%)、「給食(昼食・おやつなど)があること」(53.8%) などとなっている。

【平日の教育・保育の事業を行う施設を選ぶ重視点】

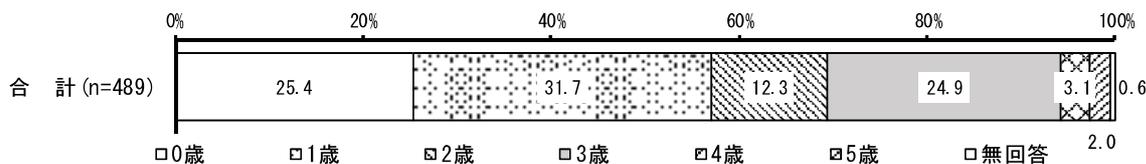


問 15-6 で「1. 受入れ可能な年齢」に〇をつけた方にうかがいます。

問 15-6-1 利用を開始したい年齢に〇をつけてください。

- 受け入れ可能な年齢と答えた人が利用を開始したい年齢は「1歳」が 31.7%と最も多い。以下、「0歳」(25.4%)、「3歳」(24.9%) などとなっている。

【教育・保育の事業を利用する子供の利用開始年齢】

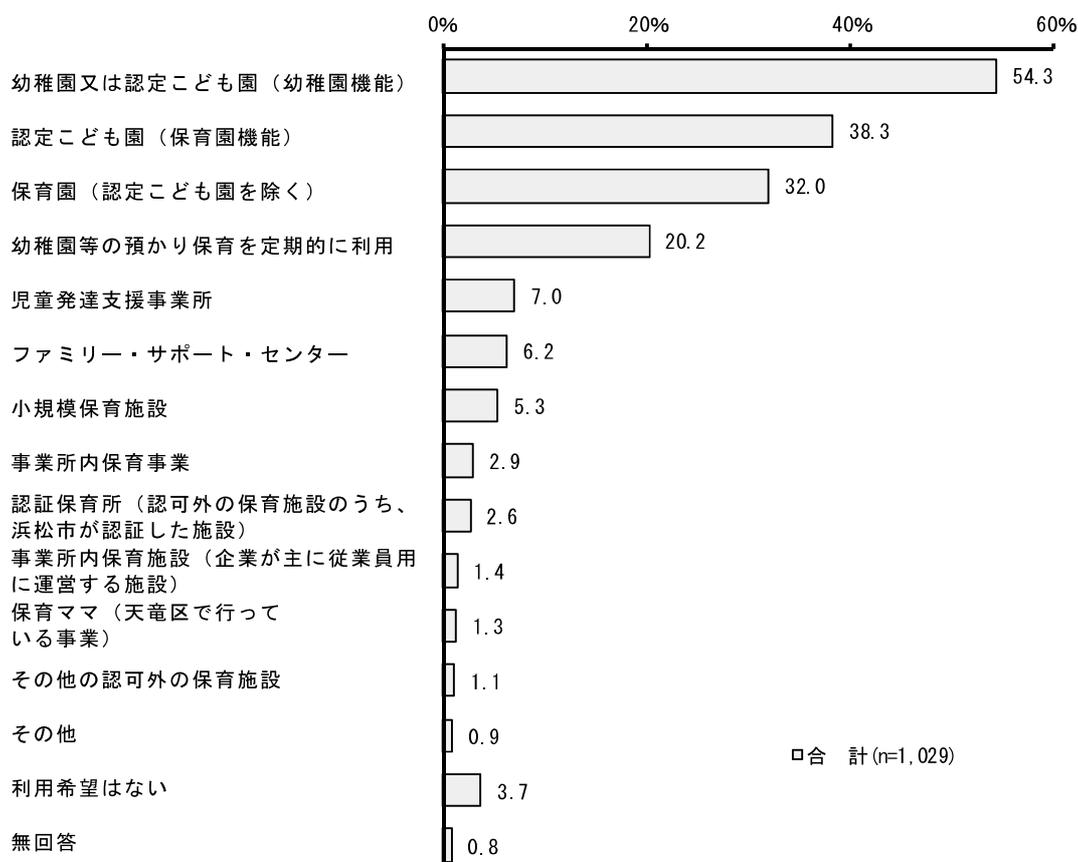


②今後、利用したい平日の定期的な教育・保育事業

問 16 現在、利用している、利用していないにかかわらず、宛名のお子さんの平日の教育・保育の事業として、「定期的に」利用したいと考える事業をお答えください。(〇はいくつでも)

- 平日の教育・保育の事業で「定期的に」利用したいと考える事業は「幼稚園又は認定こども園（幼稚園機能）」が 54.3%と最も多い。以下、「認定こども園（保育園機能）」(38.3%)、「保育園（認定こども園を除く）」(32.0%)、「幼稚園等の預かり保育を定期的に利用」(20.2%) などとなっている。

【今後、定期的に利用したい平日の教育・保育事業】

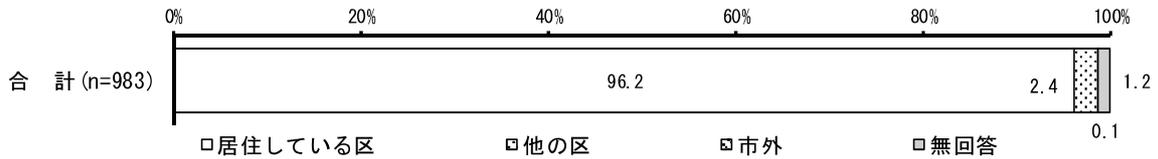


問 16 で利用希望がある（「1. ～13.」に○をつけた）方にうかがいます。

問 16-1 教育・保育事業を利用したい場所はどこですか。（○は1つ）

●今後、利用してみたい教育・保育事業の場所は「居住している区」が96.2%と最も多くなっている。

【利用したい教育・保育事業の場所】

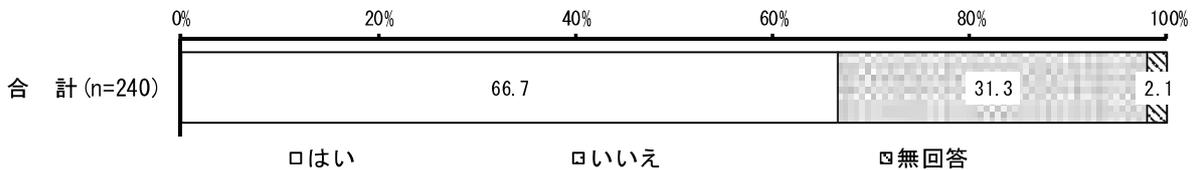


問 16 で幼稚園利用（「1、2のいずれかに○をつけ、かつ「3～12」のいずれかにも○をつけた方にうかがいます。

問 16-2 特に幼稚園（幼稚園の預かり保育をあわせて利用する場合を含む）の利用を強く希望しますか。（○は1つ）

●幼稚園と他の事業の併用者で幼稚園利用を強く希望する人（はい）の割合は66.7%で、望まない人（いいえ）は31.3%であった。

【幼稚園利用の優先意識】



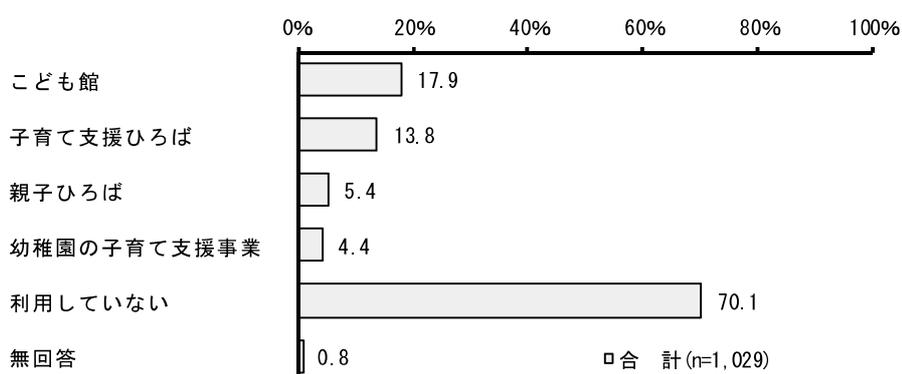
5. 地域の子育て支援事業の利用状況について

①地域の子育て支援事業の利用状況

問 17 宛名のお子さんは、現在、地域子育て支援拠点事業（親子が集まって過ごしたり、相談をしたり、情報提供を受けたりする場で、「子育て支援ひろば」等と呼ばれています）を利用していますか。（〇はいくつでも）

- 地域の子育て支援事業の利用施設は「こども館」が17.9%、「子育て支援ひろば」が13.8%などで「利用していない」は70.1%となっている。

【地域の子育て支援事業の利用施設】



【地域の子育て支援事業の利用状況】

<1週当たり>	調査 回答数	回数						無回答
		1回未満	1回程度	2回程度	3回程度	4回程度	5回以上	
子育て支援ひろば	(n=142)	46.5%	20.4%	11.3%	7.7%	2.1%	0.7%	11.3%
こども館	(n=184)	66.3%	4.3%	0.0%	1.1%	0.0%	0.0%	28.3%
親子ひろば館	(n=56)	51.8%	28.6%	1.8%	1.8%	0.0%	0.0%	16.1%
幼稚園の子育て支援事業	(n=45)	71.1%	15.6%	2.2%	0.0%	0.0%	2.2%	8.9%

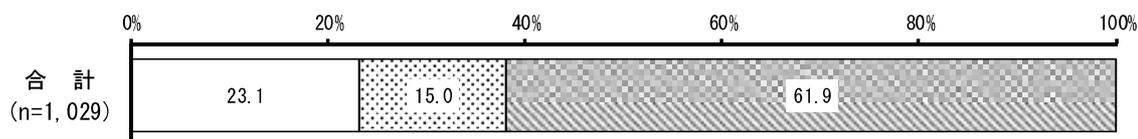
1ヶ月の回数は1/4で算出しているため1日未満がある。

<1日当たり>	調査 回答数	時間					無回答
		1時間以下	2時間程度	3時間程度	4時間程度	5時間以上	
子育て支援ひろば	(n=142)	21.1%	62.7%	11.3%	0.0%	0.0%	4.9%
こども館	(n=184)	4.9%	42.4%	28.8%	10.9%	9.2%	3.8%
親子ひろば館	(n=56)	30.4%	58.9%	3.6%	0.0%	0.0%	7.1%
幼稚園の子育て支援事業	(n=45)	22.2%	62.2%	4.4%	0.0%	0.0%	11.1%

問 18 地域子育て支援拠点事業について、今は利用していないが、できれば今後利用したい、あるいは、利用日数を増やしたいと思いませんか。(〇は1つ)

- 地域子育て支援拠点事業の利用意向は「利用していないが、今後利用したい」が23.1%、「すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい」は15.0%で「新たに利用したり、利用日数を増やしたいとは思わない」は61.9%であった。

【地域子育て支援拠点事業の利用意向】



- 利用していないが、今後利用したい
- すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい
- 新たに利用したり、利用日数を増やしたいとは思わない

【地域子育て支援拠点事業の利用頻度】

<1週当たり>	調査回答数	1回未満	1回程度	2回程度	3回程度	4回程度	5回以上	無回答
利用していないが、今後利用したい	(n=238)	52.1%	26.1%	9.7%	2.5%	0.0%	0.8%	8.8%
すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい	(n=154)	47.4%	26.6%	5.2%	1.3%	0.6%	1.9%	16.9%

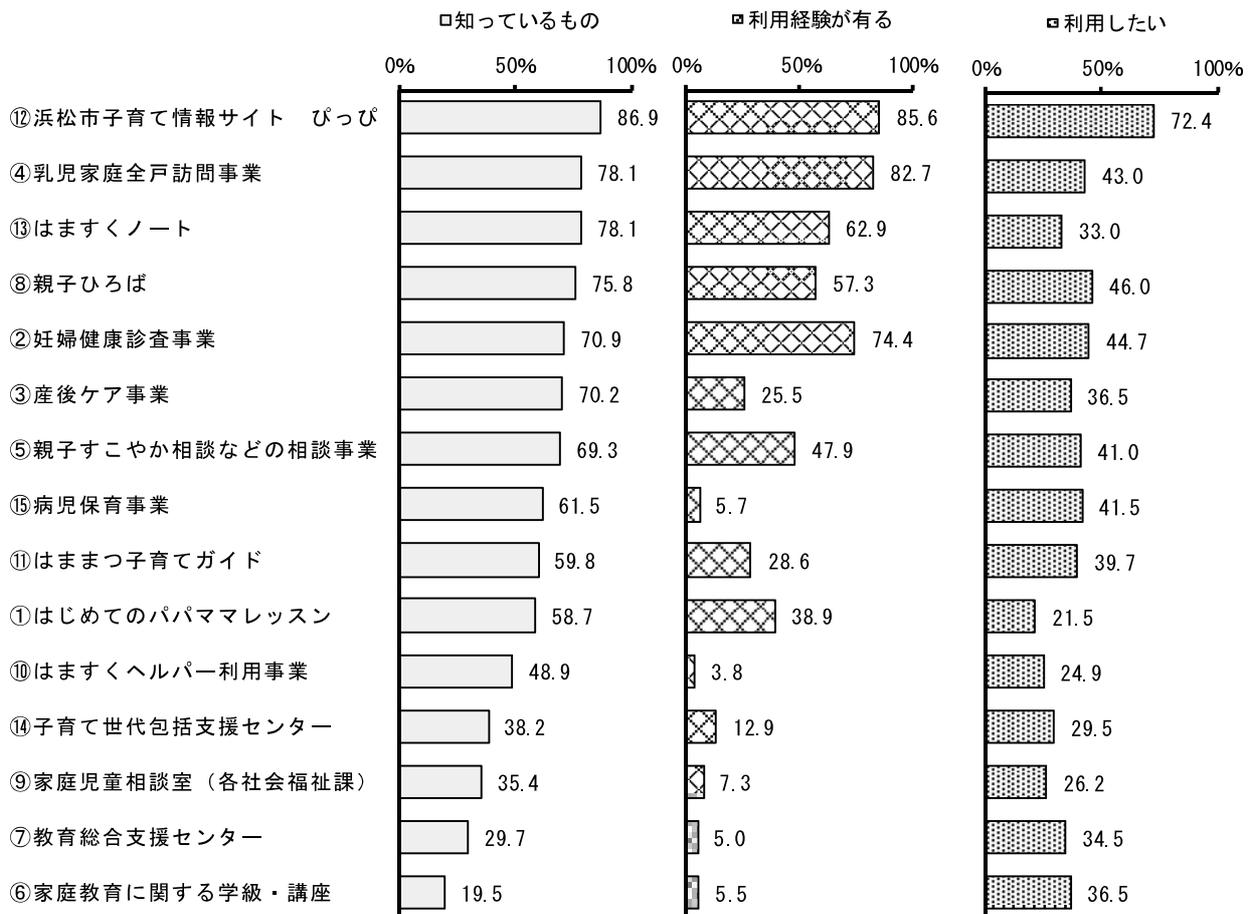
1ヶ月の回数は1/4で算出しているため1日未満がある。

②浜松市の子育て支援事業について

問 19 浜松市子育て事業で「知っているもの」、「これまでに利用したことがあるもの」、「今後、利用したいと思うもの」をお答えください。

- 知っている子育て支援事業は「⑫浜松市子育て情報サイトぴっぴ」が 86.9%と最も多く知られている。以下、「④乳児家庭全戸訪問事業」(78.1%)、「⑬はますくノート」(78.1%)、「⑧親子ひろば」(75.8%)、「②妊婦健康診査事業」(70.9%)、「③産後ケア事業」(70.2%) などとなっている。
- 利用したことのある子育て支援事業は「⑫浜松市子育て情報サイトぴっぴ」が 85.6%と最も多く利用されている。以下、「④乳児家庭全戸訪問事業」(82.7%)、「②妊婦健康診査事業」(74.4%)、「⑬はますくノート」(62.9%)、「⑧親子ひろば」(57.3%)、「⑤親子すこやか相談などの相談事業」(47.9%) などとなっている。
- 今後利用したい子育て支援事業は「⑫浜松市子育て情報サイトぴっぴ」が 72.4%と最も多くの利用意向がある。以下、「⑧親子ひろば」(46.0%)、「②妊婦健康診査事業」(44.7%)、「④乳児家庭全戸訪問事業」(43.0%)、「⑮病児保育事業」(41.5%)、「⑤親子すこやか相談などの相談事業」(41.0%) などとなっている。

【浜松市の子育て支援事業の認知度、利用経験、利用意向】



合計 (n=1,029)

③浜松市の子育て支援事業を利用しての感想

問 19-1 利用して良かった点や工夫してほしい点があれば記入してください。

主な意見

①はじめてのパパママレッスン

- 出産前に夫婦で相談したり話し合うとても良い機会となった。
- 夫婦で参加することで親になることへの不安が減ったと思う。
- 沐浴指導や、男性の妊婦体験ができてよかった。

②妊婦健康診査事業

- 初めての妊娠で、どの頻度で受診すればよいか不安があったので、定期的を受診できてよかった。
- 事業内容は良いと思うが、利用料金が高いと感じた。

③産後ケア事業

- 身体的なこと、子育てのこと、自身の体調等について相談でき、精神的にも支えになった。
- 産後ケア事業を利用したが、料金が高いと感じた。出産直後は出費が多く、料金が安ければ利用しやすいと思う。

④乳児家庭全戸訪問事業

- 初めての出産・育児で不安な中、区の保健師さんが来てくれて、たいへん助かった。
- 保健師さんにいろいろ相談できたり、励ましてもらえたりしたことが、心強かった。希望する方は、2ヵ月、3ヵ月も訪問してもらえたらいいと思った。

⑤親子すこやか相談などの相談事業

- 親子すこやか相談は子育ての不安などを相談できたので、とても助かった。LINEでの予約システムも利用しやすかった。
- 身体測定や食事について、相談した。検診のない時期の育ち具合などの状況も分かり、アドバイスをいただけたので、悩みが少し軽くなった。

⑥家庭教育に関する学級・講座

- なし

⑦教育総合支援センター

- なし

⑧親子ひろば

- 親子ひろばは無料で様々な場所で行われおり、乳幼児の遊び場としてたいへんよかった。
- それぞれの親子ひろばで、イベントがあったり、先生たちがとても優しく声を掛けてくださったり、孤立せず親子で楽しく過ごせた。また、親同士の交流の場所としてもよかった。

⑨家庭児童相談室（各社会福祉課）

- なし

⑩はますくヘルパー利用事業

- なし

⑪はままつ子育てガイド

- はままつ子育てガイドはわかりやすく、出産から子育てまで参考になった。

⑫浜松市子育て情報サイト ぴっぴ

- 行政的な情報からおでかけ・発達のことまで幅広く載っていて、とても助かる。
- 浜松のママ達の中でぴっぴはかなり浸透していると思う。子育て事業がまとまっていて、とても見やすい。
- 書類等印刷などでもできるようになっていて、使いやすくなっていると思う。

⑬はますくノート

- 赤ちゃんのときの子供の様子を大きくなってから見返すことができ良い思い出になる。
- 家庭だけでなく産院や小児科でも、はますくノートの利用をもっと広めてほしい。
- 成長記録は母子手帳に残すので、二重に記録するのは面倒で使わなくなった。不要ではないか。

⑭子育て世代包括支援センター

- なし

⑮病児保育事業

- 病児保育事業を拡充してほしい。

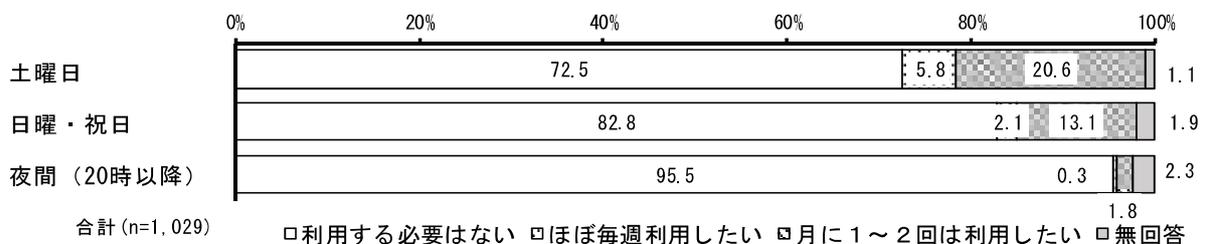
6. 平日以外の教育・保育事業の利用意向について

①土曜日と日曜日・祝日又は夜間の定期的な教育・保育事業の利用意向

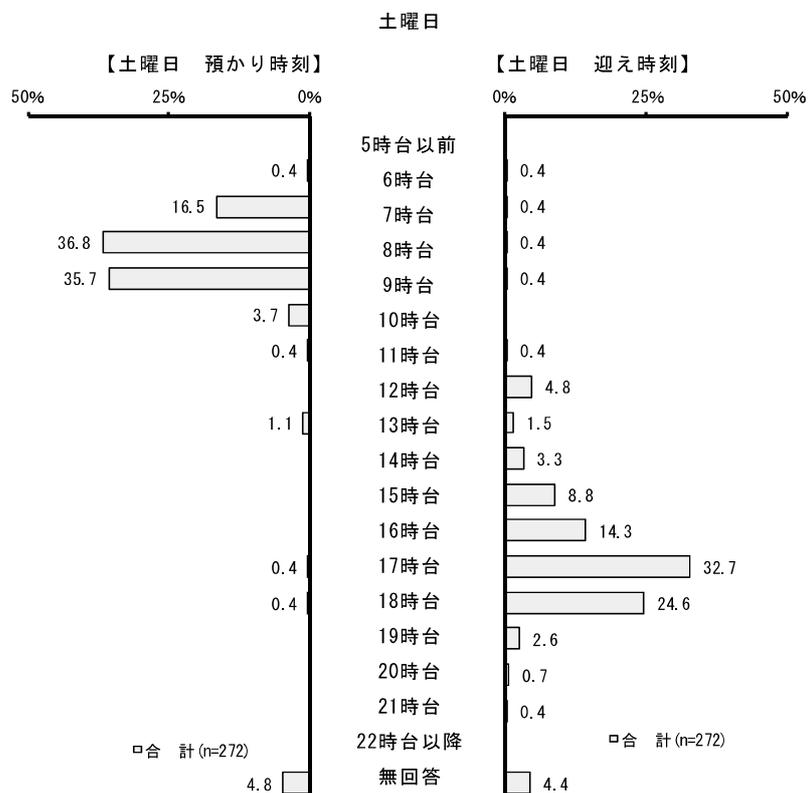
問 20 宛名のお子さんについて、土曜日と日曜日・祝日又は夜間に、定期的な教育・保育の事業の利用希望はありますか。(一時的な利用は除きます)(○はそれぞれ1つ) ※なお、これらの事業の利用には、一定の利用者負担が発生します。

- 土曜日の利用意向は「月に1～2回は利用したい」が20.6%、「ほぼ毎週利用したい」が5.8%で、「利用する必要はない」は72.5%となっている。
- 日曜・祝日の利用意向は「月に1～2回は利用したい」が13.1%、「ほぼ毎週利用したい」が2.1%で、「利用する必要はない」は82.8%となっている。
- 夜間(20時以降)の利用意向は「月に1～2回は利用したい」が1.8%、「ほぼ毎週利用したい」が0.3%で、「利用する必要はない」は95.5%となっている。

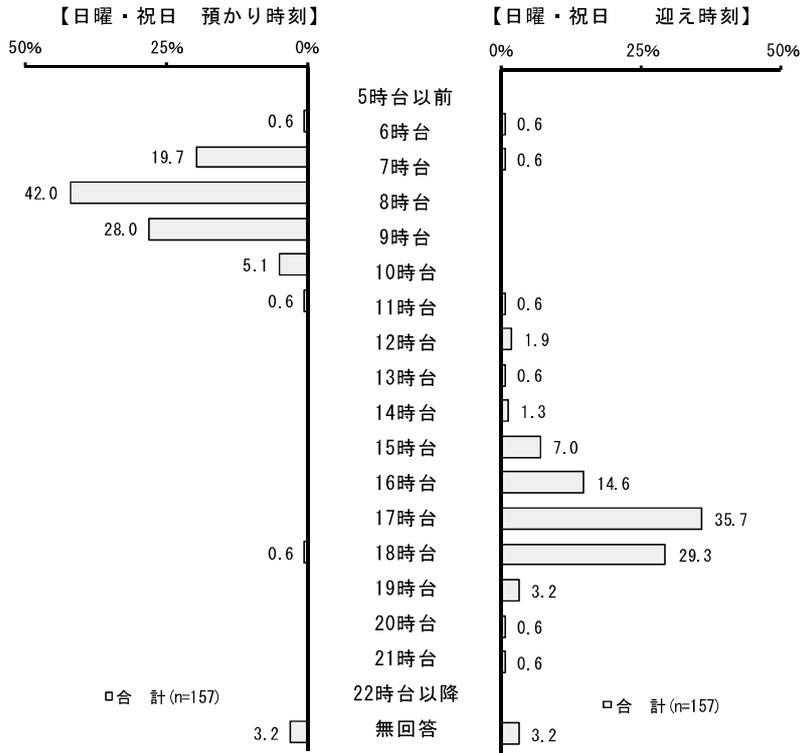
【平日以外の定期的な教育・保育事業の利用意向】



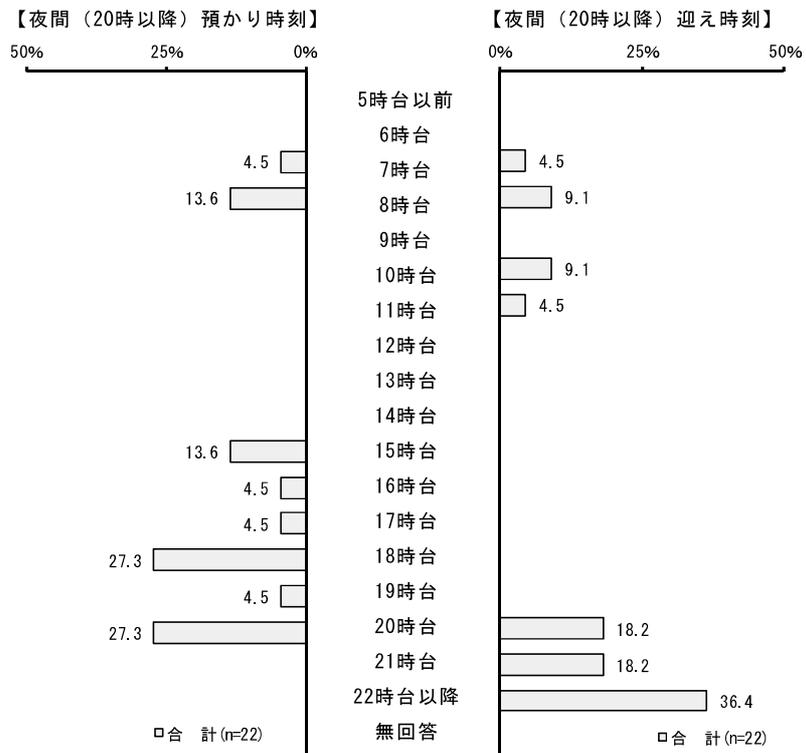
【浜松市の子育て支援事業、利用したい時間帯】



日曜・祝日



夜間 (20時以降)

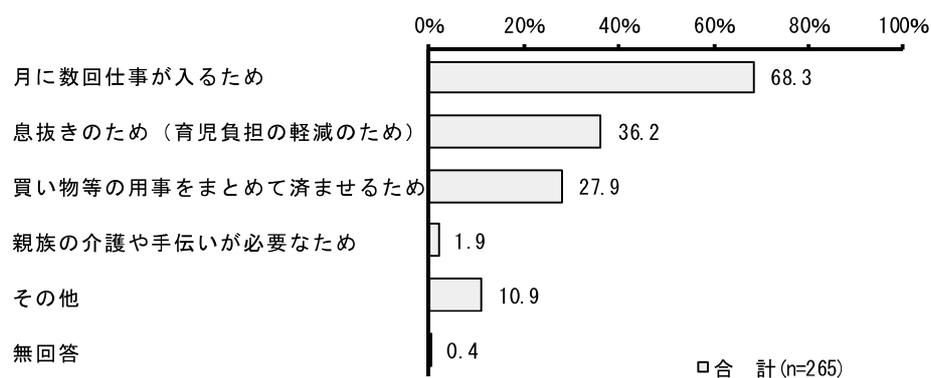


問 20 で土曜日と日曜日・祝日又は夜間のいずれかで、「3. 月に 1～2 回は利用したい」に○をつけた方
にうかがいます。

問 20-1 毎週ではなく、時々利用したい理由は何ですか。(○はいくつでも)

- 利用頻度が「月に 1～2 回」と不定期な理由は「月に数回仕事が入るため」が 68.3%と最も多い。以下。「息抜きのため（育児負担の軽減のため）」(36.2%)、「買い物等の用事をまとめて済ませるため」(27.9%) などとなっている。

【利用が月に 1～2 回ではない理由】



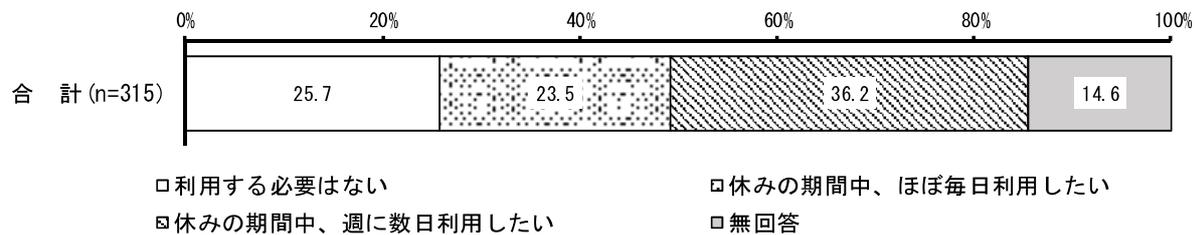
②幼稚園児の長期休暇期間中の教育・保育事業の利用意向

「幼稚園」（認定こども園を除く）を利用されている方にうかがいます。

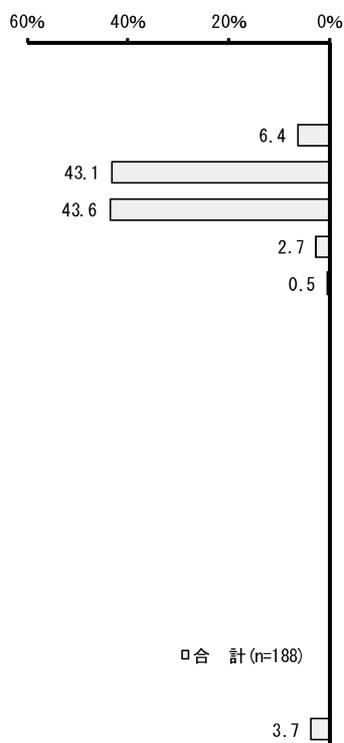
問 21 宛名のお子さんについて、夏休み・冬休みなど長期の休暇期間中の教育・保育の事業の利用を希望しますか。

●幼稚園児童の長期休暇期間中の教育・保育事業の利用意向は「休みの期間中、週に数日利用したい」が36.2%、「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」が23.5%で、「利用する必要はない」は25.7%であった。

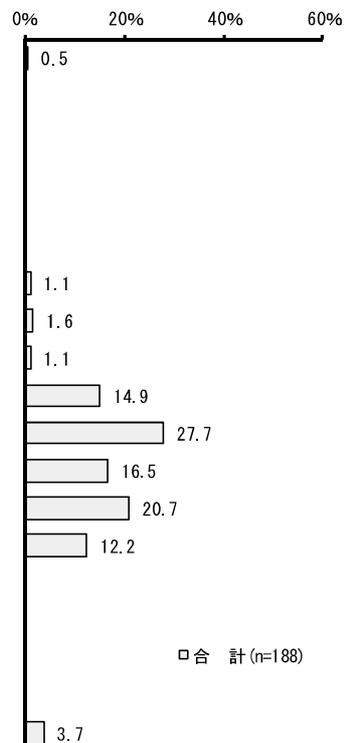
【長期期間中の教育・保育事業の利用意向と利用時間帯】



【長期休暇 預かり時刻】



【長期休暇 迎え時刻】

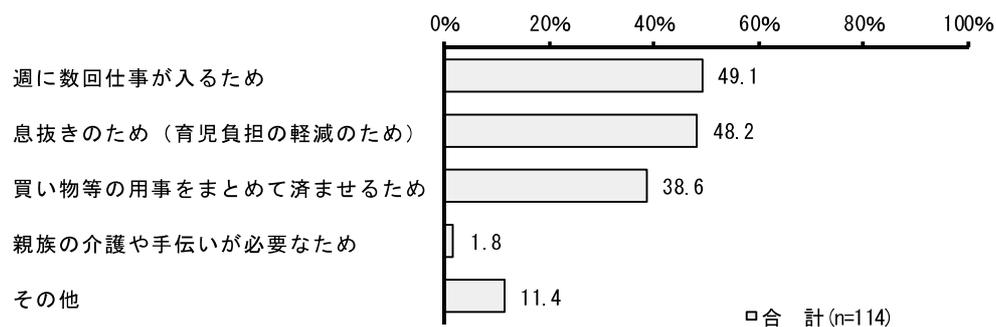


問 21 「3. 休みの期間中、週に数日利用したい」に○をつけた方にうかがいます。

問 21-1 毎日ではなく、時々利用したい理由はなんですか。(○はいくつでも)

- 利用頻度が「休みの期間中、週に数日利用したい」理由は「週に数回仕事が入るため」が49.1%、「息抜きのため（育児負担の軽減のため）」が48.2%、次いで、「買い物等の用事をまとめて済ませるため」が38.6%などとなっている。

【利用が毎日ではない理由】

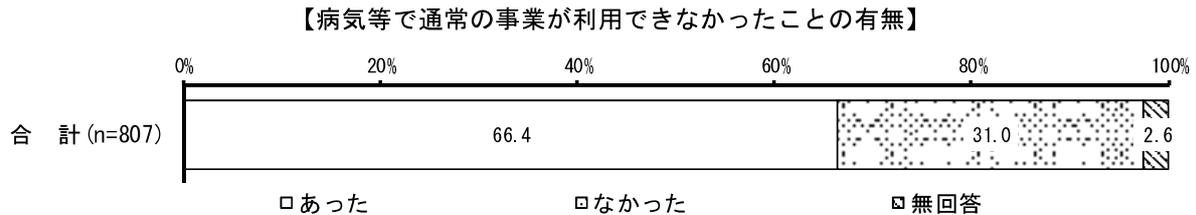


③幼稚園児が病気の際の対応状況

平日の定期的な教育・保育の事業を利用していると答えた保護者の方（問15で1に○をつけた方）にうかがいます。

問22 この1年間に、宛名のお子さんが病気やケガで通常の事業が利用できなかったことはありますか。（○は1つ）

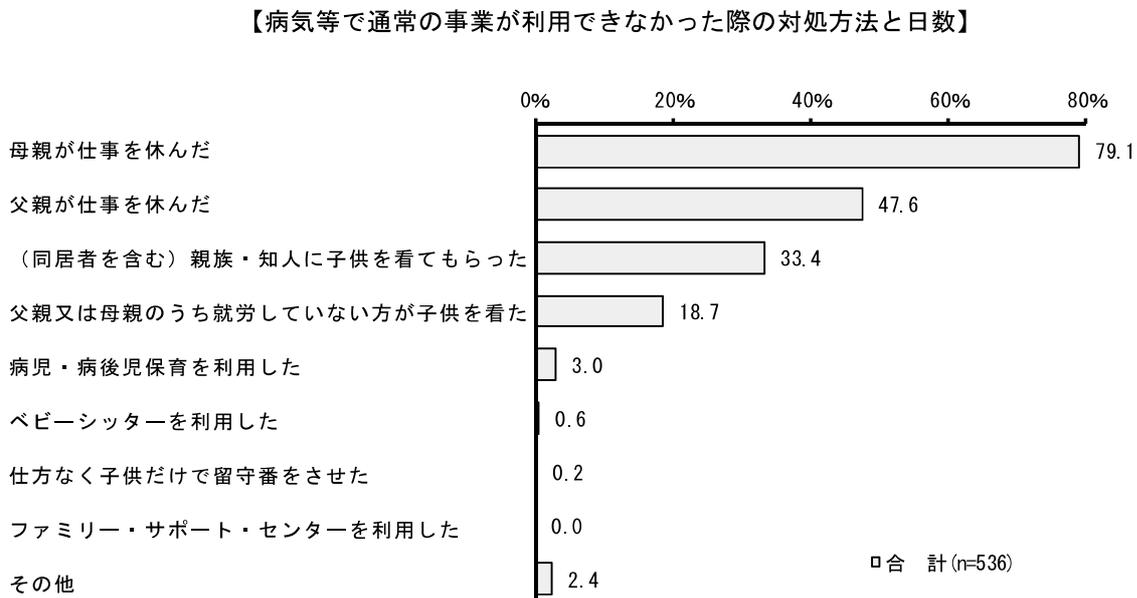
- この1年間に幼稚園児（平日の教育・保育を利用する子ども）が病気等で通常の事業が利用できなかったことが「あった」は66.4%、「なかった」は31.0%であった。



問22で「1. あった」に○をつけた方にうかがいます。

問22-1 その際、この1年間に行った対処方法を教えてください。（○はいくつでも）

- 幼稚園児が病気等で通常の事業が利用できなかった際の対処方法は「母親が仕事を休んだ」が79.1%で最も多い。以下、「父親が仕事を休んだ」（47.6%）、「（同居者を含む）親族・知人に子供を見てもらった」（33.4%）などとなっている。



対処方法と日数	調査回答数	1日	2日	3日	4日	5日	6-14日	15日以上	無回答
母親が仕事を休んだ	424	3.8%	5.9%	7.5%	2.6%	16.7%	29.5%	26.2%	7.8%
父親が仕事を休んだ	255	15.3%	14.9%	12.9%	2.4%	19.6%	21.2%	6.3%	7.5%
(同居者を含む)親族・知人に子供を見てもらった	179	10.6%	16.2%	17.3%	2.8%	17.3%	15.1%	8.4%	12.3%
父親又は母親のうち就労していない方が子供を見た	100	2.0%	1.0%	2.0%	2.0%	6.0%	22.0%	20.0%	45.0%
病児・病後児保育を利用した	16	18.8%	18.8%	6.3%	6.3%	6.3%	37.5%	6.3%	0.0%
ベビーシッターを利用した	3	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
仕方なく子供だけで留守番をさせた	1	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
ファミリー・サポート・センターを利用した	0								
その他	13	0.0%	15.4%	0.0%	0.0%	0.0%	38.5%	15.4%	30.8%

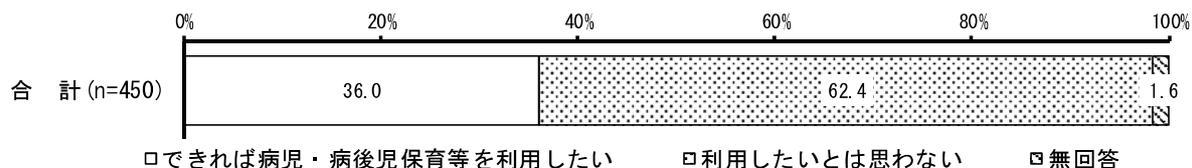
問 22-1 で父親、母親が対処したと回答した方にうかがいます。

問 22-2 その際、「できれば病児・病後児保育等を利用したい」と思いましたか。(○は1つ)

※なお、病児・病後児保育等の利用には、一定の利用料がかかり、利用前にかかりつけ医の受診が必要となります。

- 父親、母親が対処した際に、病児・病後児保育等を「利用したいと思った」は36.0%で、「利用したいと思わなかった」が62.4%であった。

【病児・病後児保育等の利用意向】

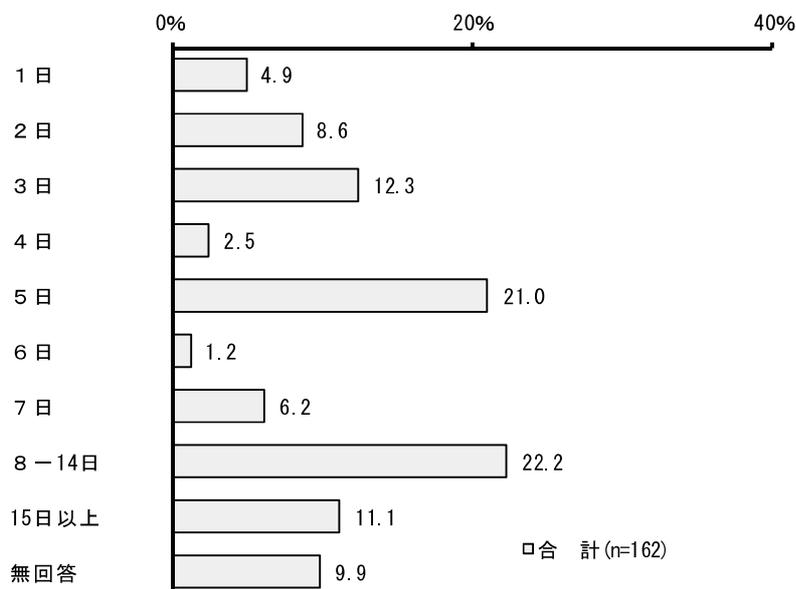


問 22-2 で「できれば病児・病後児保育等を利用したい」と思った方へ

問 22-2 その際、希望される対処日数を教えてください。

- 病児・病後児保育等で利用したい日数は「8～14日」が22.2%と最も多い。以下、「5日」(21.0%)、「3日」(12.3%)、「15日以上」(11.1%) などとなっている。

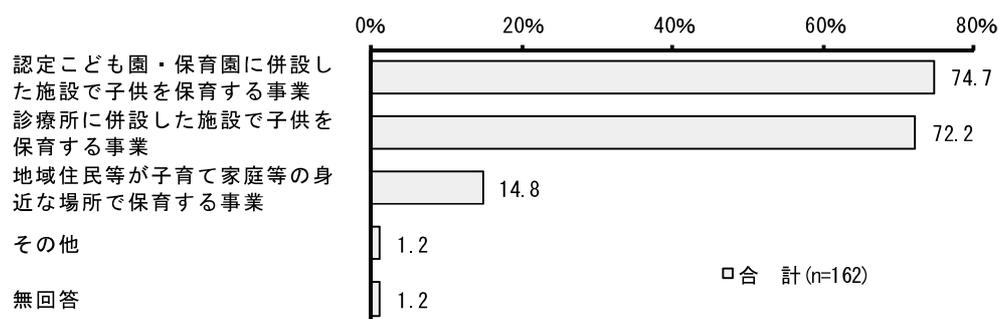
【病児・病後児保育等の利用日数】



問 22-2 で「できれば病児・病後児保育等を利用したい」と思った方へ
 問 22-3 その際、いずれの事業形態が望ましいと思われますか。(〇はいくつでも)

●利用する際の望ましい事業形態は「認定こども園・保育園に併設した施設で子供を保育する事業」が 74.7%、「診療所に併設した施設で子供を保育する事業」は 72.2%などとなっている。

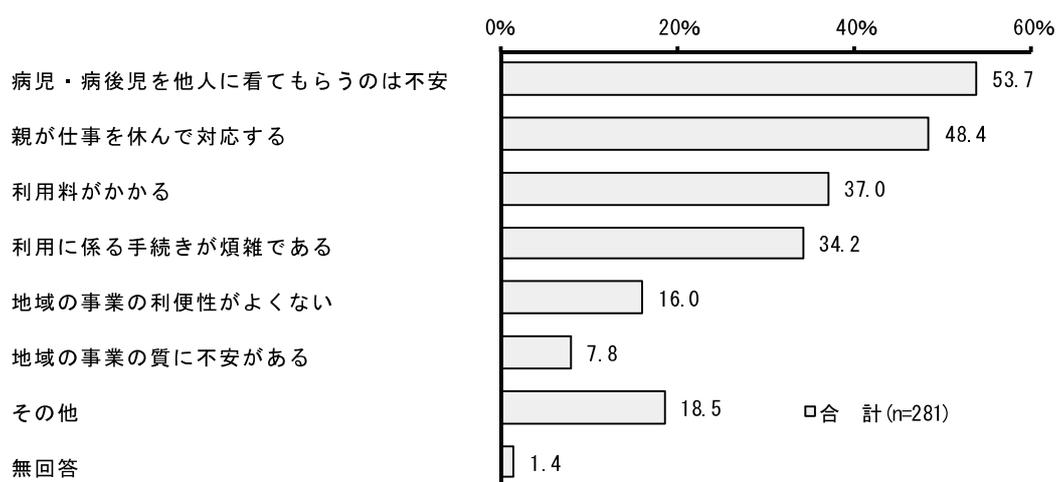
【病児・病後児保育等の望ましい事業形態】



問 22-2 で「利用したいとは思わない」と思った方へ
 問 22-4 そう思われる理由は何ですか。(〇はいくつでも)

●利用したいと思わなかった理由は「病児・病後児を他人に看てもらうのは不安」が 53.7%と最も多い。以下、「親が仕事を休んで対応する」(48.4%)、「利用料がかかる」(37.0%)、「利用に係る手続きが煩雑である」(34.2%) などとなっている。

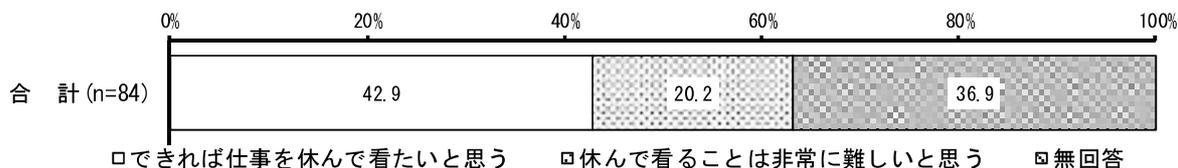
【病児・病後児保育等を利用したいと思わなかった理由】



問 22-1 で父親、母親が対処しなかった（問 22-1 で 3～9 だけ）と回答した方にうかがいます。
問 22-5 できれば仕事を休んで看たいと思いましたか。（○は 1 つ）

●父親、母親が対処できなかつた際に「できれば仕事を休んで看たいと思った」は 42.9%、「休んで看することは非常に難しいと思う」が 20.2%であった。

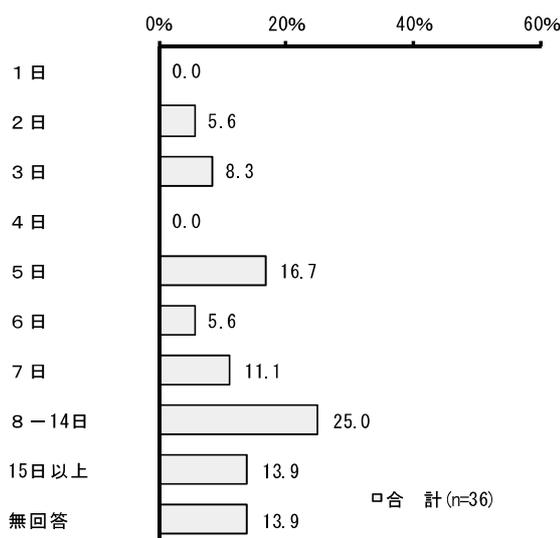
【対処できなかつた際の気持ち】



問 22-5 できれば仕事を休んで看たいと思った方へ
問 22-5 その際、希望される対処日数を教えてください。

●できれば休んで看たかつたと思つた日数は「8～14日」が 25.0%と最も多い。以下、「5日」(16.7%)、「15日以上」(13.9%)などとなっている。

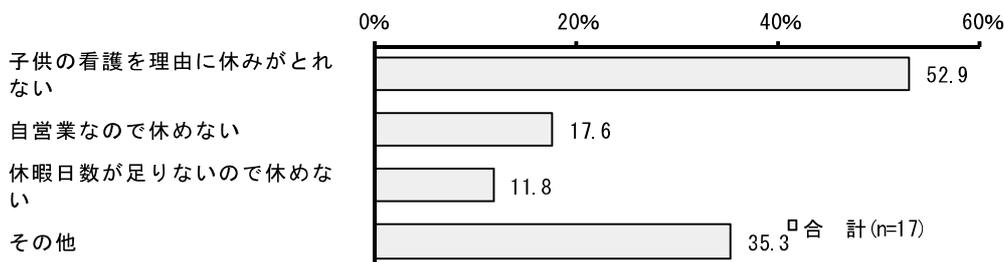
【休んで看たかつた日数】



問 22-5 休んで看することは非常に難しいと思つた方へ
問 22-6 そう思う理由を教えてください。（○はいくつでも）

●休んで看することは非常に難しいと思つた理由は「子供の看護を理由に休みがとれない」が 52.9%と最も多い。次いで、「自営業なので休めない」(17.6%)、「休暇日数が足りないので休めない」(11.8%)などとなっている。

【休んで看することは非常に難しいと思つた理由】

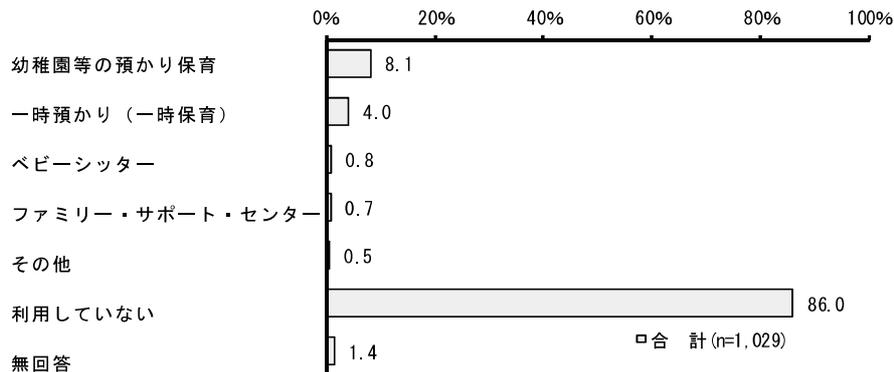


④不定期の教育・保育事業や宿泊利用について

問 23 宛名のお子さんについて、日中の定期的な保育や病気のため以外に、私用、親の通院、不定期の就労等の目的で不定期に利用している事業はありますか。(〇はいくつでも)
 その際、この1年間に利用した対処日数を教えてください。

- 不定期の就労等の目的で不定期に利用している事業は「幼稚園等の預かり保育」が8.1%となっている。一方、「利用していない」は86.0%であった。

【不定期に利用している事業と利用日数】



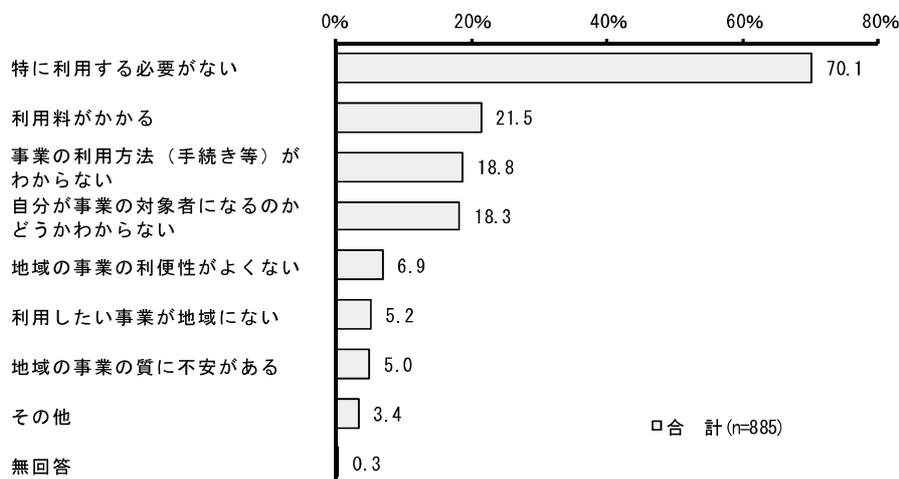
利用している事業と日数	調査回答数	1日	2日	3日	4日	5日	6-14日	15日以上	無回答
幼稚園等の預かり保育	83	6.0%	7.2%	8.4%	1.2%	12.0%	19.3%	33.7%	12.0%
一時預かり (一時保育)	41	12.2%	9.8%	14.6%	0.0%	4.9%	19.5%	34.1%	4.9%
ベビーシッター	8	12.5%	25.0%	12.5%	25.0%	0.0%	12.5%	12.5%	0.0%
ファミリー・サポート・センター	7	57.1%	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%	14.3%	14.3%	0.0%
その他	5	0.0%	0.0%	40.0%	0.0%	20.0%	40.0%	0.0%	0.0%

問 23 で「6. 利用していない」に〇をつけた方にうかがいます。

問 23-1 現在利用していない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

- 現在利用していない理由は「特に利用する必要がない」が70.1%と最も多い。以下、「利用料がかかる」(21.5%)、「事業の利用方法(手続き等)がわからない」(18.8%)、「自分が事業の対象者になるのかわからない」(18.3%) などとなっている。

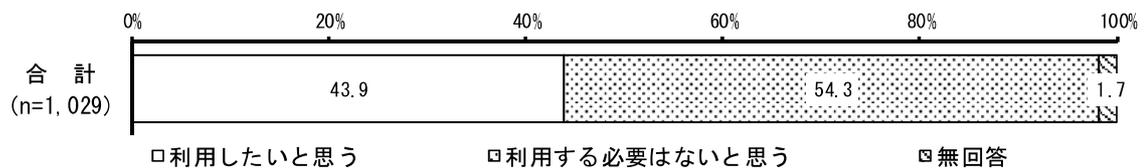
【現在利用していない理由】



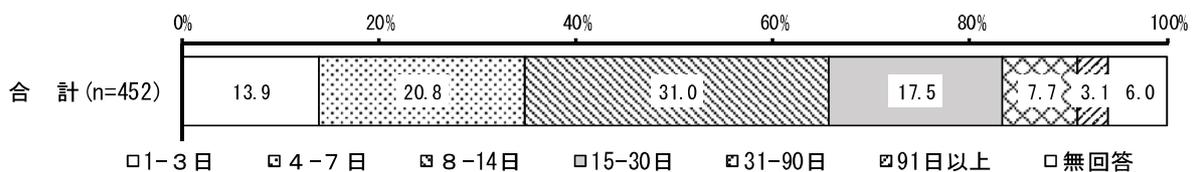
問 24 宛名のお子さんについて、私用、親の通院、不定期の就労等の目的で、事業を利用する必要があると思いますか。(〇は1つ) 利用する必要があると思った場合、1年間で何日くらい事業を利用したいと思いますか。

- 私用、親の通院、不定期の就労等の目的で事業を「利用したいと思う」が 43.9%で「利用する必要はないと思う」は 54.3%であった。

【私用、親の通院、不定期の就労等の目的での事業利用意向と必要日数】



- 事業を利用するのに必要な日数は「8～14日」が 31.0%と最も多い。以下、「4～7日」(20.8%)、「15～30日」(17.5%) などとなっている。



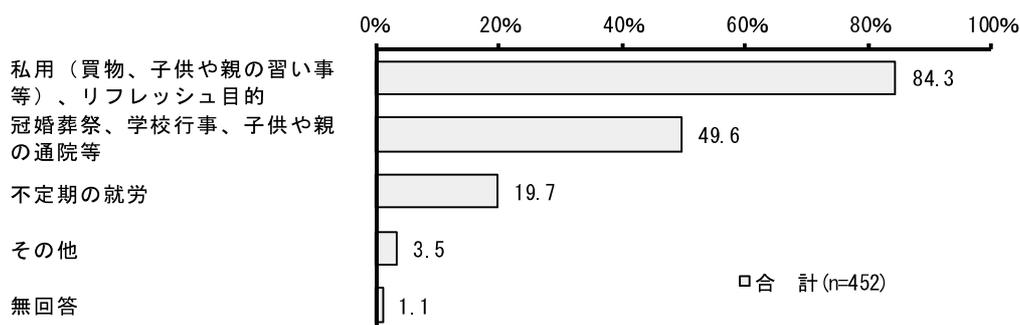
問 24 で私用、親の通院、不定期の就労等の目的で、事業を利用したいと思う方にうかがいます。

問 24-1 目的ごとに年間何日くらい事業を利用する必要があると思いますか。

※なお、事業の利用にあたっては、一定の利用料がかかります。

- 私用、親の通院等の目的で利用する事業は「私用（買物、子供や親の習い事等）、リフレッシュ目的」が 84.3%と最も多い。次いでは「冠婚葬祭、学校行事、子供や親の通院等」49.6%などとなっている。

【利用目的と必要日数】



利用する理由と日数	調査回答数	1-3日	4-7日	8-14日	15-30日	31-90日	91日以上	無回答
私用、リフレッシュ目的	381	19.7%	23.9%	22.6%	8.7%	5.0%	0.5%	19.7%
冠婚葬祭、学校行事、子供や親の通院等	224	21.4%	32.1%	20.1%	10.3%	2.2%	0.0%	13.8%
不定期の就労	89	6.7%	14.6%	16.9%	12.4%	10.1%	2.2%	37.1%
その他	16	12.5%	12.5%	25.0%	12.5%	18.8%	0.0%	18.8%

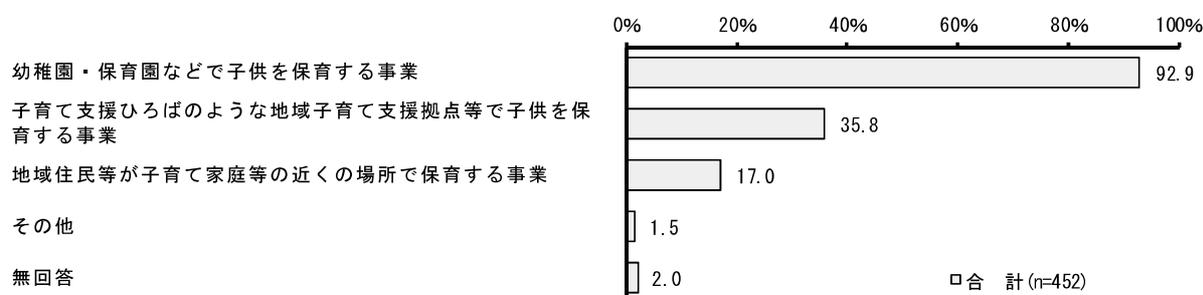
問 24 で私用、親の通院、不定期の就労等の目的で、事業を利用したいと思う方にうかがいます。

問 24-2 問 24-1 の目的でお子さんを預ける場合、下記のいずれの事業形態が望ましいと思われますか。

(○はいくつでも)

- 私的な目的で事業を利用する場合に望ましい事業形態は「幼稚園・保育園などで子供を保育する事業」が 92.9%と最も多い。次いでは「子育て支援ひろばのような地域子育て支援拠点などで子供を保育する事業」が 35.8%などとなっている。

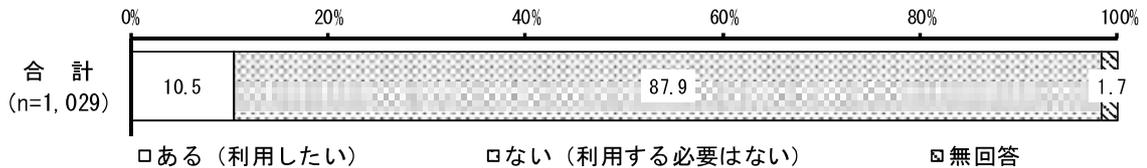
【私的な目的で事業を利用する場合に望ましい事業形態】



問 25 宛名のお子さんについて、保護者の用事（冠婚葬祭、保護者・家族の育児疲れや育児不安、病気など）により、泊りがけで家族以外に預ける必要があると思いますか。（〇は1つ）

- 保護者の用事により、泊りがけで家族以外に預ける必要が「ある（利用したい）」は10.5%、「ない（利用する必要はない）」は87.9%となっている。

【子どもを保護者の用事で泊りがけで家族以外に預ける必要の有無】

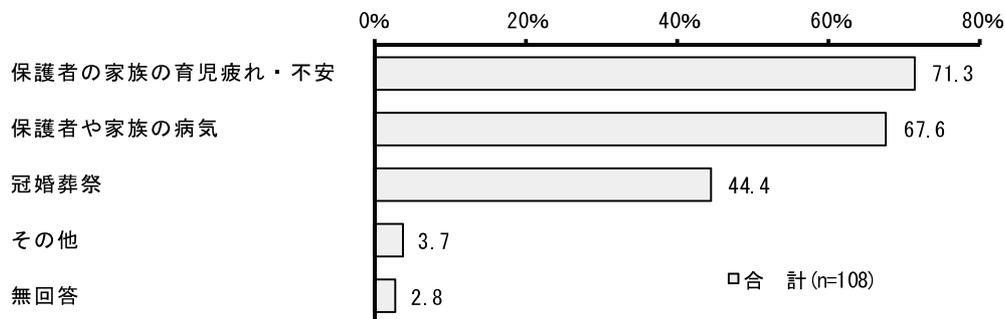


問 25 で「1. ある (利用したい)」と答えた方にうかがいます。

問 25-1 目的ごとに一年間で何日くらい事業を利用したいと思いますか。当てはまる全てに〇を付け、必要な泊数を記入してください。 ※なお、事業の利用にあたっては、一定の料金がかかります。

- 保護者の用事で泊りがけで家族以外に預ける必要があるのは「保護者の家族の育児疲れ・不安」が71.3%で最も多く、続いて「保護者や家族の病気」が67.6%などとなっている。

【泊りがけが必要な用事と必要宿泊数】



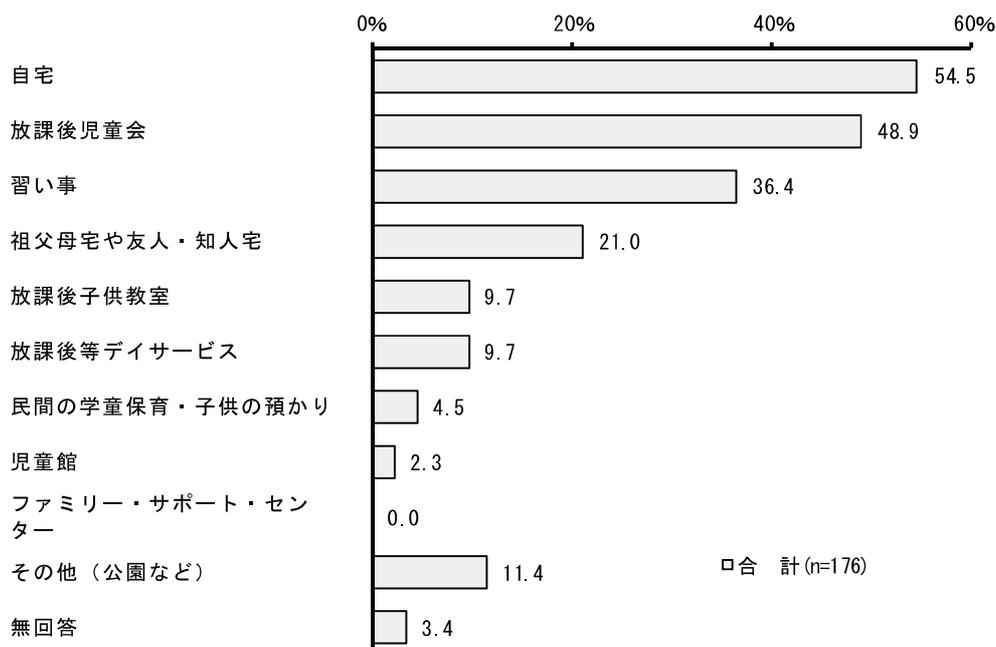
利用する理由と泊数	調査回答数	必要宿泊数						
		1-3泊	4-7泊	8-14泊	15-21泊	22-28泊	29泊以上	無回答
保護者の家族の育児疲れ・不安	77	44.2%	31.2%	13.0%	3.9%	1.3%	3.9%	2.6%
保護者や家族の病気	73	45.2%	30.1%	12.3%	6.8%	0.0%	0.0%	5.5%
冠婚葬祭	48	70.8%	16.7%	4.2%	0.0%	0.0%	0.0%	8.3%
その他	4	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

⑤小学校就学後の放課後の過ごし方について（5歳以上）

問 26 宛名のお子さんについて、小学校低学年（1～3年生）のうちは、放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか。（〇はいくつでも）

●小学校に就学した低学年（1～3年生）時、希望する放課後の居場所は「自宅」が54.5%と最も多い。以下、「放課後児童会」（48.9%）、「習い事」（36.4%）、「祖父母宅や友人・知人宅」（21.0%）などとなっている。

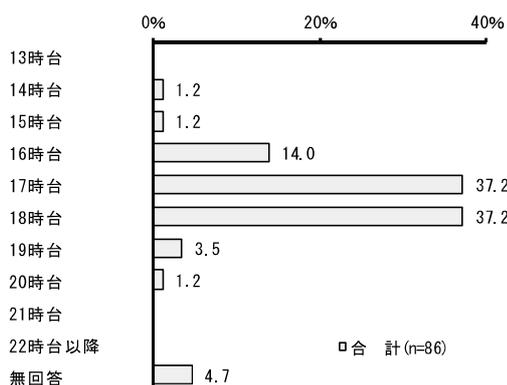
【小学校就学後の放課後の居場所 小学校低学年（1～3年生）】



【小学校就学後の放課後の居場所別利用日数 小学校低学年（1～3年生）】

場所と日数	調査回答数	週に1日	週に2日	週に3日	週に4日	週に5日	週に6日	週に7日	無回答
自宅	96	9.4%	15.6%	29.2%	6.3%	31.3%	1.0%	3.1%	4.2%
放課後児童会	86	3.5%	8.1%	11.6%	15.1%	58.1%	0.0%	1.2%	2.3%
習い事	64	37.5%	39.1%	14.1%	3.1%	3.1%	0.0%	0.0%	3.1%
祖父母宅や友人・知人宅	37	43.2%	21.6%	8.1%	0.0%	21.6%	0.0%	2.7%	2.7%
放課後子供教室	17	23.5%	41.2%	17.6%	0.0%	11.8%	0.0%	0.0%	5.9%
放課後等デイサービス	17	23.5%	29.4%	0.0%	5.9%	41.2%	0.0%	0.0%	0.0%
民間の学童保育・子供の預かり	8	12.5%	12.5%	12.5%	12.5%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%
児童館	4	50.0%	25.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
ファミリー・サポート・センター	0								
その他（公園など）	20	55.0%	30.0%	5.0%	0.0%	0.0%	0.0%	10.0%	0.0%

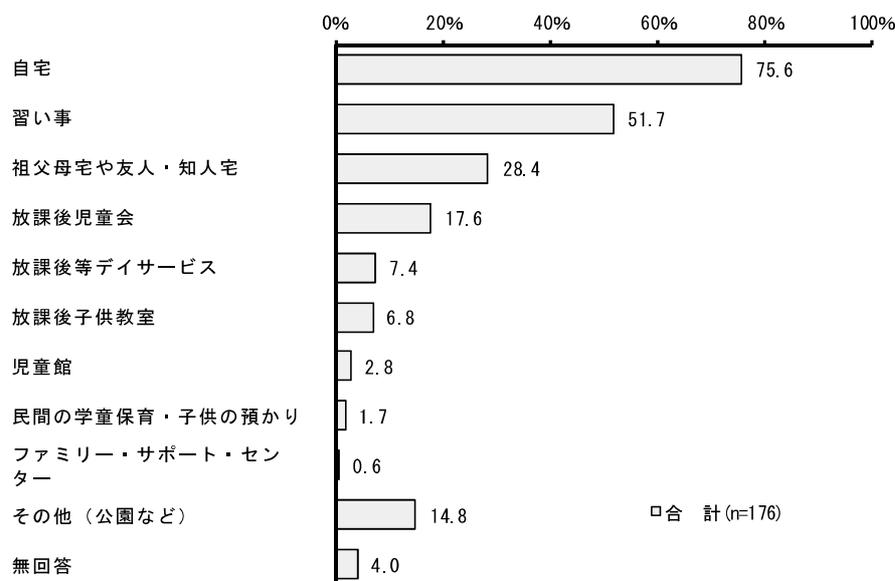
【放課後児童会の利用終了の希望時間 小学校低学年（1～3年生）】



問 27 宛名のお子さんについて、小学校高学年（４～６年生）のうちは、放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか。（○はいくつでも）

- 小学校に就学した高学年（４～６年生）時、希望する放課後の居場所は「自宅」が75.6%と最も多い。以下、「習い事」（51.7%）、「祖父母宅や友人・知人宅」（28.4%）、「放課後児童会」（17.6%）などとなっている。

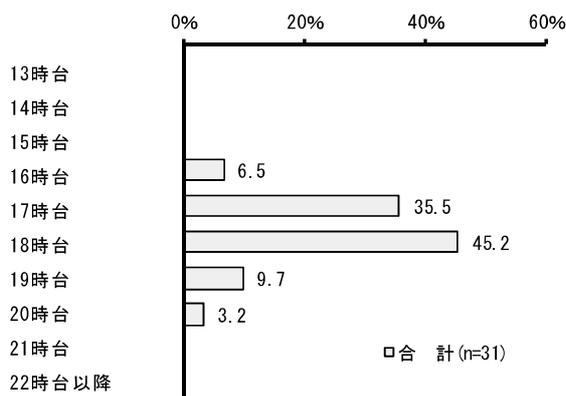
【小学校就学後の放課後の居場所 小学校高学年（４～６年生）】



【小学校就学後の放課後の居場所別利用日数 小学校高学年（４～６年生）】

場所と日数	調査回答数	週に1日	週に2日	週に3日	週に4日	週に5日	週に6日	週に7日	無回答
自宅	133	8.3%	22.6%	24.8%	9.0%	31.6%	0.0%	1.5%	2.3%
習い事	91	26.4%	44.0%	18.7%	4.4%	4.4%	0.0%	0.0%	2.2%
祖父母宅や友人・知人宅	50	30.0%	32.0%	14.0%	4.0%	16.0%	0.0%	0.0%	4.0%
放課後児童会	31	9.7%	16.1%	29.0%	3.2%	38.7%	0.0%	3.2%	0.0%
放課後等デイサービス	13	23.1%	7.7%	15.4%	7.7%	46.2%	0.0%	0.0%	0.0%
放課後子供教室	12	25.0%	50.0%	16.7%	0.0%	8.3%	0.0%	0.0%	0.0%
児童館	5	20.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	60.0%
民間の学童保育・子供の預かり	3	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%
ファミリー・サポート・センター	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
その他（公園など）	26	34.6%	26.9%	23.1%	0.0%	7.7%	0.0%	0.0%	7.7%

【放課後児童会の利用終了の希望時間 小学校高学年（４～６年生）】



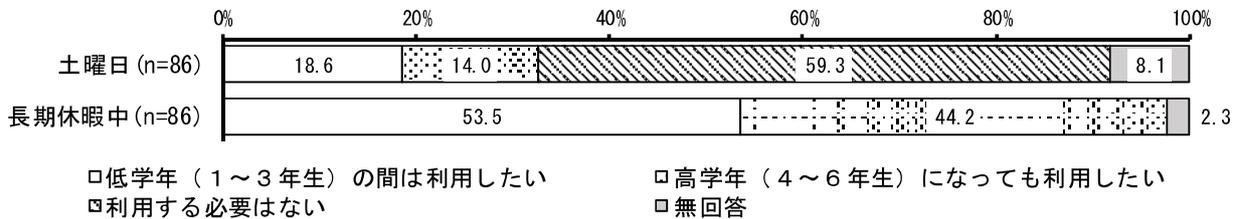
問 26・27 で「5. 放課後児童会」の利用意向のある方にうかがいます。

問 28 宛名のお子さんについて、土曜日に、放課後児童会の利用希望はありますか。※なお、事業の利用には、一定の利用料がかかります。

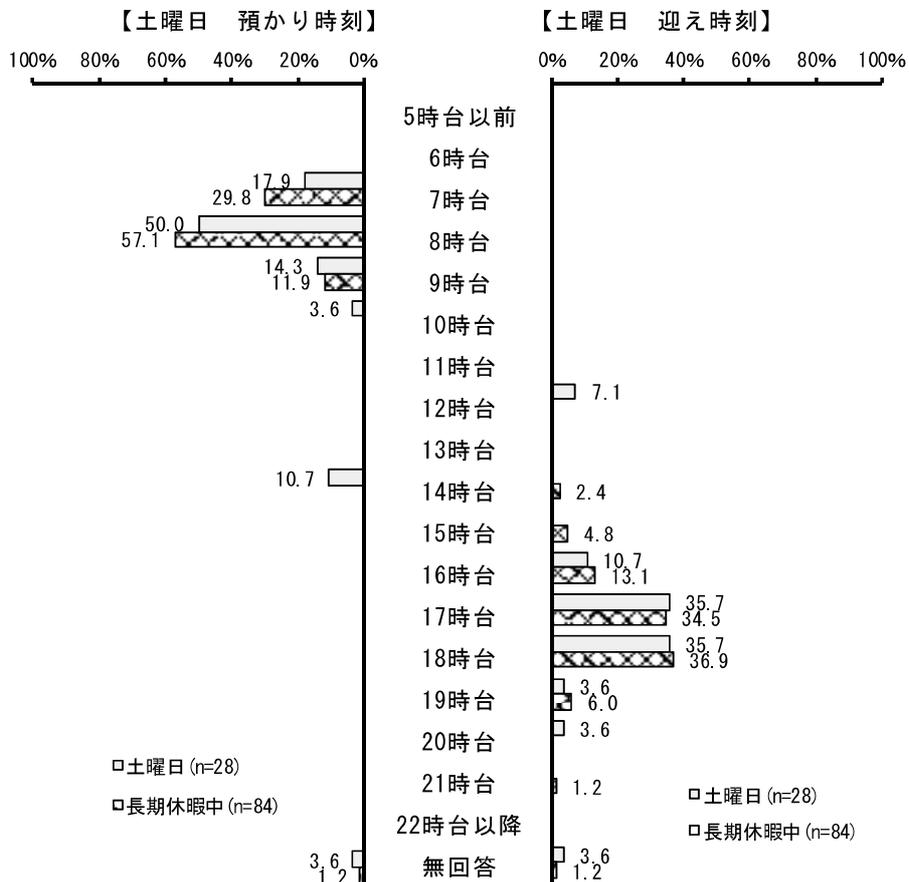
問 29 宛名のお子さんについて、お子さんの夏休み・冬休みなどの長期の休暇期間中の放課後児童会の利用希望はありますか。※なお、事業の利用には、一定の利用料がかかります。

- 小学生に就学して放課後児童会利用希望者の、土曜日の利用意向は「低学年（1～3年生）の間は利用したい」が18.6%、「高学年（4～6年生）になっても利用したい」は14.0%となっている。一方、「利用する必要はない」は59.3%であった。
- 小学生に就学して放課後児童会利用希望者の、長期休暇期間中の利用意向は「低学年（1～3年生）の間は利用したい」が53.5%、「高学年（4～6年生）になっても利用したい」は44.2%となっている。

【小学校就学後の放課後児童会利用希望者の土曜日、長期休暇中の利用意向】



【利用したい時間帯】



7. 育児休業や短時間勤務制度など職場の両立支援制度について

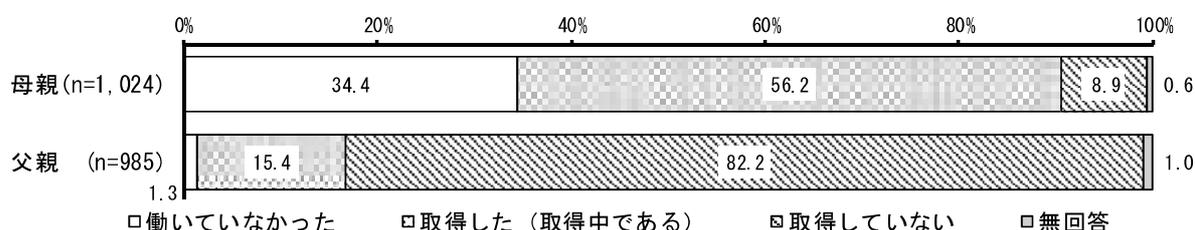
①育児休業の取得状況

問 30 宛名のお子さんが生まれた時、父母のいずれかもしくは双方が育児休業を取得しましたか。(〇は1つ)

母親：育児休業を「取得した(取得中である)」が56.2%、「取得していない」が8.9%、「働いていなかった」は34.4%であった。

父親：育児休業を「取得した(取得中である)」が15.4%、「取得していない」が82.2%、「働いていなかった」は1.3%であった。

【育児休業取得の有無】



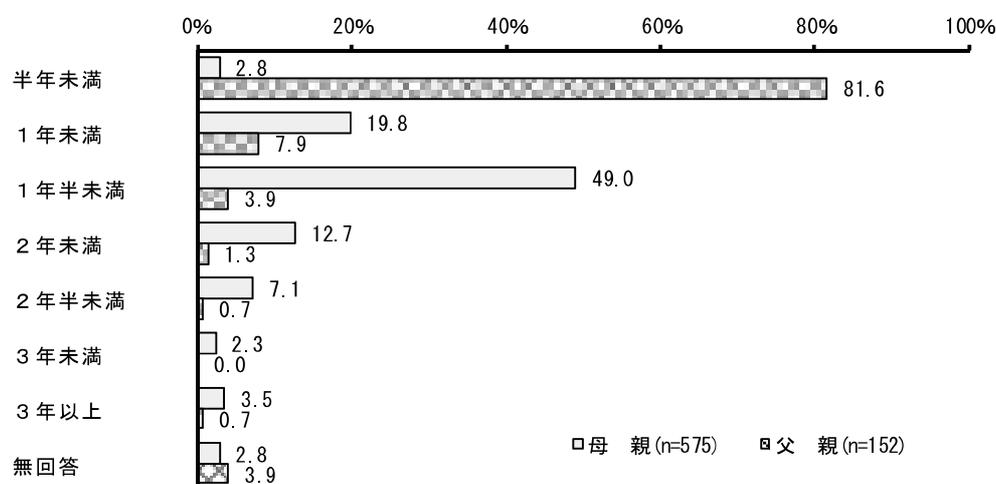
問 30 で「2. 取得した(取得中である)」方へうかがいます。

問 30 育児休業の取得期間はどの位ですか。

母親：育児休業取得者の取得期間は「1年半未満」が49.0%と最も多い。以下、「1年未満」(19.8%)、「2年未満」(12.7%)などとなっている。

父親：育児休業取得者の取得期間は「半年未満」が81.6%と最も多い。以下、「1年未満」(7.9%)「1年半未満」(3.9%)などとなっている。

【育児休業の取得期間】



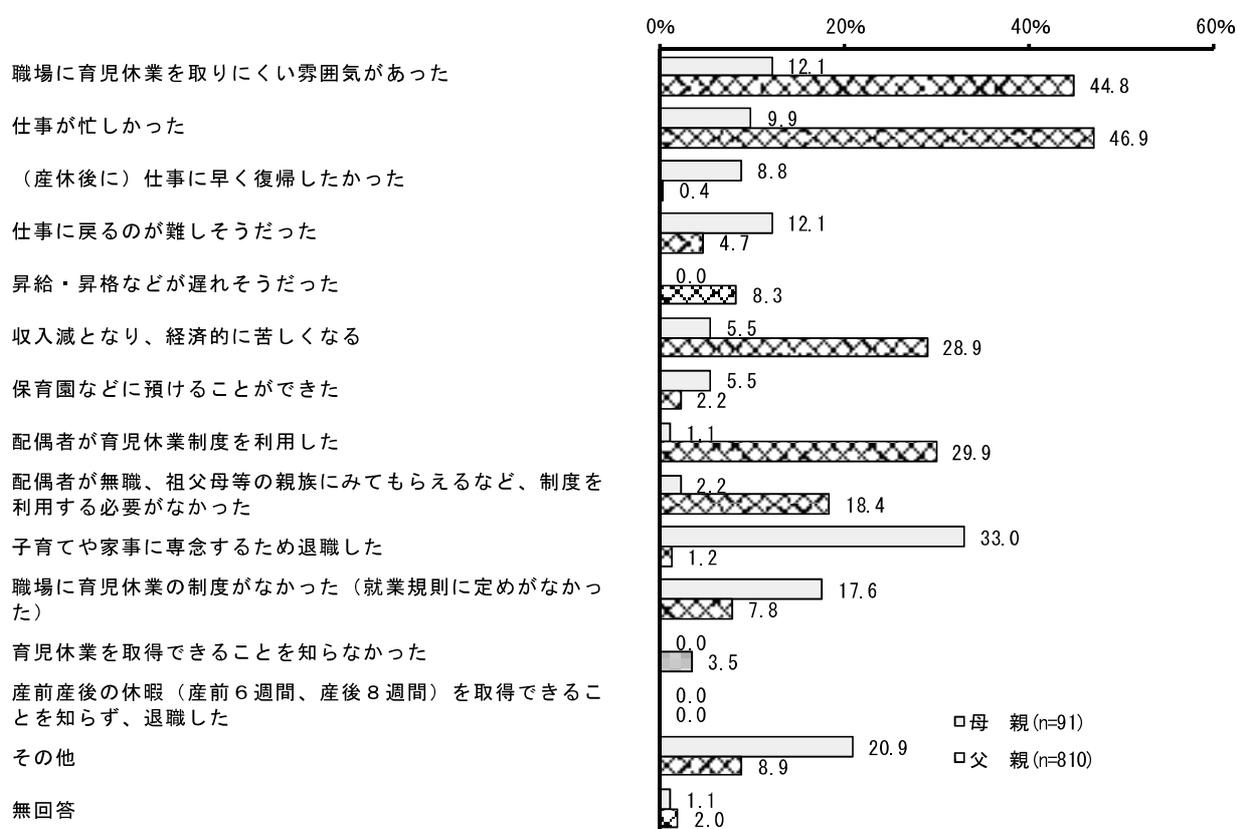
問30で「3. 取得していない」方へ

問30 育児休業を取得していない理由は。(〇はいくつでも)

母親：育児休業を取得しなかった理由は「子育てや家事に専念するため退職した」が33.0%と最も多い。以下、「職場に育児休業の制度がなかった（就業規則に定めがなかった）」(17.6%)、「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」(12.1%)、「仕事に戻るのが難しそうだった」(12.1%)などとなっている。

父親：育児休業を取得しなかった理由は「仕事が忙しかった」が46.9%と最も多い。以下、「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」(44.8%)、「配偶者が育児休業制度を利用した」(29.9%)、「収入減となり、経済的に苦しくなる」(28.9%)などとなっている。

【育児休業を取得しなかった理由】



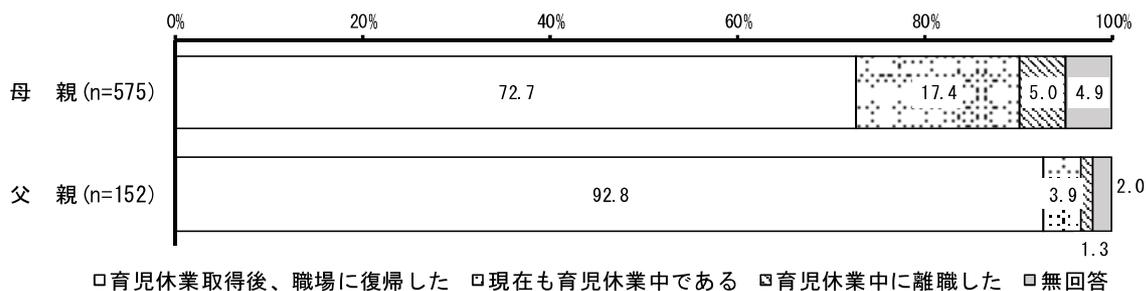
問 30 で「2. 取得した（取得中である）」と回答した方にうかがいます。

問 30-1 育児休業取得後、職場に復帰しましたか。（○は1つ）

母親：育児休業取得後の現況は、「育児休業取得後、職場に復帰した」が 72.7%、「現在も育児休業中である」が 17.4%、「育児休業中に離職した」は 5.0%となっている。

父親：育児休業取得後の現況は、「育児休業取得後、職場に復帰した」が 92.8%、「現在も育児休業中である」が 3.9%、「育児休業中に離職した」は 1.3%となっている。

【育児休業取得後の現況】



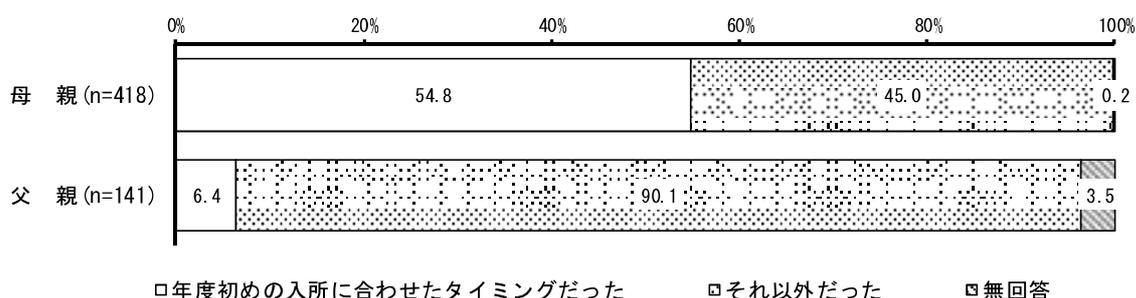
問 30-1 で「1. 育児休業取得後、職場に復帰した」と回答した方にうかがいます。

問 30-2 育児休業から職場に復帰したのは、年度初めの保育園などの入所に合わせたタイミングでしたか。あるいはそれ以外でしたか。

母親：育児休業から職場に復帰したタイミングは「年度初めの入所に合わせたタイミングだった」が 54.8%、「それ以外だった」は 45.0%であった。

父親：育児休業から職場に復帰したタイミングは「年度初めの入所に合わせたタイミングだった」は 6.4%、「それ以外だった」が 90.1%であった。

【職場復帰のタイミング】



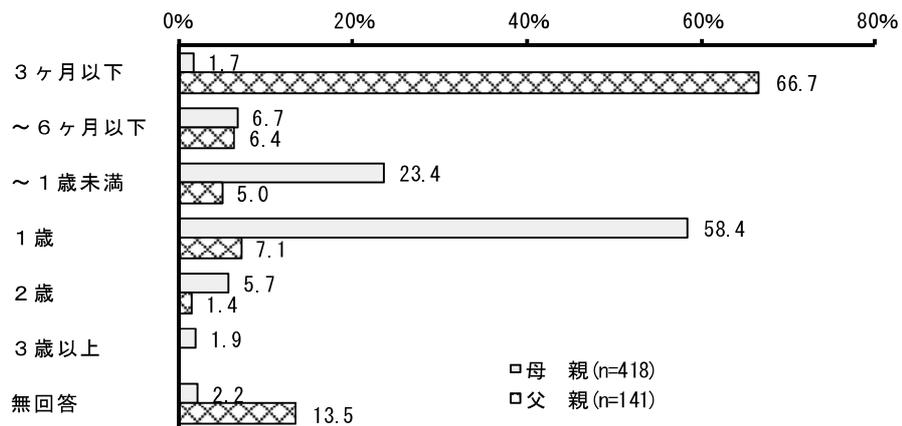
問 30-1 で「1. 育児休業取得後、職場に復帰した」と回答した方にうかがいます。

問 30-3 育児休業からは、「実際」にお子さんが何歳何ヶ月のときに職場復帰しましたか。また、お勤め先の育児休業の制度の期間内で、何歳何ヶ月のときまで取りたかったですか。

母親：実際の育児休業取得から職場に復帰の期間は「1歳」が58.4%と最も多い。以下、「～1歳未満」が23.4%などとなっている。

父親：実際の育児休業取得から職場に復帰の期間は「3ヶ月以下」が66.7%と最も多くなっている。

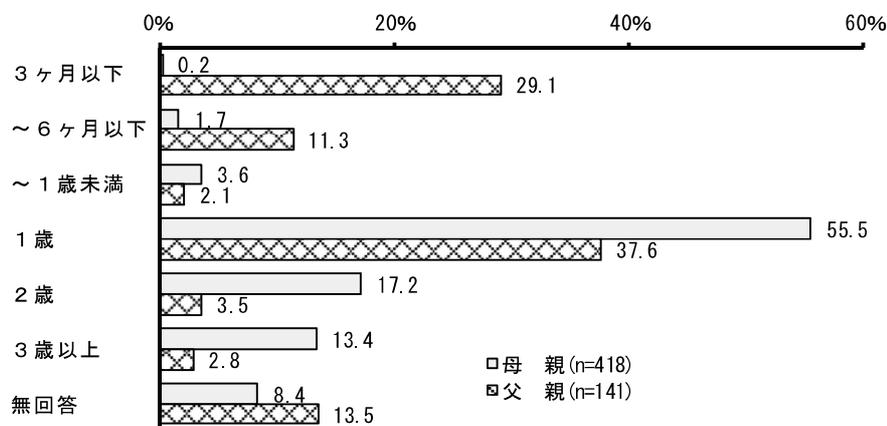
【実際の育児休業期間】



母親：勤務先の育児休業制度の期間内で希望する育児休業期間は「1歳」が55.5%と最も多い。以下、「2歳」(17.2%)、「3歳以上」(13.4%)などとなっている。

父親：勤務先の育児休業制度の期間内で希望する育児休業期間は「1歳」が37.6%と最も多い。以下、「3ヶ月以下」(29.1%)、「～6ヶ月以下」(11.3%)などとなっている。

【勤務先の育児休業制度の期間内で希望する育児休業期間】



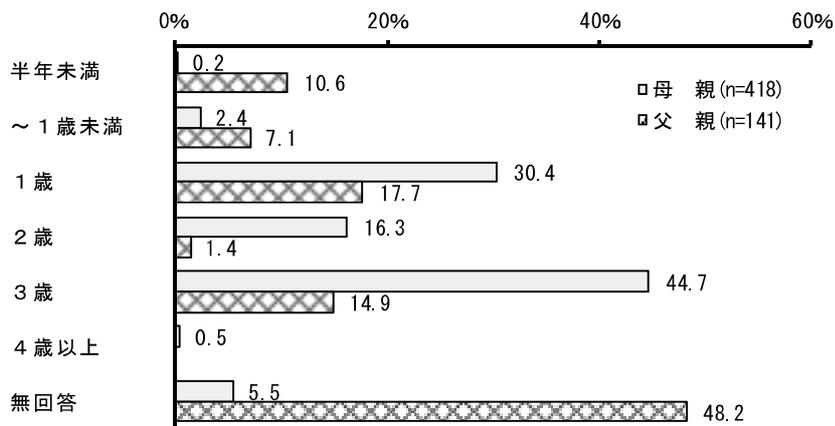
問 30-1 で「1. 育児休業取得後、職場に復帰した」と回答した方にうかがいます。

問 30-4 お勤め先に、育児のために3歳まで休暇を取得できる制度があった場合、「希望」としてはお子さんが何歳何ヶ月のときまで取りたかったですか。

母親：制度として育児休業期間が3歳までとしたら希望する育児休業期間は「3歳」が44.7%と最も多い。以下、「1歳」(30.4%)、「2歳」(16.3%) などとなっている。

父親：制度として育児休業期間が3歳までとしたら希望する育児休業期間は「1歳」が17.7%と最も多い。以下、「3歳」(14.9%)、「半年未満」(10.6%) などとなっている。

【制度として3歳までの育児休業期間があれば希望した育児休業期間】



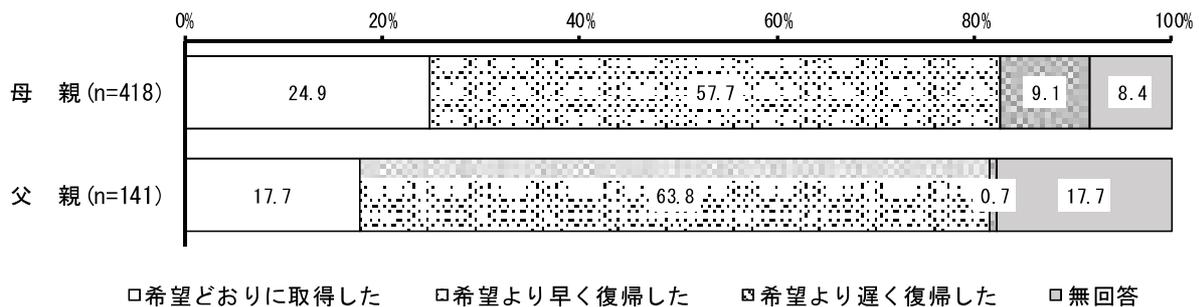
問 30-1 で「1. 育児休業取得後、職場に復帰した」と回答した方にうかがいます。

問 30-4 育児休業の実際の復帰と希望した復帰が異なる状況

母親：希望した育児休業期間と実際の育児休業期間で「希望どおりに取得した」は 24.9%、「希望より早く復帰した」が 57.7%、「希望より遅く復帰した」は 9.1%であった。

父親：希望した育児休業期間と実際の育児休業期間で「希望どおりに取得した」は 17.7%、「希望より早く復帰した」が 63.8%、「希望より遅く復帰した」は 0.7%であった。

【育児休業期間の希望と実際の期間】



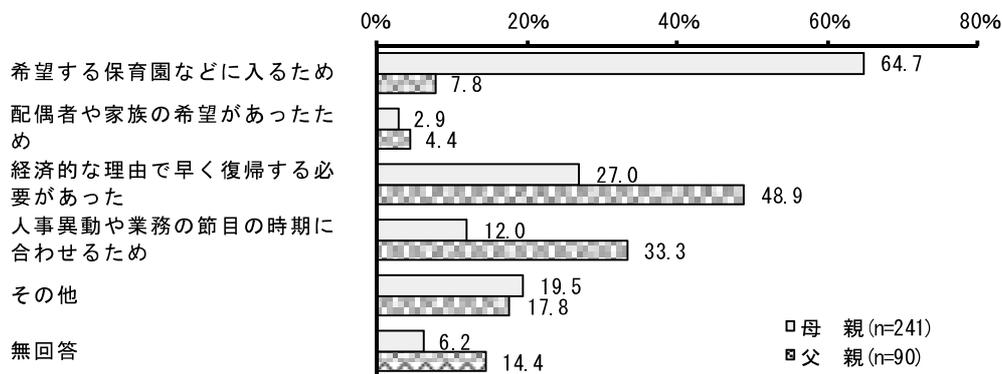
問 30-3 で実際の復帰と希望が異なる方にうかがいます。

問 30-5 希望の時期に職場復帰しなかった理由についてうかがいます。(○はいくつでも)

母親：希望した育児休業期間より早く職場復帰した理由は「希望する保育園などに入るため」が 64.7%と最も多い。以下、「経済的な理由で早く復帰する必要がある」(27.0%)、「人事異動や業務の節目の時期に合わせるため」(12.0%) などとなっている。

父親：希望した育児休業期間より早く職場復帰した理由は「経済的な理由で早く復帰する必要がある」が 48.9%と最も多い。以下、「人事異動や業務の節目の時期に合わせるため」(33.3%) などとなっている。

【育児休業希望期間より早い復帰の理由】



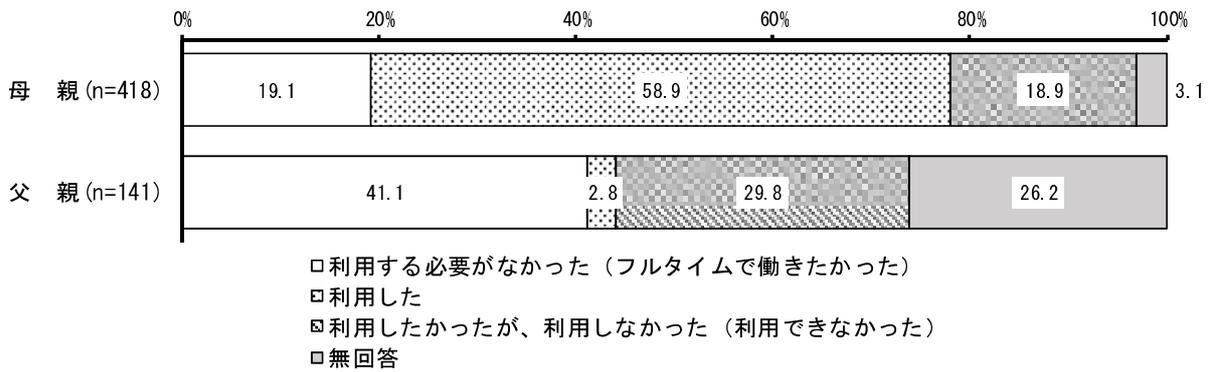
問 30-1 で「1. 育児休業取得後、職場に復帰した」と回答した方にうかがいます。

問 30-6 育児休業からの職場復帰時には、短時間勤務制度を利用しましたか。(○は1つ)

母親：育児休業からの職場復帰時に「利用する必要がなかった（フルタイムで働きたかった）」は 19.1%、「利用した」は 58.9%で「利用したかったが、利用しなかった（利用できなかった）」が 18.9%となっている。

父親：育児休業からの職場復帰時に「利用する必要がなかった（フルタイムで働きたかった）」は 41.1%、「利用した」は 2.8%で「利用したかったが、利用しなかった（利用できなかった）」が 29.8%となっている。

【職場復帰時に短時間勤務制度利用の有無】



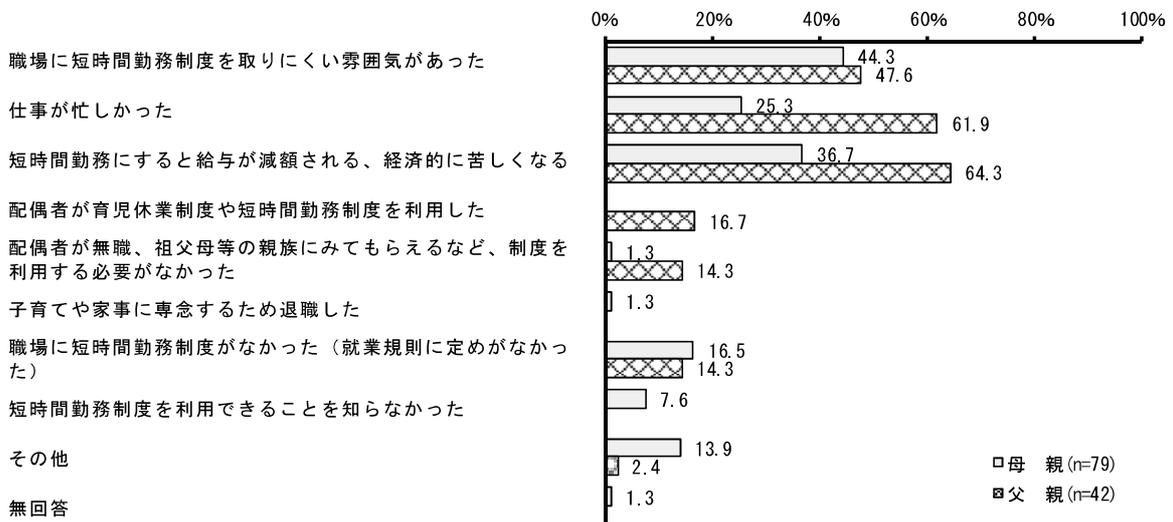
問 30-6 育児休業からの職場復帰時には、短時間勤務制度を利用しなかった方へ

問 30-6-1 短時間勤務制度を利用しなかった（利用できなかった）理由は何ですか。

母親：職場復帰時に短時間勤務制度を利用しなかった理由は「職場に短時間勤務制度を取りにくい雰囲気があった」が 44.3%と最も多い。以下、「短時間勤務にすると給与が減額される、経済的に苦しくなる」(36.7%)、「仕事が忙しかった」(25.3%) などとなり、「職場に短時間勤務制度がなかった」は 16.5%、「短時間勤務制度を利用できることを知らなかった」は 7.6%であった。

父親：職場復帰時に短時間勤務制度を利用しなかった理由は「短時間勤務にすると給与が減額される、経済的に苦しくなる」が 64.3%と最も多い。以下、「仕事が忙しかった」(61.9%)、「職場に短時間勤務制度を取りにくい雰囲気があった」(47.6%) などとなり、「職場に短時間勤務制度がなかった」は 14.3%であった。

【職場復帰時に短時間勤務制度を利用しなかった理由】



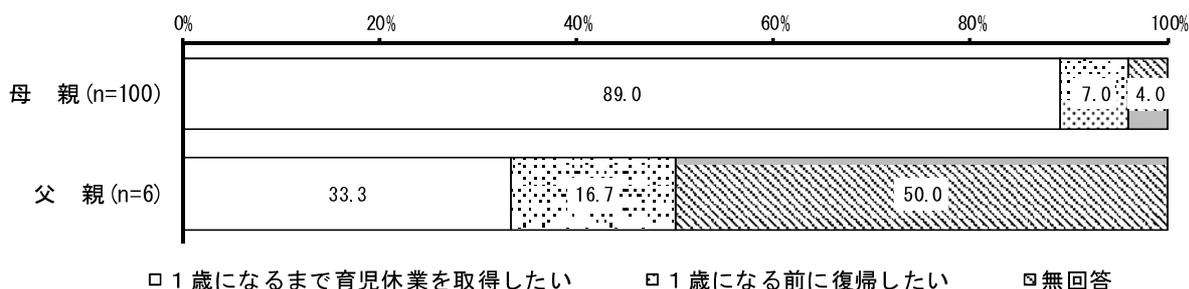
問 30-1 で「2. 現在も育児休業中である」と回答した方にうかがいます。

問 30-7 宛名のお子さんが1歳になったときに必ず利用できる事業があれば、1歳になるまで育児休業を取得しますか。

母親：現在育児休業中の方ではお子さんが1歳になったときに必ず利用できる事業があれば「1歳になるまで育児休業を取得したい」は89.0%で「1歳になる前に復帰したい」は7.0%であった。

父親：現在育児休業中の方ではお子さんが1歳になったときに必ず利用できる事業があれば「1歳になるまで育児休業を取得したい」は33.3%で「1歳になる前に復帰したい」は16.7%であった。

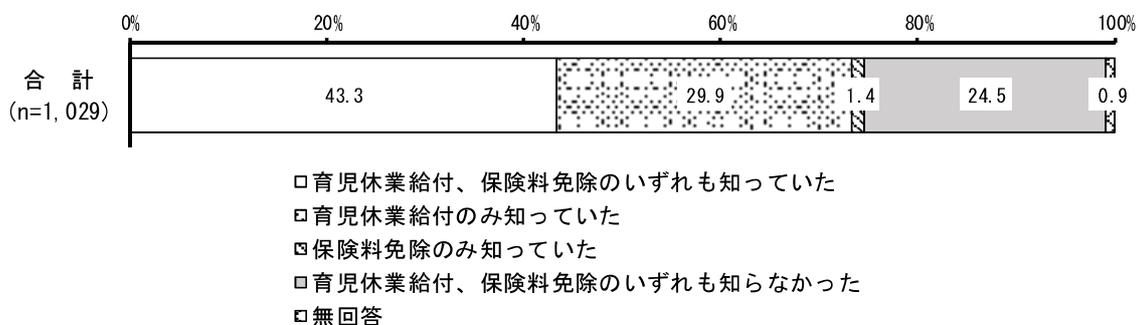
【子どもが1歳になったときに必ず利用できる事業の利用の有無】



問 30-8 子供が原則1歳になるまで育児休業給付が支給される仕組み、子供が満3歳になるまでの育児休業等期間について健康保険及び厚生年金保険の保険料が免除になる仕組みがあります。そのことをご存じでしたか。(〇は1つ)

●育児休業給付や保険料免除など支援制度の認識状況は「育児休業給付、保険料免除のいずれも知っていた」が43.3%と最も多い。以下、「育児休業給付のみ知っていた」(29.9%)、「保険料免除のみ知っていた」(1.4%)となり、「育児休業給付、保険料免除のいずれも知らなかった」は24.5%であった。

【育児休業給付金や保険料免除制度の認識】



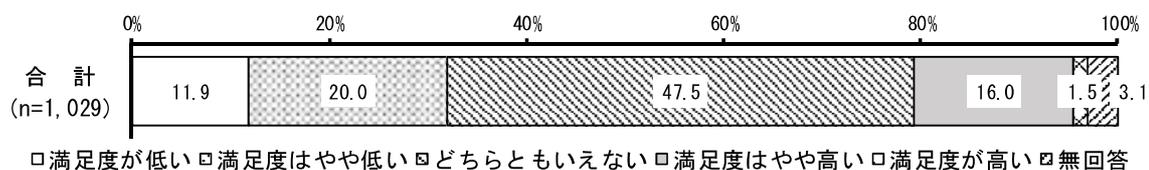
8. その他

①地域の子育て環境や支援の満足度

問 31 お住まいの地域における子育ての環境や支援の満足度について当てはまる番号に○をつけてください。(○は1つ)

- 地域における子育て環境や支援の評価は「満足度が高い」(1.5%)と「やや満足度が高い」(16.0%)を合わせた割合 17.5%が満足度合いが高い人で、「満足度が低い」(11.9%)と「やや満足度が低い」(20.0%)を合わせた割合 31.9%が満足度合いが低い人で、満足度合いが低い人の方が 14.4 ポイント多くなっている。なお、「どちらともいえない」とした人は 47.5%と最も多くなっている。

【居住地域における子育ての環境や支援への満足度】



②子育ての環境や支援に関してのご意見

問 32 最後に、教育・保育環境の充実など子育ての環境や支援に関してご意見がございましたら、ご自由にご記入ください。

主な意見

①地域における子育て支援について 130 件

- 子育て支援は他県と比べてあまり充実していない気がする。例えば育児にかかるオムツ代やミルク代の支援や医療費の免除など。子育てに関する事で相談できる事業があることは良いことだが、経済的支援がもう少し手厚くなれば子供を浜松市で育てたい気になると思う。
- 仕事復帰している人への子育て支援が不足していると感じる。土日祝に実施（相談、イベント、預かり等）してほしいし、金銭面においても負担が大きくならないように補助してほしい。
- 子育て支援を充実してもらいたい。出産したら祝金をもらえたり、子育て中の児童手当を増額したりしてほしい。

②親子の健康について 70 件

- 子供の医療費が無料になるとよい。また、予防接種はすべて無料にしてほしい。
- 子供の医療費については、子育て支援というならば中高生まで無料でも良いかと思う。
- 行政が子供の健康を確認する頻度が少ないと感じる。1才半から3才まで間が空き、その後は就学までない。

③教育・保育環境の整備について 170 件

- 保育園やこども園の入園に関して、待機児童ゼロとは聞くものの、育休を取得して復帰するとなると、入園しやすい4月入園を目処にしなければならず、安心して子供と向き合えるとは言い難い。こども園や保育園のさらなる増園を希望する。
- 保育園の募集が少なく、希望する園への入園が希望月とならないため、入りやすい環境が整うとよい。
- 保育園などで気軽に一時預けられる仕組みを整えたり、人員を補強してもらえたりすると助かる。

④職業生活と家庭生活の両立の推進について 43 件

- 男性の育休が推進されていないと思う。男性から休みたいと言えない環境があると思う。
- 職場などの理解がなく、辛い思いをした。職場への理解を促進してもらい、さらに行政のサポートや支援が身近にあり、気軽に利用できる環境になったらと願う。

⑤子育てを支援する生活環境の整備について 69 件

- 子育て支援ひろばだけでなく無料で室内で遊べる児童館が増えてほしい。
- 家から歩いて行ける所に公園が少ないし、少し離れた所にあっても駐車場が無い為、利用することが難しい。小さくてもよいので駐車場付きの公園をもう少しだけ増やしてほしい。
- 低年齢の子供は遊ぶところが少ないので、安心・安全に利用できる公園を作ってもらえるとありがたい。

⑥子供の安全・安心の確保について 6 件

- 小学校までの通学路を整備してほしい。街灯が少ない、トラックの交通量が多い、横断歩道がない、道幅がせまいなど多くの問題があると感じている。
- 公園に古い遊具が多く、安全面で心配である。新しい遊具に更新してほしい。

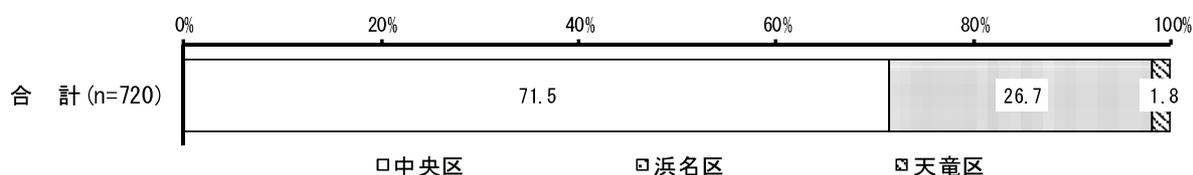
⑦支援が必要な家庭、子供への対応について 28件

- 自閉症など発達障害を持った子が生きやすい支援がもっとほしい。知識を持った人財をもっと増やしてほしい。
- 子供が発達障害を抱えている。幼稚園には他の子と同じように楽しく通えているが、これから学校へ上がる際、先生方のサポートが無くなってしまうと通えるのだろうかと不安になる。障害のある子供が生きやすく楽しんで毎日過ごせる環境が整うことを願う。

第3章 調査結果 就学児童保護者

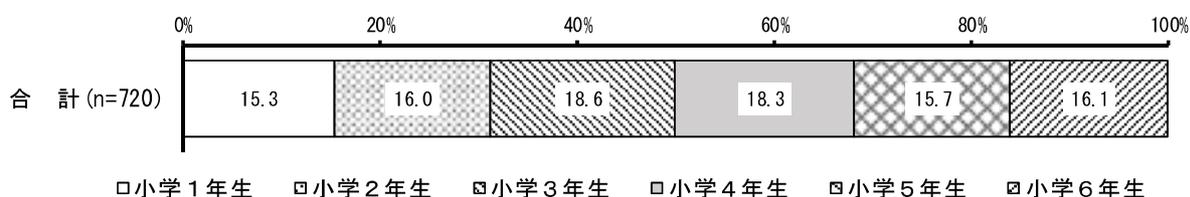
1. 回答者属性と調査対象児童の家庭環境

【居住区】

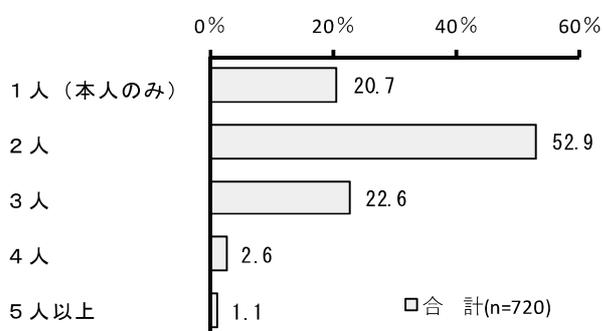


●居住区は中央区 71.5%、浜名区 26.7%、天竜区 1.8%となっている。

【調査対象児童の学年】

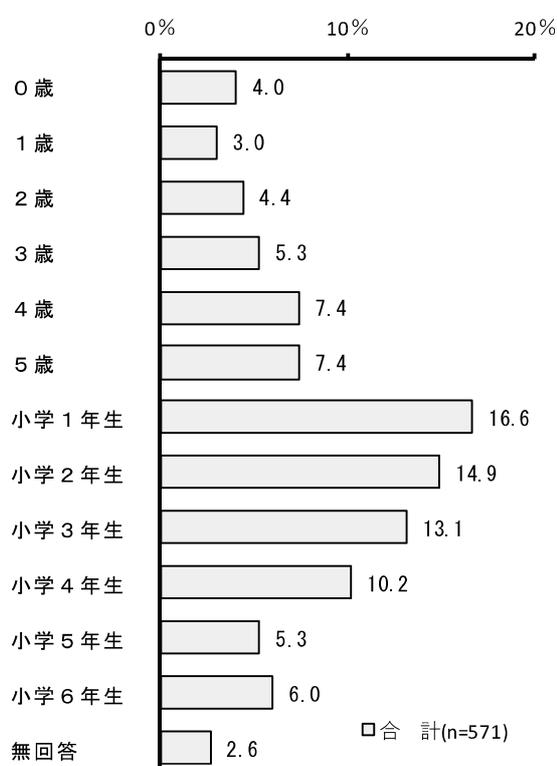


【きょうだいの人数】

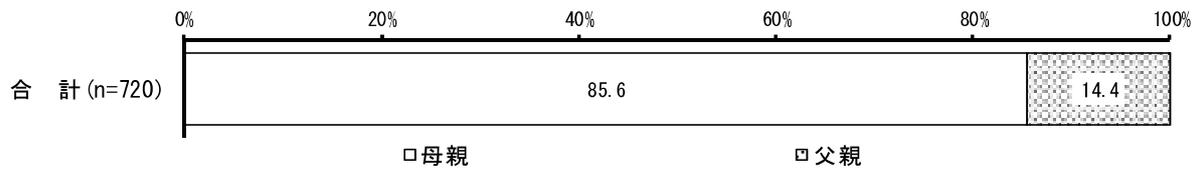


●子供の人数は「2人」が 52.9%と最も多い。以下、「3人」(22.6%)、「1人」(20.7%)である。

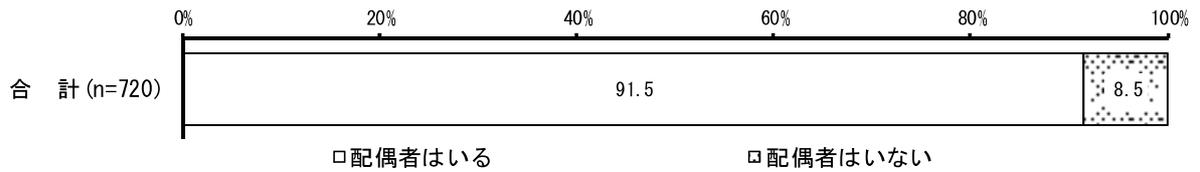
【末子の年齢】※2人以上



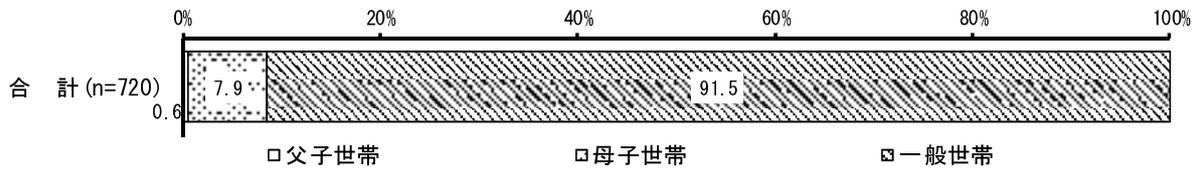
【回答者の性別】



【回答者の配偶者の有無】

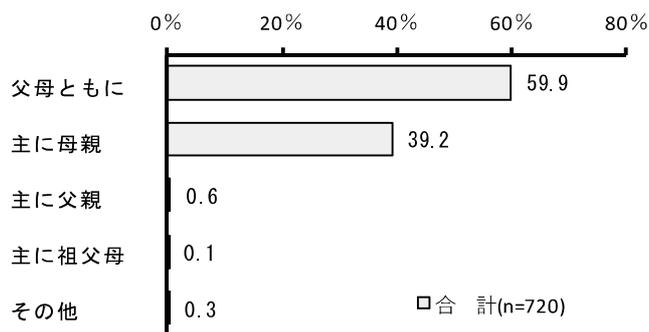


【家庭状況】



- 家庭状況は「父のみのひとり親家庭（父子世帯）」は0.6%、「母のみのひとり親家庭（母子世帯）」7.9%で「ひとり親ではない（一般世帯）」は91.5%である。

【主な子育て（教育を含む）者】



- 主な子育て者は、「父母ともに」59.9%が最も多く、「主に母親」が39.2%である。

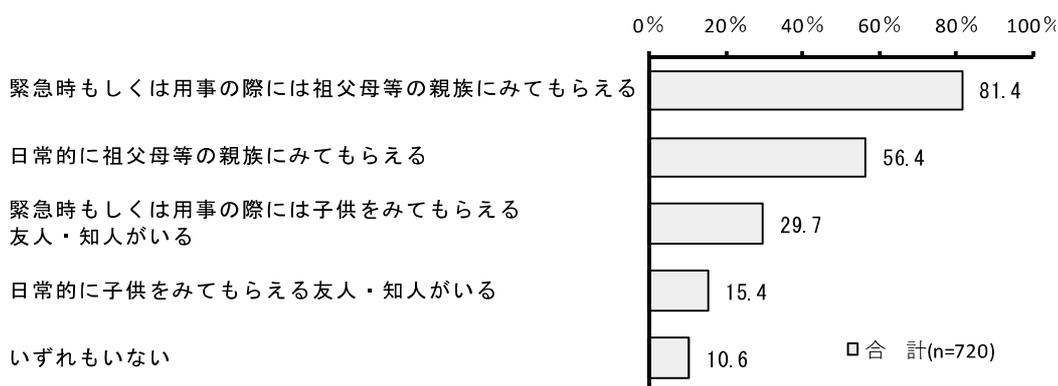
2. 子育ての人的環境

①子育てを頼める親族や友人・知人

問7 日頃、宛名のお子さんをみてもらえる親族・知人はいますか。(〇はいくつでも)

- 子育てを頼める親族や友人・知人の有無は、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が81.4%と最も多い。以下、「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」(56.4%)、「緊急時もしくは用事の際には子供をみてもらえる友人・知人がいる」(29.7%) などとなっている。一方、「いずれもない」は10.6%となっている。

【子育てを頼める親族や友人・知人の有無】



問7で『親族にみてもらう人』に〇をつけた方にうかがいます。

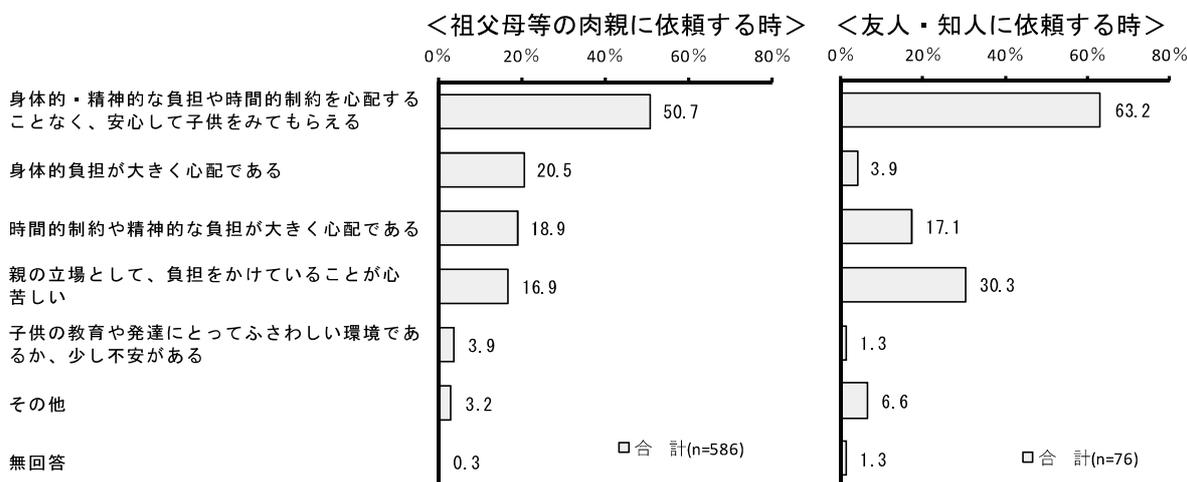
問7-1 祖父母等の親族にお子さんをみてもらっている状況を教えてください。(〇はいくつでも)

問7で『友人・知人にみてもらう人』に〇をつけた方にうかがいます。

問7-2 友人・知人にお子さんをみてもらっている状況を教えてください。(〇はいくつでも)

- 祖父母等の肉親に子育てを依頼する時の負担感は「負担や制約を心配することなく、安心して子供をみてもらえる」が50.7%で最も多い。以下、「身体的負担が大きく心配である」(20.5%)、「時間的制約や精神的な負担が大きく心配である」(18.9%)、「親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」(16.9%) などとなっている。
- 友人・知人に子育てを依頼する時の負担感は「負担や制約を心配することなく、安心して子供をみてもらえる」が63.2%と最も多い。以下、「親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」(30.3%)、「時間的制約や精神的な負担が大きく心配である」(17.1%) などとなっている。

【子育てを依頼する時の負担感】

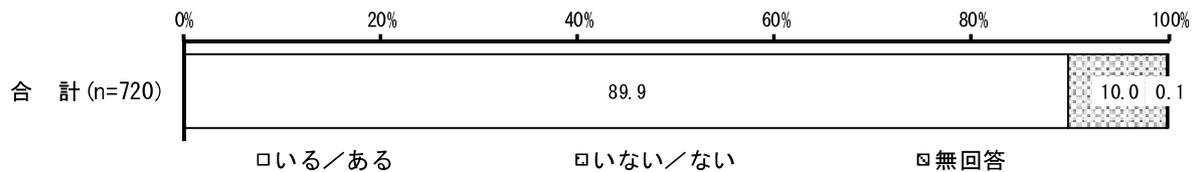


②子育ての気軽な相談先

問8 宛名のお子さんの子育て（教育を含む）をする上で、気軽に相談できる人はいいますか。また、相談できる場所がありますか。（○は1つ）

●子育て（教育）の気軽な相談先の有無は、「いる/ある」が89.9%、「いない/ない」は10.0%となっている。

【子育ての気軽な相談先の有無】

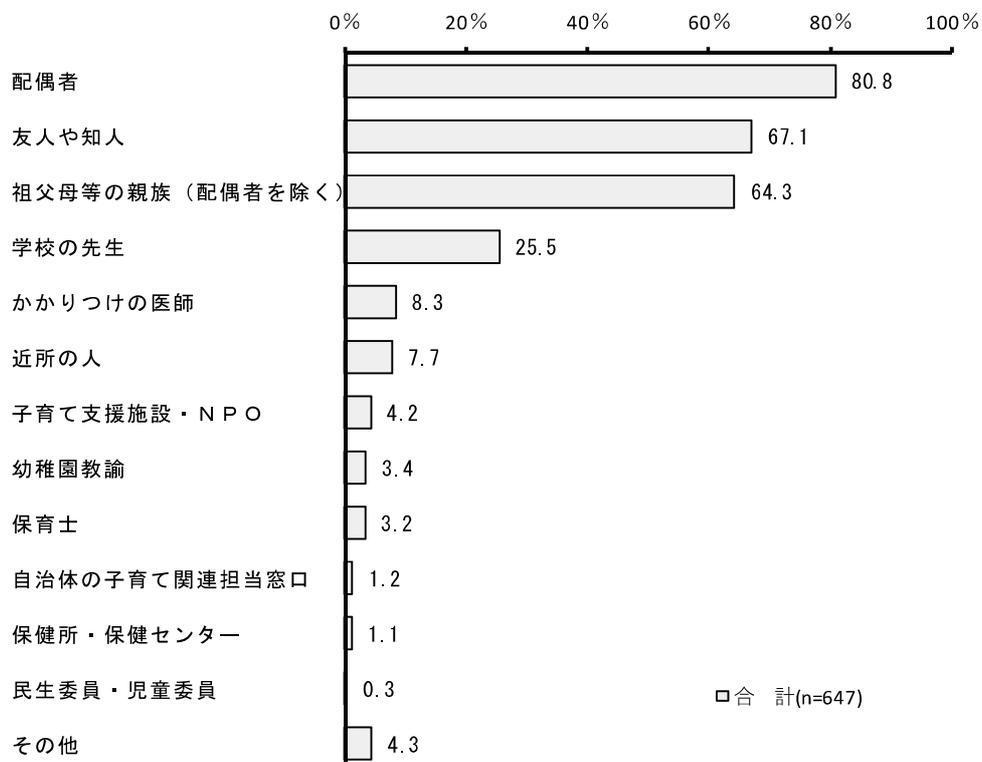


問8で「1. いる/ある」に○をつけた方にうかがいます。

問8-1 お子さんの子育て（教育を含む）に関して、気軽に相談できる先は、誰（どこ）ですか。（○はいくつでも）

●子育ての気軽な相談先は「配偶者」が80.8%と最も多い。以下「友人や知人」（67.1%）、「祖父母等の親族（配偶者を除く）」（64.3%）、「学校の先生」（25.5%）などとなっている。

【子育ての気軽な相談先の相手】



③周囲からのサポートで希望すること

問9 子育て（教育を含む）をする上で、周囲（身近な人、行政担当者など）からどのようなサポートがあればよいとお考えでしょうか。ご自由にお書きください。

主な意見

- 小学校に入ってから学童に通っているが、終わりが早いので、乳幼児の時の方が、サポートが手厚かったと感じている。
- 祝日に児童を預けられる場所があれば、もっと仕事をしやすいと思う。
- 親が病気の時に預けられる親族や友達がないので、緊急で預かってもらえる場があればと思う。宿泊や夜間までみてもらえる施設は未就学児までで、小学生低学年を見てもらえるところがない。
- 夏休み、冬休み、春休みなど、普段、学童を利用していない子供の預け先がほしい。
- 学校の長期休暇の時だけ、子供を預けられる場所を充実させてほしい。また、預かるだけでなく、長期休暇中だからこそできる様々な経験や体験ができるようなイベントを企画・開催してもらいたい。
- 学童保育を6年生までかつ、親の就業時間までみてもらいたい。
- 学校行事や面談時など、少しの間だけ預けられる場所が近くにあると母親的にはもの凄く気持ちが楽になると思う。
- 子供を気軽にみてもらえる環境づくりとして、学童の充実が必要である。学童で働く人の給料を増やし、多くの方が学童保育で働きたいという環境作りが必要である。
- 放課後等に宿題や勉強をみてもらえるような場があったら助かる。
- 習い事の送迎サポートをしてもらえたら通いやすくなる。
- 登下校のサポートや見守りを増やしてほしい。
- 重度の障害がある子供が利用できる放課後等デイサービスが増えてほしい。
- 子供の医療費を無料にしてほしい。
- 自分が子育てに困ったり、悩んだりした時にいつでも気兼ねなく相談ができるサポートがほしい。
- 就学前などわからないことが多々あり、就学前健診などで、なにを準備したらいいか、どういうサポートが必要なのかなどのお話があるといい。

3. お子さんの保護者の就労状況について

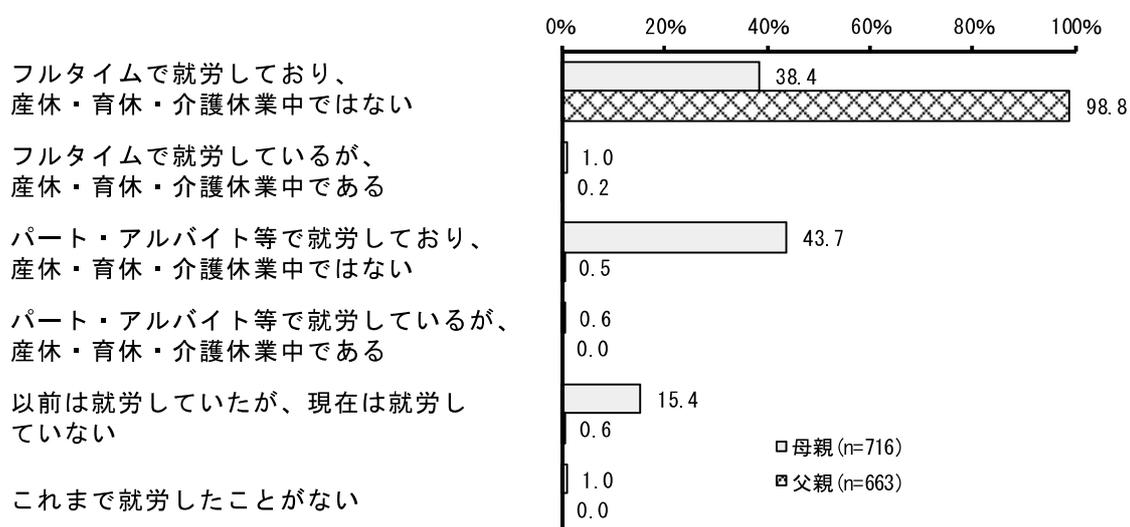
①保護者の就労状況

問10 宛名のお子さんの保護者の現在の就労状況（自営業、家族従事者（専従者）含む）をうかがいます。

母親：就労形態は「パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が43.7%と最も多い。以下、「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」（38.4%）、「以前は就労していたが、現在は就労していない」（15.4%）などとなっている。

父親：就労形態は「フルタイムで就労しており、産休・介護休業中ではない」が98.8%と最も多くなっている。

【就労形態】



問10-1で就労している方にうかがいます。

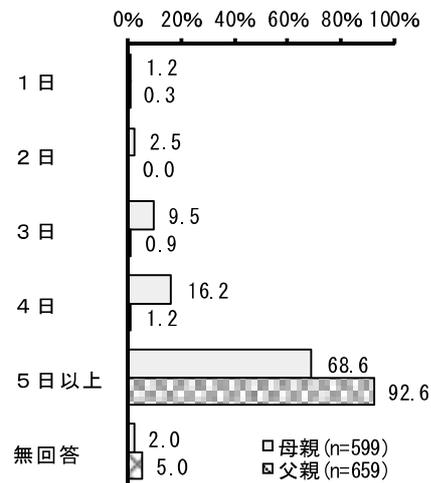
問10-1 1週当たりの「就労日数」、1日当たりの「就労時間（残業時間を含む）」をお答えください。

問10-2 家を出る時刻と帰宅時刻をお答えください。

母親：1週間当たりの就労日数は「5日以上」が68.6%と最も多い。以下、「4日」（16.2%）、「3日」（9.5%）などとなっている。1日当たりの就労時間は「8時間」が21.9%と最も多い。以下、「7時間」（17.2%）、「4時間」（16.7%）「6時間」（13.7%）などとなっている。家を出る時刻は「8時台」が40.2%と最も多く、僅差で「7時台」が38.6%、「9時台」は10.0%となっている。帰宅時間は「17時台」が22.9%と最も多く、僅差で「18時台」が22.2%となる。就労形態にパート・アルバイトの割合が高いためか、「12時台」（4.2%）から帰宅者が増えだしている。

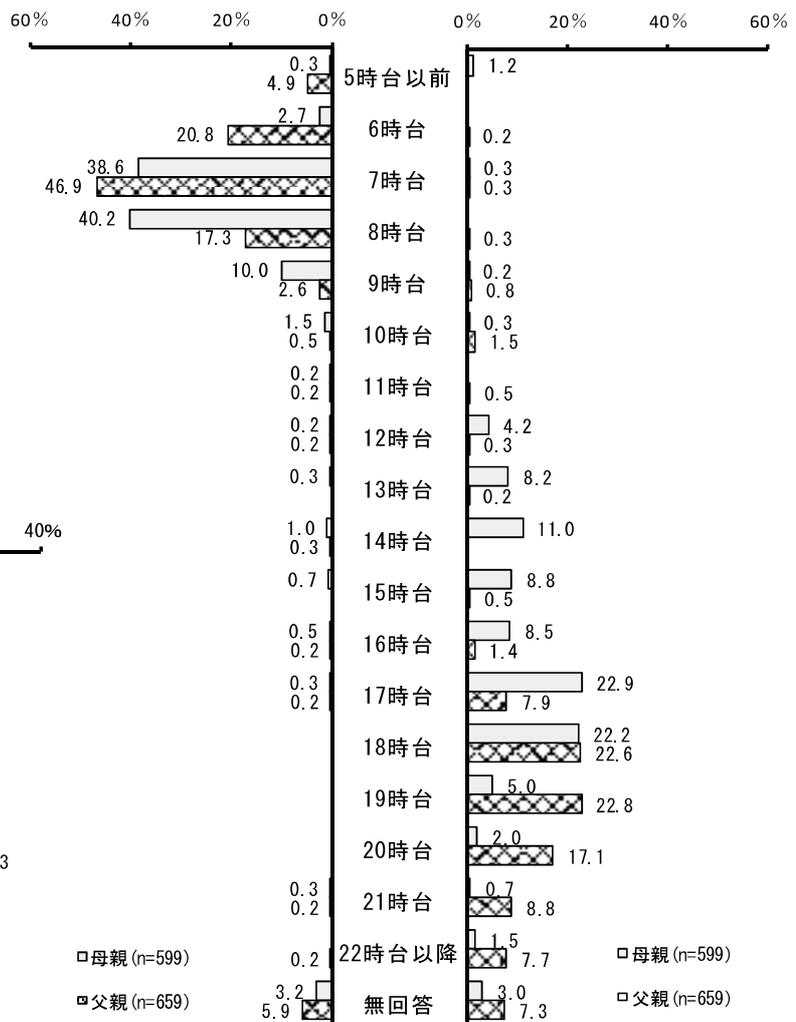
父親：就労形態でフルタイムが98.8%と高いため、1週間当たりの就労日数は「5日以上」が92.6%と最も多い。1日当たりの就労時間も「8時間」が30.3%と最も多い。以下、「10時間」（21.7%）、「9時間」（17.1%）などとなっている。家を出る時刻は「7時台」が46.9%と最も多い。以下、「6時台」（20.8%）、「8時台」（17.3%）などとなっている。帰宅時間は「19時台」が22.8%と最も多く、僅差で「18時台」が22.6%となっている。

【1週当たりの就労日数】

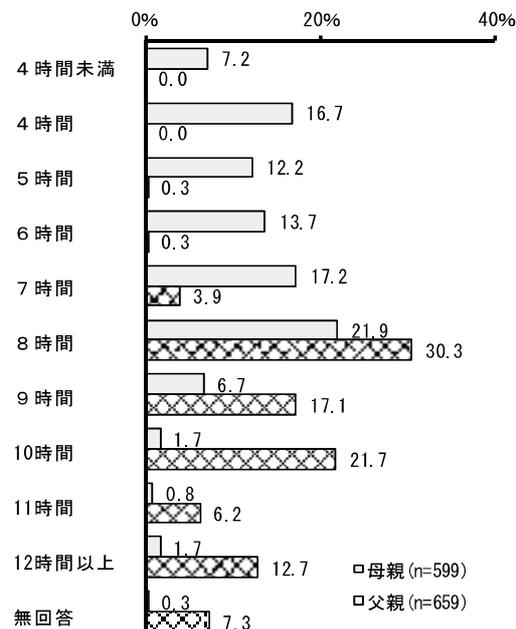


【家を出る時刻】

【帰宅時刻】



【1日当たりの就労時間】



0.0の数値は記載していない

②保護者（母親）の転換・就労希望

問10でパートタイム（「3、4」）に○をつけた方にうかがいます。

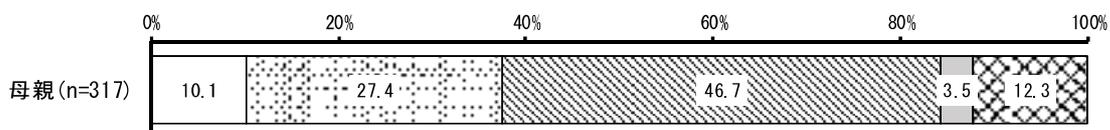
問11 フルタイムへの転換希望はありますか。（○は1つ）

フルタイム=1週5日程度・1日8時間程度の就労 パート・アルバイト等=「フルタイム」以外の就労

- 現在パート・アルバイトなどで働いている母親の転職希望は「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」が46.7%で最も多い。以下、「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」（27.4%）、「フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある」（10.1%）、「パート・アルバイト等をやめて子育てや家事に専念したい」（3.5%）の順となっている。

注）父親は該当する回答者が少ないので割愛した。

【パートタイムからフルタイムへの転換希望】



- フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある
- フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない
- パート・アルバイト等の就労を続けることを希望
- パート・アルバイト等をやめて子育てや家事に専念したい
- 無回答

問10で就労していない（「5、6」）に○をつけた方にうかがいます。

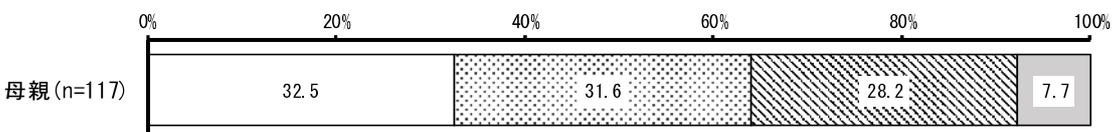
問12 就労したいという希望はありますか。（○は1つ）

問12で「2.一番下の子の年齢」に○をつけた方にうかがいます。

問12 就労活動を開始する段階の末子年齢は。

- 未就労者の就業希望は「子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）」が32.5%で最も多い。「1年より先、一番下の子供が適当な年齢になったところに就労したい」は31.6%、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」は28.2%であった。

【未就労者の就業希望】



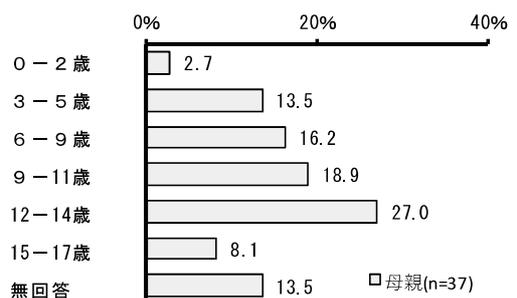
- 子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）
- すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい

- 1年より先、一番下の子供が適当な年齢になったところに就労したい
- 無回答

- 就業活動を始められる末子の年齢は、「3歳～5歳」（13.5%）から始まり、年齢が高くなるにつれて就業意識を持つ割合も多くなり、「12歳～14歳」では27.0%と最も多くなっている。

注）父親は該当する回答者が少ないので割愛した。

【就労希望時の末子の年齢】



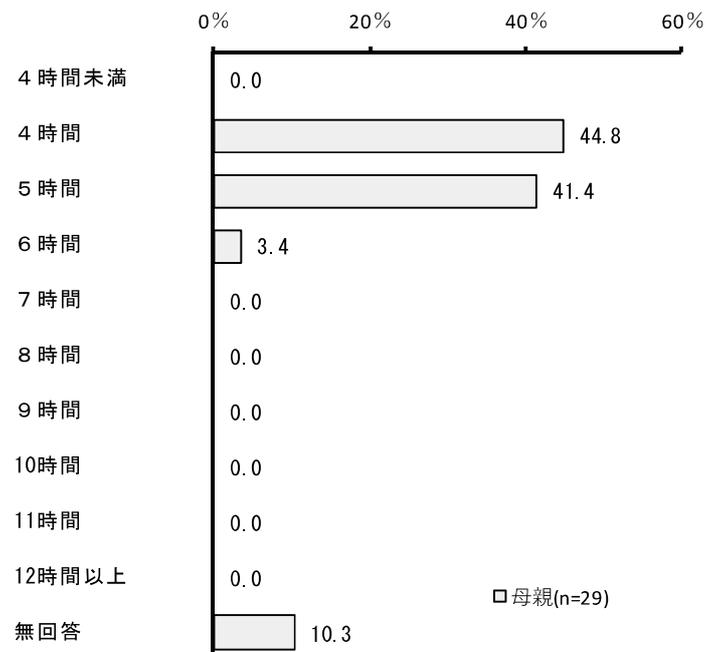
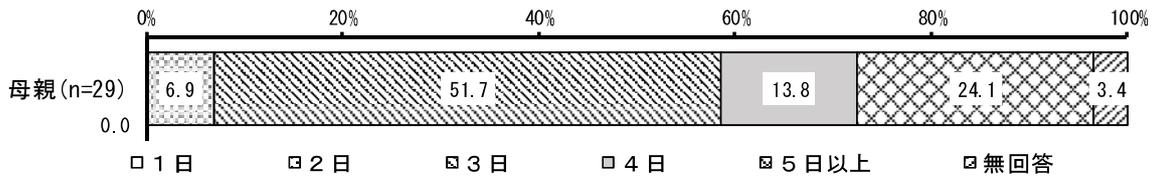
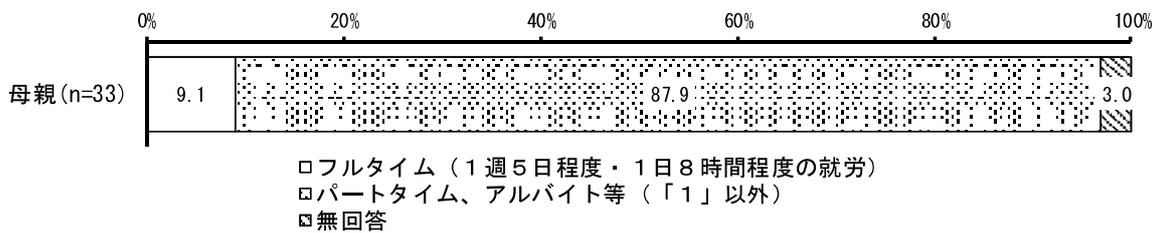
問12で、すぐにも、もしくは1年以内に就労したい（「3」）に○をつけた方にうかがいます。

問12-1 希望する就労形態を教えてください。

- 1年以内に就労したい人が希望する就業形態は「パート・アルバイト等」が87.9%で、「フルタイム」は9.1%である。
- パートタイム・アルバイト等の希望者就業内容は、就労日数が1週当たり「3日」が51.7%と最も多い。次いで「5日以上」が24.1%、「4日」（13.8%）などとなっている。1日当たりの就業時間は「4時間」が44.8%と最も多く、僅差で「5時間」が41.4%となっている。

注) 父親は該当する回答者が少ないので割愛した。

【未就労者の就業希望形態と内容】



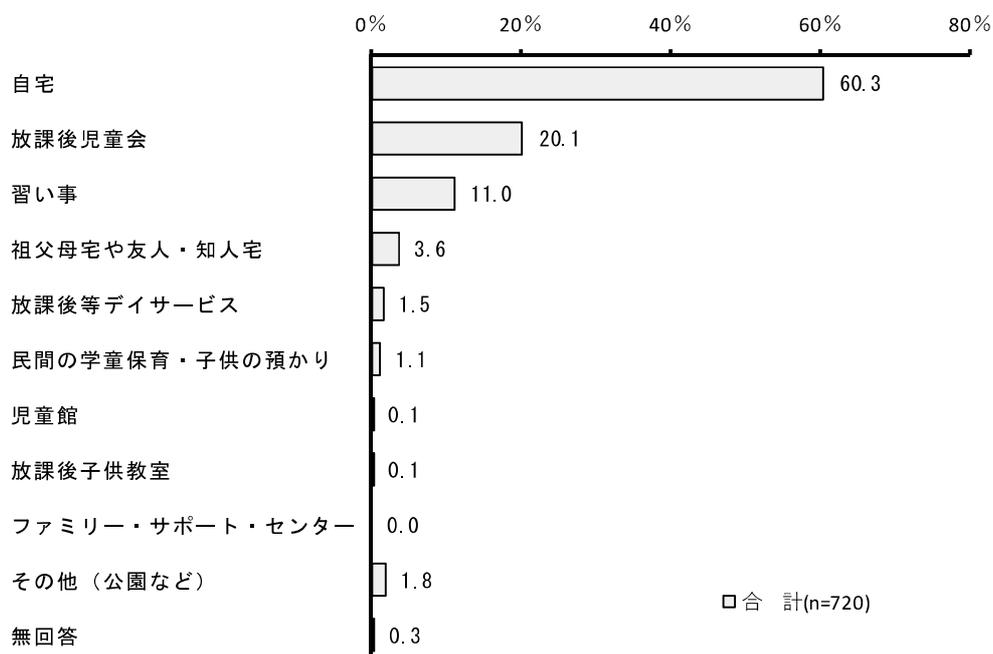
4. 放課後児童会について

①平日の放課後の過ごし方

問13 平日の放課後に宛名のお子さんほどどのように過ごしていますか。一番多いものをお答えください。(〇は1つ)

- 平日の放課後の過ごし方は「自宅」が60.3%と最も多い。以下、「放課後児童会」が20.1%、「習い事」が11.0%などとなっている。

【平日の放課後の子どもの過ごし方】



②放課後児童会利用者の利用状況

問13で「5. 放課後児童会」に○をつけた方にうかがいます。

問14 宛名のお子さんについて、市の開設している放課後児童会をどの程度利用していますか。(曜日別にそれぞれ○は1つ)

- 市の開設している放課後児童会利用者の平日の利用頻度は「週4日以上利用している」が85.5%で「週1～3日利用している」は14.5%である。
- 土曜日は「ほぼ毎週利用している」が6.2%で「月に1～2日利用している」の2.8%を合わせた9.0%が利用者の割合で、平日は利用しても土曜日は「利用していない」が91.0%となっている。
- 夏休みや冬休みなどの長期休暇期間は「ほぼ毎日利用している」が75.2%で「時々利用している」の18.6%を合わせた93.8%が利用者の割合で、「利用していない」は6.2%であった。

【市の開設している放課後児童会利用者の曜日別利用状況】

